

基本計画書

基本計画書									
事項		記入欄							備考
計画の区分		学部の設置							
フリガナ設置者		ガッコウホウジツ ショウショウガクエン 学校法人 常翔学園							
フリガナ大学の名称		セツナンダイガク 摂南大学（Setsunan University）							
大学本部の位置		大阪府寝屋川市池田中町17番8号							
大学の目的		摂南大学は、時代と地域の要請に基づき、深く専門の学術とその応用を教授研究するとともに、全人の育成を第一義として、人間力・実践力・統合力を養い、自らが課題を発見し、そして解決することができる知的専門職業人を育成し、もって社会の発展と学術・文化の向上をはかることを目的とする。							
新設学部等の目的		グローバル化・ボーダーレス化が進む世界における様々な課題について解決策を見出し、果敢に行動できる人材を育成する。世界の国や地域の歴史・地理・社会・文化などの基礎知識を基に、豊かな教養と広い視野を身につけ、多様な価値観を客観的に理解して判断・発信できるグローバルリテラシーを修得した、国際社会で活躍できる知的専門職業人を養成することを目的とする。							
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地	
	国際学部 【Faculty of International Studies】	年	人	年次人 3年次	人		年 月 第 年次	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	
	国際学科 【Department of International Studies】	4	250	5	1,010	学士(文学) [Bachelor of Arts]	令和4年4月 第1年次 令和6年4月 第3年次		
	計		250	3年次 5	1,010				
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		摂南大学 国際学部 国際学科 [定員増] (250) (3年次編入学定員) (5) (令和3年3月認可申請) 外国語学部 (廃止) 外国語学科 (△220) (3年次編入学定員) (△5) ※令和4年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止) 経営学部 経営学科 [定員増] (110) (3年次編入学定員) (2) (令和3年3月認可申請) 経営情報学科 (廃止) (△100) (3年次編入学定員) (△4) ※令和4年4月学生募集停止 (3年次編入学定員は令和6年4月学生募集停止)							
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数		
	国際学部 国際学科	講義	演習	実習	計	246科目			

学部等の名称		専任教員等						兼任 教員等
		教授	准教授	講師	助教	計	助手	
新設分		人	人	人	人	人	人	人
		国際学部 国際学科	14 (14)	10 (10)	13 (13)	0 (0)	37 (37)	0 (0)
	計	14 (14)	10 (10)	13 (13)	0 (0)	37 (37)	0 (0)	— (—)
既設分	理工学部 生命科学科	8 (8)	2 (2)	4 (4)	2 (2)	16 (16)	0 (0)	145 (145)
	住環境デザイン学科	5 (5)	6 (6)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	229 (229)
	建築学科	7 (7)	2 (2)	2 (2)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	206 (206)
	機械工学科	6 (6)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	208 (208)
	電気電子工学科	8 (8)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	13 (13)	0 (0)	193 (193)
	都市環境工学科	5 (5)	6 (6)	0 (0)	0 (0)	11 (11)	0 (0)	197 (197)
	基礎理工学機構	2 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	3 (3)	0 (0)	0 (0)
	経営学部 経営学科	11 (11)	12 (12)	3 (3)	0 (0)	26 (26)	0 (0)	128 (128)
	薬学部 薬学科	20 (20)	16 (16)	17 (17)	16 (16)	69 (69)	3 (3)	102 (102)
	法学部 法律学科	10 (10)	7 (7)	4 (4)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	145 (145)
	経済学部 経済学科	10 (10)	8 (8)	3 (3)	0 (0)	21 (21)	0 (0)	125 (125)
	看護学部 看護学科	12 (12)	5 (5)	8 (8)	13 (13)	38 (38)	0 (0)	102 (102)
	農学部 農業生産学科	7 (7)	1 (1)	4 (4)	3 (3)	15 (15)	0 (0)	72 (52)
	応用生物科学科	5 (5)	3 (3)	4 (4)	2 (2)	14 (14)	1 (1)	70 (51)
	食品栄養学科	10 (10)	4 (4)	2 (2)	2 (2)	18 (18)	4 (4)	76 (55)
	食農ビジネス学科	7 (7)	4 (4)	1 (1)	0 (0)	12 (12)	0 (0)	66 (49)
	教務部 ラーニングセンター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	5 (5)
	教育イノベーションセンター	1 (1)	1 (1)	2 (2)	0 (0)	4 (4)	0 (0)	0 (0)
	学生部 スポーツ振興センター	1 (1)	2 (2)	1 (1)	1 (1)	5 (5)	0 (0)	0 (0)
	グローバル教育センター	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	4 (4)
学長付	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	
	計	136 (136)	87 (87)	61 (61)	39 (39)	323 (323)	8 (8)	— (—)
	合計	150 (150)	97 (97)	74 (74)	39 (39)	360 (360)	8 (8)	— (—)

教員以外の職員 の概要	職 種		専 任	兼 任	計					
			人	人	人					
	事 務 職 員		154 (154)	50 (50)	204 (204)					
	技 術 職 員		12 (12)	0 (0)	12 (12)					
	図 書 館 専 門 職 員		4 (4)	18 (18)	22 (22)					
	そ の 他 の 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
計		170 (170)	68 (68)	238 (238)						
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	校 舎 敷 地	151,385.54㎡	0㎡	0㎡	151,385.54㎡					
	運 動 場 用 地	147,400.85㎡	0㎡	0㎡	147,400.85㎡					
	小 計	298,786.39㎡	0㎡	0㎡	298,786.39㎡					
	そ の 他	17,352.60㎡	0㎡	0㎡	17,352.60㎡					
合 計		316,138.99㎡	0㎡	0㎡	316,138.99㎡					
校 舎	専 用		共 用	共用する他の 学校等の専用	計					
	130,603.79㎡ (130,603.79㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	130,603.79㎡ (130,603.79㎡)					
教 室 等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理 学習施設	語学学習施設	大学全体				
	72室	99室	105室	15室 (補助職員6人)	34室 (補助職員5人)					
専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数						
	国際学部 国際学科			40室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体での共用分 ・図書 398,145冊 〔104,921冊〕 ・学術雑誌 3,920種 〔2,438種〕 ・視聴覚資料 11,307点		
	国際学部 国際学科	139,936〔35,457〕 (139,936〔35,457〕)	864〔588〕 (864〔588〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	5,128 (5,128)	858 (858)	0 (0)			
	計	139,936〔35,457〕 (139,936〔35,457〕)	864〔588〕 (864〔588〕)	3〔3〕 (3〔3〕)	5,128 (5,128)	858 (858)	0 (0)			
図 書 館	面 積	閲覧座席数		収納可能冊数						
	8,230.45㎡	1,163		635,945			大学全体			
体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	7,401.43㎡	該当なし								
経費の見積り 及び維持方法 の概要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	届出学部全体
		教員1人当り研究費等		862千円	873千円	883千円	894千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		280千円	280千円	280千円	280千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	4,063千円	4,063千円	4,063千円	4,063千円	4,063千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	2,739千円	2,739千円	2,739千円	2,739千円	2,739千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
1,280千円		1,130千円	1,130千円	1,130千円	— 千円	— 千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入等							

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	薬学研究科 博士課程						0.75		
	医療薬学専攻	4	4	—	16	博士 (薬学)	0.75	平成24年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号
	理工学研究科 博士前期課程						0.76		
	社会開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	0.91	平成元年度	大阪府寝屋川市 池田中町17番8号
	生産開発工学専攻	2	12	—	24	修士 (工学)	0.66	平成26年度	同上
	生命科学専攻	2	10	—	20	修士 (理学)	0.70	平成26年度	同上
	理工学研究科 博士後期課程						0.33		
	創生工学専攻	3	2	—	6	博士 (工学)	0.00	平成20年度	同上
	生命科学専攻	3	2	—	6	博士 (理学)	0.66	平成28年度	同上
	経済経営学研究科 修士課程						0.05		
	経済学専攻	2	5	—	10	修士 (経済学)	0.00	平成26年度	同上
	経営学専攻	2	5	—	10	修士 (経営学)	0.10	平成26年度	同上
	法学研究科 修士課程						0.50		
	法律学専攻	2	5	—	10	修士 (法学)	0.50	平成9年度	同上
	国際言語文化研究科 修士課程						0.20		
	国際言語文化専攻	2	5	—	10	修士 (文学)	0.20	平成11年度	同上
	看護学研究科 修士課程						0.75		
	看護学専攻	2	6	—	12	修士 (看護学)	0.75	平成28年度	大阪府枚方市 長尾峠町45番1号

既設大学等の状況	大学の名称	摂南大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍	年度		
	理工学部						1.02			
	生命科学科	4	105	3年次5	385	学士(理学)	1.03	平成22年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和3年度入学定員増(15人)
	住環境デザイン学科	4	85	3年次5	305	学士(工学)	1.00	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増(15人)
	建築学科	4	80	3年次5	300	学士(工学)	1.05	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(10人)
	機械工学科	4	130	3年次5	470	学士(工学)	1.01	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(20人)
	電気電子工学科	4	105	3年次5	385	学士(工学)	1.04	昭和50年度	同上	令和3年度入学定員増(15人)
	都市環境工学科	4	80	3年次5	300	学士(工学)	1.01	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増(10人)
	外国語学部						1.06			
	外国語学科	4	220	3年次5	890	学士(文学)	1.06	昭和57年度	同上	
	経営学部						1.07			
	経営学科	4	170	3年次4	688	学士(経営学)	1.07	平成18年度	同上	
	経営情報学科	4	100	3年次4	408	学士(経営学)	1.09	昭和57年度	同上	
	薬学部						1.03			
	薬学科(6年制)	6	220	—	1,320	学士(薬学)	1.03	平成18年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
	法学部						1.04			
	法律学科	4	280	3年次5	1,040	学士(法学)	1.04	昭和63年度	大阪府寝屋川市池田中町17番8号	令和3年度入学定員増(30人)
	経済学部						1.05			
	経済学科	4	280	3年次4	1,038	学士(経済学)	1.05	平成22年度	同上	令和3年度入学定員増(30人)
	看護学部						1.03			
	看護学科	4	100	—	400	学士(看護学)	1.03	平成24年度	大阪府枚方市長尾峠町45番1号	
	農学部						0.95			令和2年度学部設置
	農業生産学科	4	80	—	160	学士(農学)	0.98	令和2年度	同上	
	応用生物科学科	4	80	—	160	学士(農学)	0.96	令和2年度	同上	
	食品栄養学科	4	80	—	160	学士(農学)	0.90	令和2年度	同上	
	食農ビジネス学科	4	100	—	200	学士(農学)	0.97	令和2年度	同上	

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学大学院								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
	工学研究科 博士前期課程	年	人	年次人	人		1.12			
	建築・都市デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	0.88	平成29年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	
	電気電子・機械工学専攻	2	50	—	100	修士(工学)	1.20	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	1.23	平成29年度	同上	
	工学研究科 博士後期課程						0.88		同上	
	都市デザイン工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	昭和42年度	同上	平成29年度学生募集停止
	生体医工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	平成19年度	同上	平成29年度学生募集停止
	電気電子工学専攻	3	—	—	—	博士(工学)	—	昭和42年度	同上	平成29年度学生募集停止
	建築・都市デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	0.66	平成29年度	同上	
	電気電子・機械工学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	1.00	平成29年度	同上	
	化学・環境・生命工学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	1.00	平成29年度	同上	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士前期課程						1.18		同上	
	ロボティクス&デザイン工学専攻	2	30	—	60	修士(工学)	1.18	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号	
	ロボティクス&デザイン工学研究科 博士後期課程						0.16			
	ロボティクス&デザイン工学専攻	3	2	—	6	博士(工学)	0.16	平成29年度	同上	
	情報科学研究科 博士前期課程						1.02			
	情報科学専攻	2	40	—	80	修士(情報学)	1.02	平成12年度	大阪府枚方市北山一丁目79番1号	
	情報科学研究科 博士後期課程						0.00			
	情報科学専攻	3	5	—	15	博士(情報学)	0.00	平成14年度	同上	
	知的財産研究科 専門職学位課程						1.11			
	知的財産専攻	2	30	—	60	知的財産修士(専門職)	1.11	平成17年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	大阪工業大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地	
		年	人	年次人	人		倍			
	工学部						1.01			
	都市デザイン工学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.01	昭和24年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	
	空間デザイン学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成18年度	同上	平成29年度学生募集停止 平成31年度3年次編入学募集停止
	建築学科	4	150	3年次5	610	学士(工学)	1.02	昭和24年度	同上	
	機械工学科	4	140	3年次5	570	学士(工学)	0.98	昭和25年度	同上	
	ロボット工学科	4	—	—	—	学士(工学)	—	平成22年度	同上	平成29年度学生募集停止 平成31年度3年次編入学募集停止
	電気電子システム工学科	4	125	3年次5	510	学士(工学)	1.01	昭和24年度	同上	
	電子情報システム工学科	4	110	3年次5	450	学士(工学)	1.05	昭和34年度	同上	平成31年度から名称変更 電子情報通信工学科→ 電子情報システム工学科
	応用化学科	4	130	3年次5	530	学士(工学)	0.99	昭和33年度	同上	
	環境工学科	4	75	3年次5	310	学士(工学)	1.03	平成18年度	同上	
	生命工学科	4	70	3年次5	290	学士(工学)	1.00	平成22年度	同上	
	ロボティクス&デザイン工学部						1.04			
	ロボット工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.02	平成29年度	大阪府大阪市北区茶屋町1番45号	
	システムデザイン工学科	4	90	3年次5	370	学士(工学)	1.07	平成29年度	同上	
	空間デザイン学科	4	100	3年次5	410	学士(工学)	1.03	平成29年度	同上	
	情報科学部						1.00			
	データサイエンス学科	4	70	—	70	学士(情報学)	—	令和3年度	大阪府枚方市北山一丁目79番1号	令和3年度学科設置
	情報知能学科	4	90	3年次5	415	学士(情報学)	0.97	平成8年度	同上	平成31年度から名称変更 コンピュータ科学科→ 情報知能学科 令和3年度入学定員減 (△15人)
	情報システム学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	0.98	平成8年度	同上	
	情報メディア学科	4	105	3年次5	430	学士(情報学)	1.02	平成14年度	同上	
	ネットワークデザイン学科	4	90	3年次5	415	学士(情報学)	1.02	平成19年度	同上	平成31年度から名称変更 情報ネットワーク学科→ ネットワークデザイン学科 令和3年度入学定員減 (△15人)
	知的財産学部						1.06			
	知的財産学科	4	140	3年次10	580	学士(知的財産学)	1.06	平成15年度	大阪府大阪市旭区大宮五丁目16番1号	

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学大学院							
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
		年	人	年次人	人		倍	年度	
	看護学研究科 博士前期課程						0.00		
	看護学専攻	2	10	—	20	修士 (看護学)	0.00	平成15年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号
	看護学研究科 博士後期課程						0.00		
	看護学専攻	3	3	—	9	博士 (看護学)	0.00	平成24年度	同上
	医療・福祉科学研究科 博士前期課程						1.30		
	医療工学専攻	2	10	—	20	修士 (医療工学)	1.30	平成21年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36
	医療・福祉科学研究科 博士後期課程						0.66		
	医療工学専攻	3	2	—	6	博士 (医療工学)	0.66	平成21年度	同上
	医療・福祉科学研究科 修士課程						0.30		
	医療福祉学専攻	2	5	—	10	修士 (医療福祉学)	0.30	平成21年度	同上
	医療経営学専攻	2	5	—	10	修士 (医療経営学)	0.30	平成21年度	同上
	心理科学研究科 博士後期課程						0.00		
	臨床心理学専攻	3	2	—	6	博士 (臨床心理学)	0.00	平成21年度	同上
	心理科学研究科 専門職学位課程						0.65		
	実践臨床心理学専攻	2	20	—	40	臨床心理修士 (専門職)	0.65	平成21年度	広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号
	薬学研究科 博士課程						0.62		
	医療薬学専攻	4	2	—	8	博士 (薬学)	0.62	平成24年度	同上

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学								所在地	
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開年度	設年度		
	保健医療学部	年	人	年次人	人		倍	年度	年度		
	診療放射線学科	4	70	—	280	学士 (診療放射線学)	1.11	平成10年度		広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36	
	医療技術学科 臨床工学専攻 臨床検査学専攻	4	100	—	460	学士 (臨床工学) (臨床検査学)	0.99	平成25年度		同上	令和2年度入学定員減 (△30人)
	救急救命学科	4	50	—	100	学士 (救急救命学)	1.22	令和2年度		同上	令和2年度学科設置
	総合リハビリテーション学部						1.07				
	リハビリテーション学科 理学療法専攻 作業療法専攻 言語聴覚療法専攻 義肢装具学専攻	4	180	—	620	学士 (理学療法) (作業療法) (言語聴覚療法) (義肢装具学)	1.12	平成25年度		同上	令和2年度入学定員増 (50人) (義肢装具学専攻をリ ハビリテーション 支援学科から移行)
	リハビリテーション支援学科 義肢装具学専攻	4	—	—	—	学士 (義肢装具学)	—	平成25年度		同上	令和2年度学生募集停止
	医療福祉学部						—				
	医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育学専攻	4	—	—	—	学士 (医療福祉学)	—	平成10年度		同上	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学 募集停止
	医療経営学部						—				
	医療経営学科	4	—	—	—	学士 (医療経営学)	—	平成23年度		同上	令和2年度学生募集停止
	心理科学部						—				
	臨床心理学科	4	—	—	—	学士 (臨床心理学)	—	平成13年度		同上	平成27年度学生募集停止 平成29年度3年次編入学 募集停止
	心理学部						—				
	心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	平成27年度		同上	令和2年度学生募集停止 令和4年度3年次編入学 募集停止
	看護学部						1.05				
	看護学科	4	120	3年次 10	500	学士 (看護学)	1.05	平成15年度		広島県呉市 広古新開五丁目 1番1号	
	薬学部						0.84				
	薬学科(6年制)	6	120	—	720	学士 (薬学)	0.84	平成18年度		同上	
	医療栄養学部						—				
	医療栄養学科	4	—	—	—	学士 (医療栄養学)	—	平成26年度		同上	令和2年度学生募集停止

既設大学等の状況	大学の名称	広島国際大学									
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は学称号	定員超過率	開設年度	所在地		
既設大学等の状況	健康科学部						0.76			令和2年度学部設置	
	医療福祉学科 医療福祉学専攻 介護福祉学専攻 保育福祉学専攻	4年	100人	—	200人	学士 (医療福祉学)	0.49	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36		
	医療経営学科	4	90	—	180	学士 (医療経営学)	0.83	令和2年度	同上		
	心理学科	4	100	—	200	学士 (心理学)	0.83	令和2年度	同上		
	医療栄養学科	4	60	—	120	学士 (医療栄養学)	1.01	令和2年度	広島県呉市 広古新開 五丁目1番1号		
	健康スポーツ学部						1.08				令和2年度学部設置
	健康スポーツ学科	4	70	—	140	博士 (健康スポーツ学)	1.08	令和2年度	広島県東広島市 黒瀬学園台 555番地36		
附属施設の概要	<p>名称：テクノセンター 目的：工学分野教育 所在地：大阪府寝屋川市池田中町17番8号 設置年月：平成11年4月 規模等：面積691.81㎡</p>										
	<p>名称：薬用植物園 目的：薬学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山西ノ口1番 設置年月：昭和57年4月 規模等：面積1,720.00㎡</p>										
	<p>名称：臨床薬学教育研究センター 目的：薬学分野教育 所在地：大阪府枚方市長尾峠町45番1号 設置年月：平成20年4月 規模等：面積1,584.59㎡</p>										
	<p>名称：農場 目的：農学分野教育 所在地：京都府八幡市美濃山一ノ谷1番 設置年月：平成32年4月 規模等：面積15,632.60㎡</p>										

学校法人常翔学園 設置認可等に関わる組織の移行表

令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
摂南大学				摂南大学				
理工学部	585	30	2,400	理工学部	585	30	2,400	
生命科学科	105	5	430	生命科学科	105	5	430	
住環境デザイン学科	85	5	350	住環境デザイン学科	85	5	350	
建築学科	80	5	330	建築学科	80	5	330	
機械工学科	130	5	530	機械工学科	130	5	530	
電気電子工学科	105	5	430	電気電子工学科	105	5	430	
都市環境工学科	80	5	330	都市環境工学科	80	5	330	
外国語学部	220	5	890		0	0	0	令和4年4月学生募集停止
外国語学科	220	5	890		0	0	0	
経営学部	270	8	1,096	経営学部	280	6	1,132	
経営学科	170	4	688	経営学科	280	6	1,132	定員変更(110) 編入学定員変更(2)
経営情報学科	100	4	408		0	0	0	令和4年4月学生募集停止
薬学部	220	-	1,320	薬学部	220	-	1,320	
薬学科	220	-	1,320	薬学科	220	-	1,320	
法学部	280	5	1,130	法学部	280	5	1,130	
法律学科	280	5	1,130	法律学科	280	5	1,130	
経済学部	280	4	1,128	経済学部	280	4	1,128	
経済学科	280	4	1,128	経済学科	280	4	1,128	
看護学部	100	-	400	看護学部	100	-	400	
看護学科	100	-	400	看護学科	100	-	400	
農学部	340	-	1,360	農学部	340	-	1,360	
農業生産学科	80	-	320	農業生産学科	80	-	320	
応用生物科学科	80	-	320	応用生物科学科	80	-	320	
食品栄養学科	80	-	320	食品栄養学科	80	-	320	
食農ビジネス学科	100	-	400	食農ビジネス学科	100	-	400	
				国際学部	250	5	1,010	学部の新設置(届出)
				国際学科	250	5	1,010	
計	2,295	52	9,724	計	2,335	50	9,880	
摂南大学大学院				摂南大学大学院				
薬学研究科	4	-	16	薬学研究科	4	-	16	
医療薬学専攻(D)	4	-	16	医療薬学専攻(D)	4	-	16	
理工学研究科	38	-	80	理工学研究科	38	-	80	
社会開発工学専攻(M)	12	-	24	社会開発工学専攻(M)	12	-	24	
生産開発工学専攻(M)	12	-	24	生産開発工学専攻(M)	12	-	24	
生命科学専攻(M)	10	-	20	生命科学専攻(M)	10	-	20	
創生工学専攻(D)	2	-	6	創生工学専攻(D)	2	-	6	
生命科学専攻(D)	2	-	6	生命科学専攻(D)	2	-	6	
経済経営学研究科	10	-	20	経済経営学研究科	10	-	20	
経済学専攻(M)	5	-	10	経済学専攻(M)	5	-	10	
経営学専攻(M)	5	-	10	経営学専攻(M)	5	-	10	
法学研究科	5	-	10	法学研究科	5	-	10	
法律学専攻(M)	5	-	10	法律学専攻(M)	5	-	10	
国際言語文化研究科	5	-	10	国際言語文化研究科	5	-	10	
国際言語文化専攻(M)	5	-	10	国際言語文化専攻(M)	5	-	10	
看護学研究科	6	-	12	看護学研究科	6	-	12	
看護学専攻(M)	6	-	12	看護学専攻(M)	6	-	12	
計	68	-	148	計	68	-	148	

令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学				大阪工業大学				
工学部	900	40	3,680	工学部	900	40	3,680	
都市デザイン工学科	100	5	410	都市デザイン工学科	100	5	410	
建築学科	150	5	610	建築学科	150	5	610	
機械工学科	140	5	570	機械工学科	140	5	570	
電気電子システム工学科	125	5	510	電気電子システム工学科	125	5	510	
電子情報システム工学科	110	5	450	電子情報システム工学科	110	5	450	
応用化学科	130	5	530	応用化学科	130	5	530	
環境工学科	75	5	310	環境工学科	75	5	310	
生命工学科	70	5	290	生命工学科	70	5	290	
ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	ロボティクス&デザイン工学部	280	15	1,150	
ロボット工学科	90	5	370	ロボット工学科	90	5	370	
システムデザイン工学科	90	5	370	システムデザイン工学科	90	5	370	
空間デザイン学科	100	5	410	空間デザイン学科	100	5	410	
情報科学部	460	20	1,880	情報科学部	460	20	1,880	
データサイエンス学科	70	-	280	データサイエンス学科	70	-	280	
情報知能学科	90	5	370	情報知能学科	90	5	370	
情報システム学科	105	5	430	情報システム学科	105	5	430	
情報メディア学科	105	5	430	情報メディア学科	105	5	430	
ネットワークデザイン学科	90	5	370	ネットワークデザイン学科	90	5	370	
知的財産学部	140	10	580	知的財産学部	140	10	580	
知的財産学科	140	10	580	知的財産学科	140	10	580	
計	1,780	85	7,290	計	1,780	85	7,290	

令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員(完成年度)	変更の事由
大阪工業大学大学院				大阪工業大学大学院				
工学研究科	116	-	238	工学研究科	116	-	238	
建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	建築・都市デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	
建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	建築・都市デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	
電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	100	電気電子・機械工学専攻 (M)	50	-	100	
電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	6	電気電子・機械工学専攻 (D)	2	-	6	
化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	60	化学・環境・生命工学専攻 (M)	30	-	60	
化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	6	化学・環境・生命工学専攻 (D)	2	-	6	
ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	ロボティクス&デザイン工学研究科	32	-	66	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	ロボティクス&デザイン工学専攻 (M)	30	-	60	
ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	ロボティクス&デザイン工学専攻 (D)	2	-	6	
情報科学研究科	45	-	95	情報科学研究科	45	-	95	
情報科学専攻 (M)	40	-	80	情報科学専攻 (M)	40	-	80	
情報科学専攻 (D)	5	-	15	情報科学専攻 (D)	5	-	15	
知的財産研究科	30	-	60	知的財産研究科	30	-	60	
知的財産専攻 (P)	30	-	60	知的財産専攻 (P)	30	-	60	
計	223	-	459	計	223	-	459	

令和3年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	令和4年度	入学定員	3年次編入学定員	収容定員 (完成年度)	変更の事由
広島国際大学				広島国際大学				
保健医療学部	220	-	880	保健医療学部	220	-	880	
診療放射線学科	70	-	280	診療放射線学科	70	-	280	
医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	医療技術学科 (臨床工学専攻) (臨床検査学専攻)	100	-	400	
救急救命学科	50	-	200	救急救命学科	50	-	200	
総合リハビリテーション学部	180	-	720	総合リハビリテーション学部	180	-	720	
リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	リハビリテーション学科 (理学療法学専攻) (作業療法学専攻) (言語聴覚療法学専攻) (義肢装具学専攻)	180	-	720	
看護学部	120	10	500	看護学部	120	10	500	
看護学科	120	10	500	看護学科	120	10	500	
薬学部	120	-	720	薬学部	120	-	720	
薬学科	120	-	720	薬学科	120	-	720	
健康科学部	350	-	1,400	健康科学部	350	-	1,400	
医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	医療福祉学科 (医療福祉学専攻) (介護福祉学専攻) (保育福祉学専攻)	100	-	400	
医療経営学科	90	-	360	医療経営学科	90	-	360	
心理学科	100	-	400	心理学科	100	-	400	
医療栄養学科	60	-	240	医療栄養学科	60	-	240	
健康スポーツ学部	70	-	280	健康スポーツ学部	70	-	280	
健康スポーツ学科	70	-	280	健康スポーツ学科	70	-	280	
計	1,060	10	4,500	計	1,060	10	4,500	

広島国際大学大学院			
看護学研究科	13	-	29
看護学専攻 (M)	10	-	20
看護学専攻 (D)	3	-	9
医療・福祉科学研究科	22	-	46
医療工学専攻 (M)	10	-	20
医療工学専攻 (D)	2	-	6
医療福祉学専攻 (M)	5	-	10
医療経営学専攻 (M)	5	-	10
心理科学研究科	22	-	46
臨床心理学専攻 (D)	2	-	6
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40
薬学研究科	2	-	8
医療薬学専攻 (D)	2	-	8
計	59	-	129

広島国際大学大学院			
看護学研究科	13	-	29
看護学専攻 (M)	10	-	20
看護学専攻 (D)	3	-	9
医療・福祉科学研究科	22	-	46
医療工学専攻 (M)	10	-	20
医療工学専攻 (D)	2	-	6
医療福祉学専攻 (M)	5	-	10
医療経営学専攻 (M)	5	-	10
心理科学研究科	22	-	46
臨床心理学専攻 (D)	2	-	6
実践臨床心理学専攻 (P)	20	-	40
薬学研究科	2	-	8
医療薬学専攻 (D)	2	-	8
計	59	-	129

教育課程等の概要

(国際学部 国際学科)

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必	選	自	講	演	実	教	准	講	助	助				
			修	択	由	義	習	験・実習	授	授	師	教	手				
専門科目	文化構想領域 プロジェクト科目	表象と感性プロジェクト	2前	2		○					1					※演習	
		歴史学プロジェクト	2前	2		○				1						※演習	
		地理学プロジェクト	2前	2		○					1					※演習	
		比較文化プロジェクト	2前	2		○				1						※演習	
		人間存在論プロジェクト	2前	2		○				1						※演習	
		都市と周縁プロジェクト	2前	2		○				1						※演習	
		国際社会と日本語プロジェクト	2前	2		○				1						※演習	
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			4	1	2	0	0	0	—		
	基幹科目	表象文化論	2前	2		○					1						
		地域と歴史	2前	2		○				1							
		環境と社会	2前	2		○					1						
		思想と文化	2前	2		○				1							
		テクノロジーと人間	2前	2		○				1							
		異文化の理解	2前	2		○				1							
		多文化社会と日本語	2前	2		○									兼1		
	小計(7科目)	—	0	14	0	—			3	1	2	0	0	兼1	—		
	接続科目	英語圏異文化交流論	2前	2		○						1					
		英語圏比較文化論	2前	2		○				1							
		中国語と生活文化	2前	2		○				1							
		中国語圏の言語文化	2前	2		○				1							
		スペインの言語と文化	2前	2		○						1					
		ラテンアメリカの言語と文化	2前	2		○				1							
		インドネシア語と生活文化	2前	2		○					1						
		インドネシア語と現代文化	2前	2		○				1							
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			5	1	2	0	0	0	—		
	国際共生領域	プロジェクト科目	地域研究プロジェクト(英語と諸地域)	2後	2		○					2					※演習
			地域研究プロジェクト(東アジア世界)	2後	2		○					1					※演習
地域研究プロジェクト(スペイン語と諸地域)			2後	2		○					1					※演習	
地域研究プロジェクト(東南アジア世界)			2後	2		○				1						※演習	
海外特別プロジェクトI			2後	2		○				2	1					※オムニバス、演習、メディア	
小計(5科目)		—	0	10	0	—			5	2	1	0	0	0	—		
基幹科目		グローバルスタディーズ(英語と諸地域)	2後	2		○					2						
		グローバルスタディーズ(東アジア世界)	2後	2		○				1							
		グローバルスタディーズ(スペイン語と諸地域)	2後	2		○					1						
		グローバルスタディーズ(東南アジア世界)	2後	2		○				1							
小計(4科目)	—	0	8	0	—			2	0	3	0	0	0	—			
接続科目	英語で考える環境問題	2後	2		○									兼1			
	英語で考える社会問題	2後	2		○									兼1			
	中国語を通して見る世界	2後	2		○									兼1			
	中国語圏の地域と共生	2後	2		○				1								
	スペインから世界を見る	2後	2		○						1						
	ラテンアメリカから世界を見る	2後	2		○				1								
	インドネシア語で世界を知る	2後	2		○					1							
	マレー語圏の地域を知る	2後	2		○				1								
小計(8科目)	—	0	16	0	—			3	1	1	0	0	兼2	—			
社会協創領域	トプロジェクト	言語コミュニケーションプロジェクト	3前	2		○					1					※演習	
		メディアと現代社会プロジェクト	3前	2		○					1					※演習	
		マイノリティ研究プロジェクト	3前	2		○				1						※演習	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	社会協創領域 プロジェクト科目	地域研究・国際政治プロジェクト	3前	2		○				1						※演習
		地域とビジネスプロジェクト	3前	2		○				1						※演習
		国際貢献・ボランティアプロジェクト	3前	2		○				1						※演習
		海外特別プロジェクトII	3前	2		○				3						※オムニバス、演習、メディア
		小計(7科目)	—	0	14	0	—			4	1	2	0	0	0	—
	基幹科目	ことばと社会	3前	2		○						1				
		メディア文化論	3前	2		○						1				
		ジェンダーとマイノリティ	3前	2		○									兼1	
		比較政治学	3前	2		○					1					
		国際ビジネス論	3前	2		○				1						
		国際貢献論	3前	2		○				1						
		小計(6科目)	—	0	12	0	—			2	1	2	0	0	兼1	—
	接続科目	Studies in Media and Communication	3前	2		○									兼1	
		Studies in Hospitality and Tourism	3前	2		○					1					
		中国語で読み解く地域社会	3前	2		○						1				兼1
		中国語圏から社会を考える	3前	2		○										
		スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会	3前	2		○						1				
		スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会	3前	2		○					1					
		インドネシア語で考える現代社会	3前	2		○				1						
		マレー語で考える国際社会	3前	2		○				1						
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	2	2	0	0	兼2	—	
	実習・演習科目	課題解決型ワークショップ	3後	2				○			1	1				兼1
		ホスピタリティ実習演習	3前又は後	2			○									兼1
		海外インターンシップ	1・2・3・4前又は後	2				○		1						集中
		海外実習	1・2・3・4前又は後	2				○		1						集中
		体験型特別実習	1・2・3・4前又は後	2				○		1						集中
小計(5科目)	—	0	10	0	—			3	1	1	0	0	兼1	—		
文化社会科目	地域文化科目	世界を学ぶ	1前	2		○				1	1				兼1	※演習
		日本を学ぶ	1後	2		○				2	1					※演習
		エリアスタディーズ 北アメリカ	1前	2		○				1						
		エリアスタディーズ ラテンアメリカ	1前	2		○				1						
		エリアスタディーズ 東アジア	1前	2		○					1	1				オムニバス
		エリアスタディーズ 西アジア・南アジア	1前	2		○									兼1	
		エリアスタディーズ 東南アジア	1後	2		○				1						
		エリアスタディーズ アフリカ	1後	2		○									兼1	
		エリアスタディーズ ヨーロッパ	1後	2		○									兼1	
		エリアスタディーズ オセアニア	1後	2		○					1					
	小計(10科目)	—	4	16	0	—			5	3	2	0	0	兼3	—	
一般学芸科目	共同体論	1前	2		○									兼1		
	多文化共生論	1前	2		○						1					
	風土と地理	1前	2		○						1					
	国際関係論	1後	2		○				1							
	国際社会と経済	2後	2		○					1						
	メディアリテラシー論	2後	2		○				1							
	現代社会論	2後	2		○				1							
	地域と観光	2後	2		○						1					
	生物と環境	3後	2		○						1					
	ナショナリズム論	3後	2		○					1						
	視覚文化論	3後	2		○						1					
	Studies in Popular Culture	3後	2		○						1					
	Studies in Language and Society	3後	2		○						1					
小計(13科目)	—	0	26	0	—			3	2	5	0	0	兼1	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	文化社会科目 言語学芸科目	音声学		2		○			1							
		英語学概論	1前	2		○					1					
		言語学	1後	2		○					1					
		日本語史概説	1後	2		○			1							
		英語意味論・語用論	2前	2		○				1						
		日本語音韻論	2前	2		○			1							
		英語構造論	2後	2		○					1					
		日本語語彙論	3前	2		○					1					
		日本語文法論	3後	2		○					1					
		日本の文学	2後	2		○					1					
		中国の文学	2後	2		○									兼1	
		英語圏の文学	3後	2		○					1					
	小計(12科目)	—	0	24	0	—	—	—	2	2	3	0	0	兼1	—	
ピエタ アラ ライ ティ ン 科・ 目 ホ ス	ホテルビジネス論	2前	2		○									兼1		
	ホスピタリティ基礎論	2後	2		○									兼1		
	ホスピタリティスキル論	3前	2		○									兼1		
	エアラインサービス論	2後	2		○									兼1		
	エアラインビジネス論	3前	2		○									兼1		
	小計(5科目)	—	0	10	0	—	—	—	0	0	0	0	0	兼2	—	
学 芸 員 科 目	ミュージアムへの招待	1後	2		○					1						
	ミュージアムコレクション論	2前	2		○					1						
	博物館資料保存論	2前	2		○				1							
	ディスプレイ論	2後	2		○									兼1		
	生涯学習論	3前	2		○									兼1		
	ミュージアムマネジメント論	3前	2		○				1							
	博物館情報・メディア論	3後	2		○									兼1		
	博物館教育論	3後	2		○									兼1		
	博物館実習	4前又は後	3				○		1	1					共同・集中	
小計(9科目)	—	0	19	0	—	—	—	0	1	1	0	0	兼4	—		
日 本 語 教 授 員 科 目	日本語教授法Ⅰ	3前	2		○			1								
	日本語教授法Ⅱ	3後	2		○									兼1		
	日本語教授法Ⅲ	3後	2		○									兼1		
	日本語教育実習演習	4前・後	3				○	1								
	小計(4科目)	—	0	9	0	—	—	1	0	0	0	0	0	兼2	—	
英 語 基 礎 科 目	Speaking & Writing a	1前	1		○				1	2				兼7		
	Reading a	1前	1		○			4	2	1						
	TOEIC a	1前	1		○									兼5		
	Communicative English Grammar	1前	1		○			4	4	2						
	Speaking & Writing b	1後	1		○				1	2				兼7		
	Reading b	1後	1		○			4	2	1						
	TOEIC b	1後	1		○									兼5		
	Drama	1後	1				○	2	2	1						
	Japanese Society and Culture	2前	1		○			1	3	3						
	Academic Reading & Listening	2前	1		○			2	2	1						
	Academic Writing Workshop	2前	1		○			3	1	1						
	Debate	2後	1		○			3	1	1						
	Presentation	2後	1		○			1	1	3						
	小計(13科目)	—	3	10	0	—	—	5	5	6	0	0	0	兼10	—	
地 域 言 語 科 目	英語	Topic Studies I a	1前	1			○			2				兼3		
	Topic Studies I b	1後	1				○			2				兼3		
	Discussion a	2前	1		○				1	1				兼4		
	Topic Studies II a	2前	1		○			1						兼4		
	Discussion b	2後	1		○				1	1				兼4		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考					
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手						
専門科目	文化社会科目	地域言語科目	英語	Topic Studies IIb	2後	1		○			1					兼4			
				Advanced Academic Writing Workshop a	3前	2		○			2								
				Lecture a	3前	2		○					3						
				Film Making	3前	2			○			1							
				Business English a	3前	2		○			1	1	1						
				Topic Studies IIIa	3前	2		○				1						兼2	
				Advanced Academic Writing Workshop b	3後	2		○			2								
				Lecture b	3後	2		○					3						
				Business English b	3後	2		○			1	1	1						
				Topic Studies IIIb	3後	2		○				1						兼2	
Comprehensive Studies a	4前	2		○			1												
Comprehensive Studies b	4後	2		○			1												
小計(17科目)				—	0	28	0	—	4	4	4	0	0	兼11	—				
諸言語	諸言語輪講			1前	1		○		1	2						オムニバス			
	小計(1科目)				—	1	0	0	—	1	2	0	0	0	0	—			
中国語	中国語で読み解くⅠ			1後	1		○				1				兼1				
	中国語で表現するⅠ			1後	1		○		1						兼1				
	中国語で会話するⅠ			1後	1		○		1						兼1				
	中国語で読み解くⅡ			2前	1		○			1									
	中国語で表現するⅡ			2前	1		○		1										
	中国語で会話するⅡ			2前	1		○								兼1				
	中国語で読み解くⅢ			2後	1		○			1									
	中国語で表現するⅢ			2後	1		○		1										
	中国語で会話するⅢ			2後	1		○		1										
	中国語プレゼンテーション			3前	2		○								兼1				
小計(10科目)				—	0	11	0	—	2	0	1	0	0	兼4	—				
スペイン語	スペイン語文法Ⅰ			1後	1		○		1						兼1				
	スペイン語表現			1後	1		○				1				兼1				
	スペイン語会話Ⅰ			1後	1		○							兼2					
	スペイン語文法Ⅱ			2前	1		○							兼1					
	スペイン語読解			2前	1		○			1									
	スペイン語会話Ⅱ			2前	1		○							兼1					
	スペイン語圏社会講読(南欧)			2後	1		○							兼1					
	スペイン語圏社会講読(ラテンアメリカ)			2後	1		○		1										
	スペイン語文章構成			2後	1		○							兼1					
	スペイン語プレゼンテーション			3前	2		○		1										
小計(10科目)				—	0	11	0	—	1	1	1	0	0	兼4	—				
インドネシア語・マレー語	インドネシア語文法			1後	1		○		1						兼1				
	インドネシア語表現Ⅰ			1後	1		○			1					兼2				
	インドネシア語会話Ⅰ			1後	1		○								兼1				
	総合インドネシア語			2前	1		○		1										
	インドネシア語表現Ⅱ			2前	1		○			1									
	インドネシア語会話Ⅱ			2前	1		○							兼1					
	総合マレー語			2後	1		○		1										
	実践インドネシア語			2後	1		○			1									
	旅行インドネシア語			2後	1		○							兼1					
	インドネシア語・マレー語プレゼンテーション			3前	2		○		1										
小計(10科目)				—	0	11	0	—	2	1	0	0	0	兼2	—				
究ゼミ・卒業研	初年次ゼミナール			1前	2		○		6	3	7								
	基礎ゼミナール			1後	2		○		7	6	3								
	基礎演習Ⅰ			2前	2		○		6	6	4								
	基礎演習Ⅱ			2後	2		○		4	4	8								
	文化演習Ⅰ			3前	2		○		14	10	12								

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	ゼミ・卒業	文化演習Ⅱ	3後	2				○			14	10	12					
		卒業研究Ⅰ	4前又は後	2				○			14	10	12					
		卒業研究Ⅱ	4前又は後	2				○			14	10	12					
		小計(8科目)	—	16	0	0		—			14	10	12	0	0	0	—	
教養科目	人文科学系	人間の探究	1前		2			○									兼1	オムニバス
		文学から学ぶ	1前		2			○		1	1	1					兼1	
		歴史に学ぶ	1後		2			○									兼1	
		心理学	2前		2			○									兼1	
	小計(4科目)	—	0	8	0		—		1	1	1	0	0	兼3	—			
	社会科学系	法学入門	1前		2			○									兼1	—
		世界の政治	1前		2			○			1						兼1	
		日本国憲法	1後		2			○									兼1	
		経済学入門	2前		2			○									兼1	
		経営学入門	2後		2			○									兼1	
	小計(5科目)	—	0	10	0		—		0	1	0	0	0	兼4	—			
	自然・科学技術系	住まいとデザイン	1前		2			○									兼2	—
		食品機能学	1後		2			○									兼1	
		人体の構造と機能	2前		2			○									兼1	
		公衆衛生学	2前		2			○									兼1	
		科学技術教養	3前又は後		2			○									兼1	
小計(5科目)	—	0	10	0		—		0	0	0	0	0	兼6	—				
英語系	基礎英語Ⅰa	1前		1			○									兼6	—	
	基礎英語Ⅱa	1後		1			○									兼6		
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼6	—			
外国語系	韓国語Ⅰ	1後		1			○			1						兼1	—	
	韓国語Ⅱa	2前		1			○									兼1		
	韓国語Ⅱb	2前		1			○									兼1		
	韓国語Ⅲa	2後		1			○									兼1		
	韓国語Ⅲb	2後		1			○									兼1		
	小計(5科目)	—	0	5	0		—		0	1	0	0	0	兼2	—			
日本語系	日本語表現Ⅰ	1前		1			○									兼3	—	
	日本語表現Ⅱ	1後		1			○									兼3		
	コミュニケーションⅠ	2前		1			○									兼2		
	小計(3科目)	—	0	3	0		—		0	0	0	0	0	兼5	—			
情報系	情報リテラシーⅠ	1前		1				○								兼2	—	
	情報リテラシーⅡ	1後		1				○								兼2		
	小計(2科目)	—	2	0	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—			
キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ	1前		1				○								兼5	—	
	キャリアデザインⅡ	1後		1				○								兼1 共同		
	エンプロイメントデザインⅠ	1後		1				○								兼3 共同		
	エンプロイメントデザインⅡ	2前		1				○								兼2 共同		
	インターンシップ	3通		2					○							兼2		
	ビジネス実務	3後		2				○								兼1		
	小計(6科目)	—	2	6	0		—		0	0	0	0	0	兼6	—			
スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1												兼1	—	
	スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1												兼1		
	スポーツと健康	2前		2			○									兼1		
	小計(3科目)	—	0	4	0		—		0	0	0	0	0	兼2	—			
地域志向系	地域と私	1前		2			○									兼1	集中	
	北河内を知る	1後		2			○									兼1	集中	
	ソーシャル・イノベーション実務総論	1後		2			○									兼1		
	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	2通		2					○	1						兼9	集中	
	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	2通		2					○	1						兼9	集中	
	小計(6科目)	—								1						兼9	集中	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目	地域志	地域貢献実践演習	3通		2			○								兼1	集中
		小計(6科目)	—	0	12	0		—		1	0	1	0	0		兼12	—
	共通基礎系	大学教養入門	1前		2			○				1				兼1	共同
		大学教養実践	1後		2			○								兼1	共同
		数的能力開発 I	2後		1			○								兼2	
		就職実践基礎	2後		1			○								兼2	
		時事問題 I	2前		2			○								兼4	
		時事問題 II	2後		2			○								兼3	
		小計(6科目)	—	0	10	0		—		0	0	1	0	0		兼7	—
	教養特別系	教養特別講義 I	1・2・3・4前又は後		2			○								兼13	
		教養特別講義 II	1・2・3・4前又は後		2			○								兼13	
		教養特別講義 III	1・2・3・4前又は後		2			○								兼13	
		教養特別講義 IV	1・2・3・4前又は後		2			○								兼13	
		教養特別講義 V	1・2・3・4前又は後		2			○								兼13	
		小計(5科目)	—	0	10	0		—		0	0	0	0	0		兼13	—
	外国人留学生対象科目	日本事情F I	1・2・3・4前		2			○				1					
		日本事情F II	1・2・3・4後		2			○				1					
		日本語読解F I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		日本語読解F II	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		日本語文法F I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		日本語文法F II	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		日本語表現作文F I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		日本語表現作文F II	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		日本語総合F I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
		日本語総合F II	1・2・3・4後		1			○								兼1	
		専門日本語F I	1・2・3・4前		1			○								兼1	
専門日本語F II		1・2・3・4後		1			○								兼1		
日本語会話F I		1・2・3・4前		1			○								兼1		
日本語会話F II		1・2・3・4後		1			○								兼1		
小計(14科目)		—	0	16	0		—		1	0	0	0	0		兼5	—	
帰国学生対象科目	日本事情R I	1・2・3・4前		2			○				1						
	日本事情R II	1・2・3・4後		2			○				1						
	日本語読解R	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語文法R	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	日本語表現作文R	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語総合R	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	専門日本語R	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語会話R	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	小計(8科目)	—	0	10	0		—		1	0	0	0	0		兼4	—	
教職課程の設置により開設する授業科目	英語科教育法 I	3前			2		○				1						
	英語科教育法 II	3後			2		○				1						
	英語科教育法 III	3前			2		○				1						
	英語科教育法 IV	3後			2		○				1						
	教育原理	2前又は後			2		○					1					
	教師論	1前			2		○								兼1		
	教育経営論	3前又は後			2		○								兼1		
	教育社会学	3前又は後			2		○								兼1		
	教育心理学	1前又は後			2		○								兼1		
	特別支援教育論	3前又は後			2		○								兼1		
	教育課程論	2前又は後			2		○								兼1		
	道徳教育論	3前又は後			2		○					1					
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	1前又は後			2		○								兼1		
	教育方法論	2前又は後			2		○								兼1		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教職課程の設置により開設	生徒指導論(進路指導を含む)	2前又は後			2	○									兼1	
	教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	3前又は後			2	○									兼1	
	教育実習Ⅰ	3前又は後			1						1				兼4	
	教育実習Ⅱ	4通			2						1				兼4	
	教育実習Ⅲ	4通			4						1				兼4	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○				1				兼4	
	地域連携教育活動Ⅰ	2前又は後			2						1				兼4	
	地域連携教育活動Ⅱ	2前又は後			2						1				兼4	
小計(22科目)		—	0	0	45	—			2	0	1	0	0	兼4	—	
合計(283科目)		—	30	409	45	—			14	10	13	0	0	兼94	—	
学位又は称号		学士(文学)		学位又は学科の分野			文学関係									
卒業要件及び履修方法						授業期間等										
<p>本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、専門科目92単位以上〔必修科目24単位、選択必修科目29単位以上(注1)、選択科目29単位以上(注2)、選択必修科目・選択科目から10単位以上〕、教養科目32単位以上〔必修科目6単位、選択科目26単位以上(注3)〕の合計124単位以上を修得し、かつ入学時からの累積GPAが1.3以上であること。</p> <p>(注1)〔専門科目の選択必修科目〕 1 協働学習プロジェクト科目26単位以上(文化構想領域、国際共生領域、社会協創領域の各領域において、選択したプロジェクト科目1科目と対応する基幹科目1科目、および接続科目2科目の合計4科目8単位以上、実習演習科目2単位以上)を修得。 2 文化社会科目3単位以上(中国語、スペイン語、インドネシア語・マレー語のうち、いずれかの言語から3単位)を修得。</p> <p>(注2)〔専門科目の選択科目〕 地域文化科目、一般学芸科目および言語学芸科目から22単位以上、地域言語科目から7単位以上を修得。 ただし、「English Language Honors Track」は地域文化科目、一般学芸科目および言語学芸科目から16単位以上、英語基礎科目から6単位以上、地域言語科目のうち英語科目から7単位以上を修得。</p> <p>(注3)〔教養科目の選択科目〕 人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、地域志向系、教養特別系から16単位以上、外国語系、日本語系、キャリアデザイン系、スポーツ系、共通基礎系から10単位以上を修得。</p> <p>〔履修科目の登録の上限：48単位(年間)〕</p>						1学年の学期区分		2期								
						1学期の授業期間		15週								
						1時限の授業時間		90分								

教育課程等の概要

（外国語学部 外国語学科）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	専攻言語科目（英語） 国際キャリアコース（英語専攻）	ボキャブラリー&グラマーa	1前		1		○			3	3	4			兼1	
		ボキャブラリー&グラマーb	1後		1		○			4	3	3			兼1	
		スピーキング&ライティングⅠa	1前		1		○					1			兼10	
		スピーキング&ライティングⅠb	1後		1		○					1			兼10	
		リーディングⅠa	1前		1		○								兼6	
		リーディングⅠb	1後		1		○								兼6	
		スキルズトレーニングa	1前		1		○			2	1	3				
		スキルズトレーニングb	1後		1		○					3	2			
		ドラマ	1前		1		○			1						兼4
		プレゼンテーション	1後		1		○					1				兼4
		トピックスタディーズⅠa	1前		1		○									兼4
		トピックスタディーズⅠb	1後		1		○									兼4
英語プロフェッショナルコース	Integrated Skills Training Practical English Conversation Academic Reading Academic Writing Global Issues English for TOEFL English for Global Communication a English for Global Communication b Comprehensive English a Comprehensive English b English Writing Workshop a English Writing Workshop b English Lecture Ⅰa English Lecture Ⅰb English Lecture Ⅱa English Lecture Ⅱb Debate & Presentation a Debate & Presentation b Oral Communication a Oral Communication b Advanced English a Advanced English b	2前		1		○				2						
		2前		1		○					1	1			兼1	
		2前		1		○			1	1						
		2前		1		○			2							
		2前		1		○					1					
		2前		1		○					1					
		3前		1		○					1	1			兼2	
		3後		1		○					1	1			兼2	
		3前		1		○			1		1					
		3後		1		○			1		1					
		3前		1		○					1	1				
		3後		1		○					1	1				
		3前		2		○						1			兼1	
		3後		2		○						1			兼1	
		3前		2		○						1				
		3後		2		○					1					
		3前		1		○									兼1	
		3後		1		○				1						
4前		2		○									兼1			
4後		2		○									兼1			
4前		2		○									兼1			
4後		1		○									兼1			
国際キャリアコース（英語専攻）	スピーキング&ライティングⅡa スピーキング&ライティングⅡb リーディングⅡa リーディングⅡb メディアイングリッシュa メディアイングリッシュb ESP(English for Specific Purposes)a ESP(English for Specific Purposes)b トピックスタディーズⅡa トピックスタディーズⅡb スピーキング&ライティングⅢa スピーキング&ライティングⅢb リーディングⅢa リーディングⅢb	2前		1		○					1				兼8	
		2後		1		○						2			兼8	
		2前		1		○									兼5	
		2後		1		○			1						兼5	
		2前		1		○						1			兼4	
		2後		1		○						2			兼4	
		2前		1		○			1						兼8	
		2後		1		○			2						兼8	
		2前		1		○									兼4	
		2後		1		○					1				兼4	
		3前		1		○									兼7	
		3後		1		○									兼7	
		3前		1		○						1			兼3	
		3後		1		○						1			兼3	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	国際キャリアコース (英語) 専攻言語科目	カレントイングリッシュa	3前	1		○									兼4	
		カレントイングリッシュb	3後	1		○									兼4	
		ビジネスイングリッシュa	4前	1		○									兼1	
		ビジネスイングリッシュb	4後	1		○									兼1	
	小計(52科目)	—	0	59	0	—			5	5	6	0	0	兼40	—	
国際キャリアコース (中国語) 専攻言語科目	中国語を聞く I a 中国語を聞く I b 中国語を読む I a 中国語を読む I b 中国語を書く I a 中国語を書く I b 中国語を話す I a 中国語を話す I b ビジネス中国語a ビジネス中国語b 映像中国語a 映像中国語b 中国語を聞く II a 中国語を聞く II b 中国語を読む II a 中国語を読む II b 中国語を書く II a 中国語を書く II b 中国語を話す II a 中国語を話す II b メディア中国語a メディア中国語b 観光中国語a 観光中国語b 貿易中国語a 貿易中国語b 中国語プレゼンテーションa 中国語プレゼンテーションb 中国語コミュニケーションa 中国語コミュニケーションb	1前	1		○			1						兼1		
		1後	1		○			1						兼1		
		1前	1		○					1						
		1後	1		○					1						
		1前	1		○										兼1	
		1後	1		○										兼1	
		1前	1		○										兼2	
		1後	1		○										兼2	
		1前	1		○			1								
		1後	1		○			1								
		1前	1		○										兼1	
		1後	1		○										兼1	
		2前	1		○			1							兼1	
		2後	1		○			1							兼1	
		2前	1		○						1					
		2後	1		○						1					
		2前	1		○			1								
		2後	1		○			1								
		2前	1		○										兼2	
		2後	1		○										兼2	
		2前	1		○										兼1	
		2後	1		○										兼1	
		2前	1		○										兼1	
		2後	1		○										兼1	
		2前	1		○										兼2	
		2後	1		○										兼2	
		2前	1		○										兼2	
		2後	1		○										兼2	
		2前	1		○										兼2	
		小計(30科目)	—	0	30	0	—			2	0	1	0	0	兼6	—
国際キャリアコース (スペイン語) 専攻言語科目	スペイン語入門A スペイン語入門B スペイン語入門C スペイン語基礎A スペイン語基礎B スペイン語基礎C スペイン語オラル I スペイン語オラル II スペイン語応用 I スペイン語応用 II スペイン語総合A スペイン語総合B スペイン語トピックス 映画のスペイン語 I スペイン語オラル III スペイン語オラル IV スペイン語文章構成 I	1前	1		○			1						兼1		
		1前	1		○				1					兼1		
		1前	1		○						1			兼1		
		1後	1		○			1						兼1		
		1後	1		○				1					兼1		
		1後	1		○						1			兼1		
		1前	1		○									兼2		
		1後	1		○									兼2		
		1前	1		○			1						兼1		
		1後	1		○			1						兼1		
		2前	1		○			1						兼1		
		2前	1		○						1			兼1		
		2後	1		○									兼2		
		2後	1		○									兼2		
		2前	1		○									兼2		
		2後	1		○									兼2		
		2前	1		○									兼2		

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	国際キャリアコース(スペイン語専攻)	スペイン語文章構成Ⅱ	2後	1	0	0	○									兼2	
		メディアのスペイン語Ⅰ	2前	1	0	0	○			1						兼1	
		メディアのスペイン語Ⅱ	2後	1	0	0	○				1					兼1	
		スペイン語オラルⅤ	3前	1	0	0	○									兼2	
		スペイン語オラルⅥ	3後	1	0	0	○									兼2	
		スペイン語文章構成Ⅲ	3前	1	0	0	○									兼1	
		スペイン語文章構成Ⅳ	3後	1	0	0	○			1							
		スペイン語通訳Ⅰ	3前	1	0	0	○									兼1	
		スペイン語通訳Ⅱ	3後	1	0	0	○									兼1	
		映画のスペイン語Ⅱ	3前	1	0	0	○									兼1	
		メディアのスペイン語Ⅲ	3後	1	0	0	○					1				兼1	
		スペイン語プレゼンテーションⅠ	4前	1	0	0	○									兼1	
		スペイン語プレゼンテーションⅡ	4後	1	0	0	○									兼1	
		小計(30科目)		—	0	30	0	—			1	1	1	0	0	兼9	—
国際キャリアコース(インドネシア・マレー語)	専攻言語科目(インドネシア・マレー語)	インドネシア語入門a(1)	1前	1	0	0	○			1	1						
		インドネシア語入門a(2)	1前	1	0	0	○			1							
		インドネシア語入門b(1)	1後	1	0	0	○				1						
		インドネシア語入門b(2)	1後	1	0	0	○			1							
		インドネシア語コミュニケーションⅠa	1前	1	0	0	○									兼1	
		インドネシア語コミュニケーションⅠb	1後	1	0	0	○									兼1	
		インドネシア語ボキャブラリーa	1前	1	0	0	○			1							
		インドネシア語ボキャブラリーb	1後	1	0	0	○				1						
		インドネシア語表現法	1前	1	0	0	○									兼1	
		初級検定インドネシア語	1後	1	0	0	○			1							
		総合インドネシア語a(1)	2前	1	0	0	○			1							
		総合インドネシア語a(2)	2前	1	0	0	○									兼1	
		総合インドネシア語b(1)	2後	1	0	0	○			1							
		総合インドネシア語b(2)	2後	1	0	0	○									兼1	
		インドネシア語コミュニケーションⅡa	2前	1	0	0	○									兼1	
		インドネシア語コミュニケーションⅡb	2後	1	0	0	○									兼1	
		旅行インドネシア語	2前	1	0	0	○				1						
		基礎マレー語a	2前	1	0	0	○			1							
		基礎マレー語b	2後	1	0	0	○			1							
		中級検定インドネシア語	2後	1	0	0	○				1						
		実践インドネシア・マレー語a	3前	1	0	0	○									兼1	
		実践インドネシア・マレー語b	3後	1	0	0	○			1							
		インドネシア語コミュニケーションⅢa	3前	1	0	0	○									兼1	
		インドネシア語コミュニケーションⅢb	3後	1	0	0	○									兼1	
時事インドネシア・マレー語	3前	1	0	0	○			1									
ビジネスインドネシア語	3後	1	0	0	○				1								
上級検定インドネシア語	3前	1	0	0	○				1								
プレゼンテーションインドネシア・マレー語	3後	1	0	0	○									兼1			
スペシャリストインドネシア・マレー語	4前	1	0	0	○			1						兼1	オムニバス		
インドネシア・マレー語学研究	4後	1	0	0	○			1	1						オムニバス		
小計(30科目)		—	0	30	0	—			2	1	0	0	0	兼2	—		
文化・社会科目	世界を知る	英語圏概論	1前	2	0	0	○					2					
		中国語圏概論	1前	2	0	0	○									兼1	
		スペイン語圏概論	1前	2	0	0	○					1					
		インドネシア・マレー語圏概論	1前	2	0	0	○			1	1						オムニバス
		エリアスタディーズ(日本)	1後	2	0	0	○				1						
		エリアスタディーズ(東アジア)	1後	2	0	0	○				1	1					オムニバス
		エリアスタディーズ(東南アジア)	1後	2	0	0	○			1						兼1	オムニバス
		エリアスタディーズ(ヨーロッパ)	1後	2	0	0	○									兼1	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
専門科目	文化・社会科目	世界を知る	エリアスタディーズ(アフリカ)	1後	2	○									兼1		
			エリアスタディーズ(北アメリカ)	1後	2	○				1							
			エリアスタディーズ(ラテンアメリカ)	1後	2	○				1							
			エリアスタディーズ(オセアニア)	1後	2	○					1						
		小計(12科目)	—	0	24	0	—			3	4	4	0	0	兼4	—	
	言語のしくみ	音声学	1前	2	○				1								
		英語学概論	1前	2	○						1						
		言語学	1後	2	○						1						
		日本語史概説	1後	2	○				1								
		英語意味論・語用論	2前	2	○					1							
		日本語音韻論	2前	2	○				1								
		英語構造論	2後	2	○						1						
		日本語語彙論	3前	2	○						1						
		中国語文字論	3前	2	○				1								
		日本語文法論	3後	2	○						1						
		中国語語彙論	3後	2	○				1								
	小計(11科目)	—	0	22	0	—			4	1	3	0	0	0	—		
	世界の歴史	日本史学	2前	2	○					1							
		中国史学	2後	2	○						1						
		ヨーロッパ史学	3前	2	○							1			兼1		
		日米文化交流史	3前	2	○							1					
		東南アジア史学	3後	2	○				1								
		社会文化史	3後	2	○										兼1		
	小計(6科目)	—	0	12	0	—			1	1	2	0	0	兼2	—		
世界の文化と多様性	風土と地理	1前	2	○						1							
	日本文学	1後	2	○						1							
	異文化接触論	2前	2	○					1								
	日米比較文化	2前	2	○				1									
	中国文学	2後	2	○							1			兼1			
	芸能文化論	2後	2	○							1						
	英米文学	3後	2	○					1								
	神話論	3後	2	○				1									
	小計(8科目)	—	0	16	0	—			2	2	3	0	0	兼1	—		
現代の社会	現代社会論	2前	2	○				1									
	国際社会論	2後	2	○					1								
	哲学と倫理	3前	2	○				1									
	現代学術論	3前	2	○				1									
	現代中国語	3後	2	○										兼1			
小計(5科目)	—	0	10	0	—			2	1	0	0	0	兼1	—			
特別資格科目	学芸員科目	ミュージアムへの招待	1後	2	○						1						
		ミュージアムコレクション論	2前	2	○						1						
		博物館資料保存論	2前	2	○						1				兼1		
		ディスプレイ論	2後	2	○										兼1		
		生涯学習論	3前	2	○										兼1		
		ミュージアムマネジメント論	3前	2	○						1				兼1		
		博物館情報・メディア論	3後	2	○										兼1		
		博物館教育論	3後	2	○										兼1		
		博物館実習	4前又は後	3			○			1	1				共同・集中		
		小計(9科目)	—	0	19	0	—			0	1	1	0	0	兼4	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
専門科目	特別資格科目 日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ	3前	2		○			1							
		日本語教授法Ⅱ	3後	2		○									兼1	
		日本語教授法Ⅲ	3後	2		○									兼1	
		日本語教育実習演習	4通	3			○			1						
		小計(4科目)	—	0	9	0	—		1	0	0	0	0	兼2	—	
	パッケージプログラム科目	異文化ビジネス論	2前	2		○			1							
ビジネス心理学		2前	2		○										兼1	
グローバル経済論		2後	2		○									兼1		
地域と国際ビジネス		2後	2		○					1						
グローバルマーケティング論		3前	2		○										兼1	
グローバル企業研究		3前	2		○				1							
ビジネスコミュニケーション論		3後	2		○										兼1	
国際協力論		2前	2		○				1							
国際関係論		2前	2		○					1						
ボランティア論		2後	2		○				1							
国際平和論		3前	2		○					1						
国際機構論		3前	2		○				1							
社会開発論		3後	2		○						1					
ことばと意味		2前	2		○				1							
異文化コミュニケーション論		2前	2		○				1							
翻訳文化論		2後	2		○						1					
日本語表現論		2後	2		○				1							
語学教育学		3前	2		○					1						
外国語翻訳法		3前	2		○						1				兼2	
外国語通訳法		3後	2		○				1						兼2	
ホスピタリティ論		2前	2		○					1						
ホテルビジネス論		2前	2		○				1							
エアラインビジネス論		2後	2		○				1							
エコツーリズム論		2後	2		○						1					
イベント企画論		3前	2		○					1						
アーバンツーリズム論		3前	2		○						1					
メディア文化論		2前	2		○										兼1	
マスコミ論		2前	2		○										兼1	
メディアリテラシー論		2後	2		○				1							
クリエイティブビジネス論		2後	2		○										兼1	
ビジュアルデザイン論		3後	2		○										兼1	
地域環境論		2後	2		○						1					
暮らしの中の文化		2後	2		○						1					
グローバル社会と日本	3前	2		○										兼1		
共同体論	3前	2		○										兼1		
多文化共生論	3後	2		○						1						
	実習・演習科目	パッケージプログラム演習	3前又は後	2			○		4	5	3					共同(一部)
ホスピタリティ・インターンシップ		3前又は後	2				○		1						集中	
海外インターンシップ		1・2・3・4前又は後	2				○		1						集中	
海外ワークキャンプ		1・2・3・4前又は後	2				○		1	1					共同・集中	
海外実習		1・2・3・4前又は後	2				○		2		1				集中	
体験型特別実習A		1・2・3・4前又は後	2				○			1					集中	
体験型特別実習B		1・2・3・4前又は後	2				○		1						集中	
		小計(43科目)	—	0	86	0	—		12	7	6	0	0	兼14	—	
	海外留学	海外留学事前演習	1・2・3・4前又は後	1			○		6	2	3					
		小計(1科目)	—	0	1	0	—		6	2	3	0	0	0	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考				
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手					
専門科目	ゼミ・卒業研究	初年次ゼミナール	1前	2			○			4	6	6						
		基礎ゼミナール	1後	2			○			4	7	5						
		基礎演習Ⅰ	2前	2			○			5	4	6						
		基礎演習Ⅱ	2後	2			○			9	5	6						
		文化演習Ⅰ	3前	2			○			14	7	12						
		文化演習Ⅱ	3後	2			○			14	7	12						
		卒業研究Ⅰ	4前又は後	2			○			14	8	10						
		卒業研究Ⅱ	4前又は後	2			○			14	8	10						
小計(8科目)	—	—	16	0	0	—	—	—	14	10	12	0	0	0	—	—		
教養科目	人文科学系	人間の探求	1前		2		○										兼1	
		芸術論	1後		2		○					1					兼1	
		文化人類学	1後		2		○										兼1	
		心理学	2前		2		○										兼1	
	小計(4科目)	—	—	0	8	0	—	—	—	—	—	1	0	0	—	兼3	—	
	社会科学系	世界の政治	2前又は後		2		○					1						兼1
		法学入門	1・2・3前		2		○											兼1
		日本国憲法	1・2・3後		2		○											兼1
		経済学入門	1・2・3前		2		○											兼1
		経営学入門	1・2後		2		○											兼1
	小計(5科目)	—	—	0	10	0	—	—	—	—	1	0	0	0	—	兼3	—	
	自然・科学技術系	住まいとデザイン	1前		2		○											兼2
		食品機能学	1後		2		○											兼1
		人体の構造と機能	2前		2		○											兼1
		自然科学の理解	2後		2		○											兼1
		ものづくり研究の世界	3前		2		○											兼1
		生物と環境	3後		2		○						1					兼1
	小計(6科目)	—	—	0	12	0	—	—	—	—	—	1	0	0	—	兼6	—	
	英語系	基礎英語Ⅰa	1前		1		○											兼6
		基礎英語Ⅱa	1後		1		○											兼6
		実践英語Ⅰb	2前		1		○											兼1
		実践英語Ⅱb	2後		1		○											兼1
		小計(4科目)	—	—	2	2	0	—	—	—	—	—	0	0	0	0	—	兼7
	外国語系	中国語Ⅰ	2前		1		○											兼2
中国語Ⅱ		2後		1		○											兼2	
中国語Ⅲ		3前		2		○											兼1	
中国語Ⅳ		3後		2		○											兼1	
スペイン語Ⅰ		2前		1		○											兼1	
スペイン語Ⅱ		2後		1		○											兼1	
スペイン語Ⅲ		3前		2		○											兼1	
スペイン語Ⅳ		3後		2		○											兼1	
インドネシア語Ⅰ		2前		1		○											兼1	
インドネシア語Ⅱ		2後		1		○											兼1	
インドネシア語Ⅲ		3前		2		○											兼1	
インドネシア語Ⅳ		3後		2		○											兼1	
フランス語Ⅰ		2前		1		○											兼1	
フランス語Ⅱ		2後		1		○											兼1	
フランス語Ⅲ		3前		2		○											兼1	
フランス語Ⅳ		3後		2		○											兼1	
韓国語Ⅰ		2前		1		○											兼2	
韓国語Ⅱ		2後		1		○											兼2	
韓国語Ⅲ		3前		2		○											兼1	
韓国語Ⅳ		3後		2		○											兼1	
小計(20科目)	—	—	0	30	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	兼11	—	

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
教養科目	日本語系	日本語表現Ⅰ	1前又は後	1			○									兼3	
		日本語表現Ⅱ	1後	1			○									兼3	
		コミュニケーションⅠ	2・3前	1			○									兼2	
		小計(3科目)	—	0	3	0				0	0	0	0	0		兼5	—
	数理・情報系	情報リテラシーⅠ	1前又は後	1				○								兼2	
		情報リテラシーⅡ	1後	1				○								兼2	
		小計(2科目)	—	2	0	0				0	0	0	0	0		兼2	—
	キャリアデザイン系	キャリアデザインⅠ	1前又は後	1				○								兼4	
		キャリアデザインⅡ	1・2後	1				○		3	2	1				共同	
		エンプロイメントデザインⅠ	1後		1			○								兼3	共同
		エンプロイメントデザインⅡ	2前		1			○								兼3	共同
		インターンシップ	3通		2				○							兼1	
		ビジネス実務	3前又は後		2			○								兼1	
	小計(6科目)	—	2	6	0				3	2	1	0	0		兼5	—	
	スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	1前		1				○							兼2	
		スポーツ科学実習Ⅱ	1後		1				○							兼2	
		スポーツと健康	2・3前又は後		2			○								兼1	
		小計(3科目)	—	0	4	0				0	0	0	0	0		兼3	—
	地域志向系	地域と私	1前		2			○				1				兼8	集中
		北河内を知る	1後		2			○								兼4	集中
		ソーシャル・イノベーション実務総論	1後		2			○								兼1	
		摂南大学PBLプロジェクトⅠ	2通		2				○	1						兼15	集中
		摂南大学PBLプロジェクトⅡ	2通		2				○	1						兼15	集中
		地域貢献実践演習	3通		2			○								兼1	集中
	小計(6科目)	—	0	12	0				1	0	1	0	0		兼21	—	
	共通基礎系	大学教養入門	1前		2			○				1				兼11	共同
		大学教養実践	1後		2			○								兼6	共同
数的能力開発Ⅰ		2前又は後		1			○								兼2		
就職実践基礎		2前又は後		1			○								兼3		
時事問題Ⅰ		2前		2			○								兼4		
時事問題Ⅱ		2後		2			○								兼3		
小計(6科目)	—	0	10	0				0	0	1	0	0		兼23	—		
教養特別系	教養特別講義Ⅰ	1・2・3・4前又は後		2			○		2	1					兼31		
	教養特別講義Ⅱ	1・2・3・4前又は後		2			○		2	1					兼31		
	教養特別講義Ⅲ	1・2・3・4前又は後		2			○		2	1					兼31		
	教養特別講義Ⅳ	1・2・3・4前又は後		2			○		2	1					兼31		
	教養特別講義Ⅴ	1・2・3・4前又は後		2			○		2	1					兼31		
小計(5科目)	—	0	10	0				2	1	0	0	0		兼31	—		
外国人留学生対象科目	日本事情FⅠ	1・2・3・4前		2			○		1								
	日本事情FⅡ	1・2・3・4後		2			○		1								
	日本語読解FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語読解FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	日本語文法FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語文法FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	日本語表現作文FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語表現作文FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	日本語総合FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語総合FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	専門日本語FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	専門日本語FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
	日本語会話FⅠ	1・2・3・4前		1			○								兼1		
	日本語会話FⅡ	1・2・3・4後		1			○								兼1		
小計(14科目)	—	0	16	0				1	0	0	0	0		兼5	—		

科目区分	授業科目の名称	配当年度	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
教養科目	帰国学生対象科目	日本事情RⅠ	1・2・3・4前	2		○			1							
		日本事情RⅡ	1・2・3・4後	2		○			1							
		日本語読解R	1・2・3・4前	1		○										兼1
		日本語文法R	1・2・3・4後	1		○										兼1
		日本語表現作文R	1・2・3・4前	1		○										兼1
		日本語総合R	1・2・3・4後	1		○										兼1
		専門日本語R	1・2・3・4前	1		○										兼1
		日本語会話R	1・2・3・4後	1		○										兼1
小計(8科目)		—	0	10	0	—		1	0	0	0	0	0	兼4	—	
教職課程の設置により開設する授業科目	英語科教育法Ⅰ	3前			2	○			1							
	英語科教育法Ⅱ	3後			2	○			1							
	英語科教育法Ⅲ	3前			2	○			1							
	英語科教育法Ⅳ	3後			2	○			1							
	教育原理	2前又は後			2	○					1					
	教師論	1前			2	○									兼1	
	教育経営論	3前又は後			2	○									兼1	
	教育社会学	3前又は後			2	○									兼1	
	教育心理学	1前又は後			2	○									兼1	
	特別支援教育論	3前又は後			2	○									兼1	
	教育課程論	2前又は後			2	○									兼1	
	道徳教育論	3前又は後			2	○					1					
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	1前又は後			2	○									兼1	
	教育方法論	2前又は後			2	○									兼1	
	生徒指導論(進路指導を含む)	2前又は後			2	○									兼1	
	教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	3前又は後			2	○									兼1	
	教育実習Ⅰ	3前又は後			1			○			1				兼4	
	教育実習Ⅱ	4通			2			○			1				兼4	
	教育実習Ⅲ	4通			4			○			1				兼4	
	教職実践演習(中・高)	4後			2		○				1				兼4	
	地域連携教育活動Ⅰ	2前又は後			2			○			1				兼4	
	地域連携教育活動Ⅱ	2前又は後			2			○			1				兼4	
小計(22科目)		—	0	0	45	—		2	0	1	0	0	0	兼4	—	
合計(363科目)			—	22	481	45	—	14	10	13	0	0	0	兼167	—	
学位又は称号		学士(文学)		学位又は学科の分野				文学関係								
卒業要件及び履修方法							授業期間等									
<p>本大学に4年以上在学し、所定の授業科目について、専門科目86単位以上(注1)、教養科目38単位以上[必修科目6単位、選択必修科目英語系・外国語系科目1単位以上、選択科目31単位以上(注2)]の合計124単位以上を修得し、かつ入学時からの累積GPAが1.3以上であること。</p> <p>(注1) [専門科目] <英語プロフェッショナルコース> 必修科目16単位、選択必修科目29単位以上、選択科目41単位以上修得。 <国際キャリアコース> 必修科目16単位、選択必修科目28単位以上、選択科目42単位以上修得。</p> <p>(注2) [教養科目の選択科目] 1 英語系、外国語系、数理・情報系、スポーツ系、共通基礎から5単位以上修得。ただし、英語系・外国語系科目1単位以上を含む。 2 人文科学系、社会科学系、自然・科学技術系、地域志向系、教養特別系から16単位以上修得。 3 キャリアデザイン系、日本語系から3単位以上修得。</p> <p>[履修科目の登録の上限：48単位(年間)]</p>							1学年の学期区分		2期							
							1学期の授業期間		15週							
							1時限の授業時間		90分							

授業科目の概要					
(国際学部 国際学科)					
科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	文化構想領域 プロジェクト科目	表象と感性プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。私たちは無意識のうちに、感じたいものを感じようとする。もしくは見たいものを見出し、聞きたいものを聞き取る。その意味で「感性」とは受動的というより能動的なものだと言える。本授業では、私たちの「感性」がどこから来てどこへ行くのかを検討した上で、ファインアートやポップカルチャーの作品が浮き彫りにする自身の「感性」と向き合い、意義ある「芸術批評」を実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			歴史学プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。人類が誕生してから今日まで私たちは「歴史」という時間軸の中で生きている。国家や民族などの共同体しかり、一個人しかり、人間が行う事象の積み重ねが「歴史」を形成している。しかし、「歴史」とは単なる時間の積み重ねではない。これを「語り」「書きとどめ」「伝える」人間の行為が「歴史」を創っているのである。当然そこにはさまざまなバイアスがかかり、故に「歴史に正解はない」と言われるのである。本授業では、単に事実を掘り起こすのではなく、そこに介在するさまざまな人、あるいは集団の意図を読み取りながら「歴史」を再構成し、現代社会に対する提言を立案する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			地理学プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。私たちが暮らしている「場所」は、地域固有の自然環境を土台として、そこに生きる人々の営みが関わって形成されている。それは大都市でも山村でも同様である。本授業では、こうした地域を形作るさまざまな要素の関係を理解することを目的として、地図や GIS (地理情報システム) の利活用、そしてフィールドワークを実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			比較文化プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。「日本文化」という言葉は日常的に目にするが、「日本文化」とは何かという問いにさえ明確な答えは出せない。本授業では、例えば「日本文化の特質」といったものを規定することや、文化を安易に比較することの危険性について議論しつつ、多文化共生社会の中で、どのように文化を捉え考察するべきなのか、具体的にその方法を見いだしていくことを試みる。	講義 16 時間 演習 14 時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	文化構想領域 プロジェクト科目	人間存在論プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。私たち「人間」とは何なのか、なぜ存在しているのか、古代から繰り返し問い続けられてきた。そしてテクノロジーが進化し、AI技術が発展する今日、これまでも増してこの問題に向き合う重要性が増している。本授業では、教員が紹介する文献・映像資料を参照しながら、グループごとに具体的な事例に則して、これからの「人間」のあり方と意味を見いだし、提案していく。	講義 16 時間 演習 14 時間
		都市と周縁プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。異なる文化をどのように理解するかに関心を向けてきた人類学が、都市に住まう人々やその文化を研究対象とするようになって久しい。本授業では、まず、人間だけでなく多種多様なモノが交錯・集積することで成立している都市において、どのような人類学的なアプローチが可能なかを考える。その上で、都市における民族誌的営みを企画・実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間	
		国際社会と日本語プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。世界各国で日本語を外国語として学ぶ日本語ノンネイティブスピーカーの学習者は、年々増加している。海外での日本語学習者数の増減は、そのときの日本の政治、経済、文化やその国との関係に大きく関わっている。本授業では、普段使用している日本語について客観的に観察し、国際社会で起こっているさまざまなことを身近なこととして捉え、日本語教育学を通して日本語学習者の学習支援を実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間	
	基幹科目	表象文化論	美術史と美術批評の方法論に取り組む。まず「表現」を「表象」と言い換えることで、何が生じるのかを考える。例えば「表象」とは、静的な意味を表わすものではなく、動的な行為を示す何かである。ひとつの「表象」は作家一個人の内面をそのままカタチにしたものではなくそれを超えたもの、つまり、歴史的、倫理的、政治的、美的な文脈が重なる点で、各文脈を抑制したり促進したりするものである。本授業では、さまざまな芸術作品を鑑賞しつつ、各作品に「表象」の豊かさを見い出す。「表象と感性プロジェクト」の対応科目。		
		地域と歴史	歴史を時系列で読み解くのではなく、地域社会や社会の諸集団などの視角から学ぶ。人々の歴史とは中学校・高校の教科書で学ぶ国家史の枠組みに必ずしもとらわれない。当然、国家や権力の影響を受けるが、一方で社会はある種の自立性を獲得し、自律的な展開をみせるものでもある。こうしたさまざまな歴史的事象を「村落」「都市」といった地域的な共同体の視角から、また「職人」「商人」「宗教」「文化」といった生業や社会的属性の視角から読み解いていく。こうした同時並行的に展開する複数の線が複雑に絡みあう姿を自らの視角で理解し、表現できることを目的とする。「歴史学プロジェクト」の対応科目。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	協働学習プロジェクト科目	文化構想領域	基幹科目	環境と社会	地域は、その土地に固有の自然環境を土台として、そこに生きる人々の営みが積み重なって形成されている。本授業では、こうした地域を理解するために、国内外のさまざまな地域の環境や、環境と社会との関係を具体的な話題を通して紹介する。そして、地域の環境や社会と深く関わって発生する自然災害や環境問題について実際に考えることを通して、さらなる地域理解を試みる。これらを通じて、地域に関わる幅広い教養を身に付け、多角的な視野を獲得することを目指す。「地理学プロジェクト」の対応科目。	
		思想と文化		人類は世界を、人間をどのように見てきたのか、つまり現代のわれわれの世界観や価値観を形成するものは何か、その普遍性と特殊性について考える。その有効な切り口の一つとして神話がある。神話は古代のものという見方は誤りであり、思想・文化の精髓であると言える。その証拠に、小説・映画・アニメといった大衆文化から、生活習慣、さらには政治のなかにも、神話モチーフは存在しているのであり、神話を読み解くことで「思想と文化」に対する視点を得ることができる。本授業では、できる限りマクロな視点から考察を深めていく。「比較文化プロジェクト」の対応科目。		
		テクノロジーと人間		「テクノロジー（科学技術）」は現代人の生活になくなくてはならないものになっている。いまや、地球全体にまで影響を及ぼすほど強大な力を持つに至ったと言える。テクノロジーは、人間の諸目的を達成するための知識と技術であり、技術を利用する方法の体系である。その方法の体系をどう組み立てていくかが、現代人に課せられた課題である。本授業では、社会がこれまでテクノロジーとどのように向き合ってきたのか、さまざまな事例をもとに考察し、これからどのように向き合うべきであるのか、科学者や哲学者の提言をもとに考察を進めていく。「人間存在論プロジェクト」の対応科目。		
		異文化の理解		人類学は、世界中のさまざまな「文化」を実証的に調査することを通じて、“「他者」を理解するとはどういうことか”、あるいは、“どのように理解することが可能なのか”を問うてきた学問である。われわれの日常においても自分とは異なる「文化」を持つ「他者」と出会うことが多くなってきている。本授業では、まず人類学が取り組んできたいくつかのトピックを取り上げ、世界の諸地域における具体的な事例に依拠しつつ、異文化理解の枠組を考える。こうした事例研究を通して、異文化の理解とはどのようなものでありうるかを検討しながら、現代におけるその可能性を探る。「都市と周縁プロジェクト」の対応科目。		
		多文化社会と日本語		日本国内の国際化に伴い各地域において在住外国人が増加しており、在住外国人を対象にした地域の日本語教室での日本語教育が、各地で盛んに行われている。また、外国人住民とのコミュニケーションのために、多言語で情報提供することに加え、最近では日本人側が「やさしい日本語」を使用することが提唱されている。本授業では、国籍、言葉、文化の異なる多様な背景を持つ人達と共に生きる「多文化共生」について、日本語教育学を通して理解し、考察することを目指す。「国際社会と日本語プロジェクト」の対応科目。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	文化構想領域 接続科目	英語圏異文化交流論	イギリスや、北米・オセアニア等の英語圏諸国と日本との間には 100 年以上の交流の歴史が存在する。また、英語圏諸国はアジアの日本の近隣諸国やアフリカなどその他の地域にも存在する。これらのさまざまな英語圏諸国の歴史や文化を学び、その知見に基づいて日本と英語圏諸国のさまざまな文化的交流のあり方について考える。そうした学びを通して近代国家というもののあり方、国家間や国家を超えた和平の形について批判的に考察できる能力を身に付けることを目指す。	
			英語圏比較文化論	19 世紀から現代までの北米、オセアニア、イギリスといった英語圏諸国の日本人観、日本人の英語圏諸国への見方の変遷と、その背景にある国際政治、国際政治との関わりを、文化的な題材をもとに年代順にみていく。両者が互いに抱いてきたイメージと、その歴史的な変遷に注目し、背景にある国際政治、国内政治との関わりを考える。現代のグローバルな人種、民族問題について、またメディアを通じた異文化理解の問題について、基礎的な知識、理解、当事者意識を身に付ける。	
			中国語と生活文化	日本は古来より中国の文化を取り入れることに熱心であり、都市計画など大規模なものから箸のような日用品に至るまで容易に中国の文化を見つかることができる。漢字や仏教、茶、祝祭日はもちろん、呉服や唐傘、漢方薬などその名称が中国起源を示しているものも少なくない。本授業では、中国の生活文化を題材とした中国語文を読みながら同時にそれを日本の文化と対照し、議論を通じて日中の共通点と互いの独自性について理解を深める。	
			中国語圏の言語文化	中国語は地域的な広がり、および歴史的な広がりにおいて極めて多様な言語である。その多様性をつなぐのが漢字であるが、漢字は基本的には表意文字であるため、文字に含まれるそれぞれの部品の意味を知ることによって、文字全体の意味を解釈できる。本授業では、藤堂明保著『漢字語源辞典』の単語家族に関する記述を参考にしながら、上古(周代)漢語の音韻体系と甲骨文字や金文を手がかりに、形と意味の関係を探り、古代人のものの見方や発想法を学ぶ。	
			スペインの言語と文化	スペイン語がカスティーリャ語とも呼ばれるのはなぜか。スペイン語はもとよりラテン語の末裔であり、イタリア語、フランス語、ポルトガル語のみならず、スペインのカタルーニャ語やガリシア語などとも同系である。本授業は、スペイン語の成り立ちとスペインの中の非スペイン語について言語学的に考える。また社会的には、少数言語の保全や教育政策、スペイン語の対外普及活動など、言語と社会、つまり人間との関わりを考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	協働学習プロジェクト科目	文化構想領域 接続科目	ラテンアメリカの言語と文化 カリブ海域を含め北米大陸から南米大陸にかけての広大な地域ラテンアメリカにおいて、最大の話者人口を擁する言語はスペイン語である。米国のスペイン語母語話者 6,000 万人の社会文化的影響力も拡大の一途をたどる。スペイン語がこれほどまでの地域的広がり5億人の人口規模を持つに至った歴史を15世紀に遡って詳らかにし、スペイン人による植民地支配を経るなかで生じた文化的混淆の特質を学ぶ。また、3000年の歴史を持つ先住民族の諸文明についても知り、先住民族が言語文化をいかにして主体的に保存・振興しようとしているかにも着目する。	
		インドネシア語と生活文化 インドネシア（および東南アジア世界）に関心を持つ学生を対象に、インドネシアにおける衣・食・住および伝統文化や伝統芸能、宗教を取り上げ、これらの現代的な変化や将来的な課題について理解することを学修の到達目標とする。本授業では、ことわざや所作など生活に関わるインドネシア語の短いフレーズや語彙を合わせて学ぶ言語的な視点も含めて多角的な理解に取り組むことで、異文化を理解し、多文化の中で生きるための思考力を養成する。		
		インドネシア語と現代文化 われわれの生きる基盤ともいえる「文化」は、現代においては人々の行動を考える上での重要な要素となっている。グローバル化の真ただ中にある今、現代文化の多様性と画一性を考えることは十分に意義のあることと言える。本授業では、現代文化を象徴するモノ、すなわち、広告、SNS、ポピュラーミュージック、マンガ、アニメといったモノを題材に、インドネシアの現代文化の様相を考察する。考察にあたってはインドネシア語で書かれた一次資料を活用し、語学運用能力の向上にも結びつけていく。		
	国際共生領域 プロジェクト科目	地域研究プロジェクト （英語と諸地域）	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、①原語と翻訳の比較、②パロディ作品作成という2つの課題を柱として、言語・文学（映像含む）の両面から複数の異なる視点に立って考える方法を身に付け、文化の多様性を理解することを目的とする。①では、教員によるきっかけ作りの後、学生自らが注目すべき翻訳例を選んで発表する。②では、語り手の役割・視点の転換・パロディ等に関するさまざまな方法について学んだ後、グループに分かれて、それらの方法を実践すべく創作活動に取り組む。	講義 16 時間 演習 14 時間
		地域研究プロジェクト （東アジア世界）	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。ここでは中国、香港のほか、台湾や海外の華僑・華人社会を含む中国語圏の政治や社会の問題を主なテーマとする。中国は広大で多様な自然環境をもち、多民族国家でもある。近年、急速な経済発展を遂げ、国際社会でも存在感を高めている。他方、中台関係や香港における「一国二制度」など、兩岸三地には政治的論点も存在する。そこで、政治、経済、外交、民族、環境など複数の視点からそれらを解決するための方策を立案する。	講義 16 時間 演習 14 時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	国際共生領域 プロジェクト科目	地域研究プロジェクト (スペイン語と諸地域)	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。スペイン語圏はスペインとラテンアメリカ地域に大別されるが、両地域の歴史・文化・社会に関して知識を得て、地域が抱える多文化共生にかかわる課題を発見し、解決の計画を立案する。スペインによる植民地化を端緒として現代まで関係をもつ両地域は、民族問題等の共通の社会文化的問題を抱えている。本授業では、ヨーロッパとアメリカ大陸にまたがるスペイン語圏が抱える歴史的・現代的問題を、それぞれの視点から考察し、問題解決の方策を立案する。	講義 16 時間 演習 14 時間
		地域研究プロジェクト (東南アジア世界)	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業は、基幹科目「グローバルスタディーズ (東南アジア世界)」に連動している。同基幹科目を通じて得た知見を活かしながら、東南アジア世界の「人々」「モノ」について「現代」をキーワードとして受講生自らが主体的に企画し、実践作業を行っていく。具体的には、個人あるいはグループが「東南アジア世界のいま」について文献資料調査やフィールド調査の手法を用いて研究を進め、成果をプレゼンテーション発表し、討議を通じて知識の共有ならびに研究の深化を図る。	講義 16 時間 演習 14 時間	
		海外特別プロジェクト I	(概要) 講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、2 年次後期に海外留学中の学生を対象に、メディア授業を実施する。学生はまず留学先の地域を知るための方法を学びつつ、発表し相互に意見交換をすることで、その地域の特性についての理解を深め、今後日本とどのような関係を築いていけるのか、提案する。 (オムニバス方式/全 15 回) (3 有馬 善一/5 回) 留学先の地域調査を行い、成果をまとめて報告し、相互に意見交換する。 (11 橋本 正俊/5 回) その都市(地域)が日本人にとってどのような魅力があるかを考察し、日本に向けての発信を企画し、意見交換する。 (20 田中 悟/5 回) Web や図書館、インタビューなどを活用し、さらに地域の特徴を分析して報告し、相互に意見交換する。	オムニバス方式 講義 16 時間 演習 14 時間 メディア	
	基幹科目	グローバルスタディーズ (英語と諸地域)	英語は公用語として使用されている、いわゆる英語圏諸国にとどまらず、その他の地域でも広く用いられている。世界に広がる英語や文学、文化、風習、および非英語圏において英語の使用がどのように現地文化に影響を及ぼしたかなどについて、文学作品、映画、芸術作品などを題材とし、概観する。英語がどのような特徴をもち、英語圏のみならず非英語圏においてどのように使われているかについて、各地の文化と合わせて理解を深める。「地域研究プロジェクト (英語と諸地域)」の対応科目。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	国際共生領域 基幹科目	グローバルスタディーズ (東アジア世界)	古代の東アジアには漢民族が日本や朝鮮、ベトナム、チベットなどの地域を「中華」として組み込む独自の世界観があり、中華という概念自体も歴史の流れの中で拡張と縮小を繰り返してきた。そして現代における中国やその周辺地域との関係も中華をキーワードとして語ることができる。本授業では、日本が中国から取り入れてきたものや高等学校で学んだ歴史を振り返りながら、中国、台湾、香港などから成る「中国語圏」が形成されてきた経緯を概観する。「地域研究プロジェクト(東アジア世界)」の対応科目。	
		グローバルスタディーズ (スペイン語と諸地域)	スペインおよびラテンアメリカについての課題発見と解決方法の立案に欠かせない知識のインプットを目的とする。本授業では、「スペイン語圏」が形成される歴史の経緯を概観する。すなわち、大航海時代とその後の植民地支配に関する知識を共有する。諸国が独立した後もスペインは旧宗主国然としているところが経済面、文化面でも見られる。このような現代にも及ぶスペインとラテンアメリカ諸国との関係について考える。「地域研究プロジェクト(スペイン語と諸地域)」の対応科目。		
		グローバルスタディーズ (東南アジア世界)	テーマは、「東南アジア世界」に関する知見を広げ、深めることにある。本授業で取り上げる「東南アジア世界」とは、インドネシア・カンボジア・シンガポール・タイ・東ティモール・フィリピン・ブルネイ・ベトナム・マレーシア・ミャンマー・ラオスの11カ国を指す。これらの国々の特徴として、「多様性」が挙げられる。そこで、「地理」「歴史」「政治」「経済」「社会構造」「文化構造」といった側面から東南アジア世界の「多様性」を明らかにし、日本との関係性を把握し、グローバル社会に生きるわれわれの姿を見つめ直す。「地域研究プロジェクト(東南アジア世界)」の対応科目。		
	接続科目	英語で考える環境問題	現代世界の環境問題についてオーセンティックな英語資料を用いて学び、問題への解決策を実際に考える活動を通じ、英語四技能を訓練する。気候変動、エネルギー消費、環境汚染、水質汚染、過剰開発など、ローカル、グローバルな環境問題を幅広く学ぶ。リーディングおよびライティングの訓練としては、まず環境問題に関する短い動画を閲覧し、動画のスク립トを読む。読解においては、推論的(inferential)な読解、評価的(evaluative)な読解を意識的に行い、環境問題についての批判的思考を身に付ける。続いて、自ら思考したことについて明確な論点と適切な構成を備えた作文を行う。リスニングおよびスピーキングの訓練としては、動画クリップを用いたシャドーイングを行う。総合的な訓練としては、学んだ内容についてのプレゼンテーションとディベートを行う。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	国際共生領域 接続科目	英語で考える社会問題	持続可能な開発目標（SDGs）についてオーセンティックな英語資料を用いて学び、問題への解決策を実際に考える活動を通じ、英語四技能を訓練する。貧困、飢餓、教育、ジェンダー、不平等、持続可能な生産と消費、平和といった幅広いトピックを取り上げる。リーディングおよびライティングの訓練としては、まずSDGsに関する短い動画を閲覧し、動画のスク립トを読む。読解においては、推論的（inferential）な読解、評価的（evaluative）な読解を意識的に行い、SDGs についての批判的思考を身に付ける。続いて、自ら思考したことについて明確な論点と適切な構成を備えた作文を行う。リスニングおよびスピーキングの訓練としては、動画クリップを用いたシャドーイングを行う。総合的な訓練としては、学んだ内容についてのプレゼンテーションとディベートを行う。	
			中国語を通して見る世界	世界の動きや地球規模の問題を中国語のメディアを通して読み取り、日本メディアの態度と対比することで多角的な視野を身に付ける。災害や貧困、戦争、エネルギー、スポーツ、芸術などさまざまなトピックについて日本と中国語圏の間で関心の対象が同じなのか違うのか、どのような部分に着目し、何を発信しようとしているかについて議論する。また、メディアの政治的な立場によって取り上げる重点や評価が大きく異なることを知るとともに、その背景について考える。	
			中国語圏の地域と共生	中国語圏の多くの地域では複数の民族が混在しながら暮らしており、同じ民族でも言語や宗教によって独自のコミュニティーを形成している。そこでは力のバランスや異なるコミュニティー間の利害関係においてさまざまな問題を抱えるが、共生を目指す努力も絶えず行われている。また日本を含む世界各地でマイノリティとして暮らす中国系住民にも、現地に根付いて共生するための工夫や知恵が見られる。本授業では、中国語圏に見られる共生のあり方をできるだけ多くの事例を通して考える。	
			スペインから世界を見る	スペインは、ギリシア・ローマ文明、キリスト教、ラテン語という「ヨーロッパ」を形成する核となる要素が色濃く、文明論の恰好の題材を提供してくれる。そのため、ヨーロッパと西洋化された近代および現代の世界を考えるための素地として、スペインの歴史文化を概観する。テーマとしては、各地域の言語、食、祭り、芸術、文学などを扱う。また、ヨーロッパあるいは人間社会の縮図として、スペイン国内における分裂と統合の動きを考える。	
			ラテンアメリカから世界を見る	現代世界の構造的背景をなす新自由主義は、そのイデオロギーを「常識」として定着させてきた。ラテンアメリカは新自由主義改革とそれがもたらす一連の負の累積効果において日本に先行してきた地域である。だからこそ日本にとって、ラテンアメリカの政府、企業、市民社会が編み出してきた政策や戦略、運動、そしてその成果と限界を分析することから得られる教訓がある。新自由主義的グローバル化がラテンアメリカに引き起こした貧困・格差、移民、麻薬カルテルと暴力、先住民運動と共同体の破壊、乱開発などの難題について事例をもとに検証する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	国際共生領域	接続科目		
		インドネシア語で世界を知る	本授業は、特に、宗教・政治・経済・社会問題を取り上げ、インドネシアの人々がインドネシア語でどのように世界を捉えているかを理解することを学修の到達目標とする。各回それぞれのトピックスを設定し、日本・インドネシア・その他の国／地域、さらには個々の国・地域の中で、また個々の国・地域を横断して存在する多様な立場や関係性を認識することで、グローバルゼーションの中での世界をより深く理解し、多様性の中で生きるための思考力を養成する。		
		マレー語圏の地域を知る	マレー語は、古くから東南アジア海域社会での共通語として広く使用されてきた。現在、マレー語を国語と定めている国はマレーシア、ブルネイ、シンガポールの3カ国だが、インドネシアやフィリピン南部、タイ南部、東ティモールなどは、広くマレー語圏として捉えることが可能である。本授業では、マレー語がどのような広がりを見せてきたのかを、まず歴史的に捉えることから始める。その上で、現代においてマレー語がそれぞれの国でどのような使われ方をしているのかを見ていく。		
	社会協創領域	プロジェクト科目	言語コミュニケーションプロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、ことばと社会の密接な関係について考察し、ことばが実際に用いられる「文脈」の変化が言語の運用にどのような影響を与えるのかを探る。さまざまな場面における言語表現を題材にして、主に日本語における社会と言語の関係についての実地調査を実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			メディアと現代社会プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。日常的なコミュニケーションや文化体験は、現代社会においてはメディアなしには成立しない。メディアの発達によって人間の身体性は拡張する一方、これに伴って喪失あるいは変容した旧来の身体性もある。本授業では、近現代のメディア（出版物、映像等）を実際に分析・製作する体験を通じて、メディアと身体という観点から現代社会を捉え直す試みを実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			マイノリティ研究プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。日本では、宗教的、人種的、言語文化的マイノリティの権利擁護の急務は不問に付されたままである。これに対して世界では、女性、南アフリカの黒人、性的少数者、不可視化されている先住民族などさまざまな「マイノリティ」が主体的な運動を展開している。本授業では、ディスカッションを通して、マイノリティが直面する個別具体的課題を捉え、多様性を包摂する 21 世紀型グローバル市民国家／社会の構築に向けた方策を考察する。	講義 16 時間 演習 14 時間

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	社会協創領域 プロジェクト科目	地域研究・国際政治プロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、主に一国・一地域に焦点を当てる地域研究と、国家をアクターとして国家間の事象を扱う国際関係論という二つの学問的アプローチを学ぶ。その上で、事例研究に基づく地域間比較や時代間比較などを通じて、世界各国、各地域で起きている事象をより普遍的な観点から理解する視座を構築する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			地域とビジネスプロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。ビジネスの世界でも「グローバル化」が進んでいると言われて久しいが、さまざまな業界におけるグローバル企業の動向を見てみると、それぞれの国や地域の社会的特徴に合わせた事業を展開し、いわゆる「ローカライズ」(現地化)している場合も少なくない。本授業では、ターゲットとする地域市場の分析に基づいてビジネスモデルを企画するとともに、マーケティング戦略などの観点を交えてビジネス戦略についての研究発表を実践する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			国際貢献・ボランティアプロジェクト	講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、「国際貢献・国際ボランティア」の課題を見だし、今後の国際貢献のあり方、例えばボランティアを一過性のイベントとして終わらせないためにはどうすればよいのか、また被援助国(者)との関係はどのようなべきなのかといった問題について考える。そして、具体的な対象をもとに、議論を重ねながらその方法を見だし提案する。	講義 16 時間 演習 14 時間
			海外特別プロジェクト II	(概要) 講義と演習を交互に組み合わせ、インプットとアウトプットを繰り返しながら、学生が主体となって課題解決や目標達成のための計画を立案する。本授業では、3 年次前期に海外留学中の学生を対象に、メディア授業を実施する。学生はまず留学先の地域を知るための方法を学びつつ、発表し相互に意見交換をすることで、その地域が抱える社会的課題についての理解を深め、日本社会とも比較しながら、課題解決の方法を模索し提案する。 (オムニバス方式/全 15 回) (1 西川 眞由美/5 回) Web や図書館、インタビューなどを活用し、地域が抱える課題について調査・報告し、相互に意見交換する。 (2 浅野 英一/5 回) 留学先の地域調査を行い、成果をまとめて報告し、相互に意見交換する。 (12 北條 ゆかり/5 回) 日本の都市(地域)と留学先地域との比較を通して、互いの課題の解決策を提示し、意見交換する。	オムニバス方式 講義 16 時間 演習 14 時間 メディア

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	協働学習プロジェクト科目	社会協創領域	基幹科目	ことばと社会	ことばと社会の密接な関係について考察すると同時に、言語研究の方法論について取り組む。ことばが実際に用いられる「文脈」(状況)が変われば、例え同じ意味(内容)を伝達するとしても、表現(形式)が大きく変化するような事例を考える。具体的には、「媒体」「状況」「相手との間柄」など、さまざまな要因に合わせてことばが細かく変化するため、コミュニケーションの分析には、「ことば」そのものにとどまらず、それを取り巻く「社会」(状況)との関係を分析するのが不可欠なのである。本授業では、さまざまな場面における言語表現を考察しつつ、主に日本語と英語における共通点や相違点を併せて探っていく。「言語コミュニケーションプロジェクト」の対応科目。	
				メディア文化論	近現代の主要メディアの歴史や内実を幅広く検証し、「これまで」のメディアが人間の身体や社会をどのように変容させたかを辿ると同時に、「これから」のメディアがどのように展開していくかを考察する。身近な情報を集めることから、国際的な交流においてまで、私たちはさまざまなメディアを使用して生活している。日常的に接しているメディアについてのリテラシーを養うだけでなく、メディアの歴史や特徴を学術的に理解し考察できる知識を身に付けることが目標となる。「メディアと現代社会プロジェクト」の対応科目。	
				ジェンダーとマイノリティ	今日の文化・社会を理解する上で、重要な視点の一つにジェンダーがある。本授業では、「ジェンダーとはなにか」という基礎的な問いにはじまり、文化的・社会的な性の有り様としてのジェンダーが、歴史的にどのように構築され、また変化してきたかを考えていく。そして、各領域でジェンダーがどのように私たちの生活に関わっているのかを事例を通じて学び、ジェンダーに関する理解を深めること、より多角的な分析と理解ができるようになることを目指す。「マイノリティ研究プロジェクト」の対応科目。	
				比較政治学	一国・一地域を対象としてその内在的理解を目指す地域研究と、より一般的・普遍的な理論研究とを架橋する学問として「比較政治学」を位置づける。特定地域を対象として調査や研究を行う場合でも、その地域を理解するためには一般的な理論や普遍的な概念がその助けとなるし、特定地域で観察される事例が理論や概念に修正を迫ることもある。こうした観点から本授業では、基礎的な理論や概念を取り上げたうえで、各国・各地域の政治事象にも触れ、「比較して考える」スキルを身に付けるための手がかりとする。「地域研究・国際政治プロジェクト」の対応科目。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	協働学習プロジェクト科目	社会協創領域	基幹科目	
		国際ビジネス論	国内外のグローバル企業の事業展開に注目し、その事例とともに国際ビジネスの戦略について国際社会や経済の視点も交えて考察する。また、グローバル企業は、それぞれの国や地域に合わせて製品やサービスをローカライズ（現地化）している場合も少なくない。従って、文化・宗教・歴史的背景、社会的慣習、地理的条件といった多角的な観点から、どの要因がビジネス戦略に影響を及ぼしているのか具体的に分析し、ローカルとグローバルの両視点を交えて理解を深めていく。授業方法としては、アクティブ・ラーニングの手法を活かして学生がグループ活動を行い、それぞれのテーマについて研究発表することを最終目標とする。「地域とビジネスプロジェクト」の対応科目。	
	国際貢献論	現代社会における「国際貢献・国際ボランティア」のあり方や課題について学ぶ。本授業では、ボランティアを一過性のイベントとして捉えるのではなく、自分自身を見つけるチャンスとし、それを将来的に活用するようにできることを目指す。ボランティアとは何かという問いに始まり、次いで国内ボランティア、NGO、NPO、JICA ボランティア、民間ボランティア等の現場を素材にケーススタディを行い、国内外の社会常識と知識を深める。さらにボランティアとしての自覚や、ボランティア活動を一過性のイベントとして終わらせないための方策などについて考える。「国際貢献・ボランティアプロジェクト」の対応科目。		
	接続科目	Studies in Media and Communication	<p>(英文) In recent years, the environment surrounding the media has changed dramatically. Old media such as newspapers, magazines, radio and television have lost their momentum, while digital media such as the internet and social media are on the rise. The media are indispensable to our lives, but depending on how they are used, they can also be a weapon, just like fake news, which has recently become a problem. Understanding the media is essential in 21st-century society. In this class, we will look back at the history of media and learn about the characteristics and features of certain types of media including movies, music and advertising in English.</p> <p>(和訳) 近年、メディアを取り巻く環境は激変している。新聞、雑誌、ラジオ、テレビといった旧メディアは勢いを失い、インターネットやソーシャルメディアなどのデジタルメディアが台頭している。メディアは私たちの生活に不可欠だが、昨今、問題となっているフェイクニュースのように、使い方によっては「凶器」にもなる。メディアについて理解することは、21世紀の社会において必須と言えるだろう。そこで、本授業では、メディアの歴史を簡単に振り返りながら、映画や音楽、広告なども含めた、各メディアの特徴や特性を英語で学ぶ。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	協働学習プロジェクト科目	社会協創領域 接続科目	Studies in Hospitality and Tourism	<p>(英文) This course will examine tourist events in the leisure industry around the world. An overview of the history, the reasons for holding the events, planning and organization of events will provide the focus of the course. Students will demonstrate an understanding of the roles and significance of tourist events and experiences in past and present societies, and knowledge of the factors surrounding the process of organizing an event.</p> <p>(和訳) 世界中のレジャー業界での観光イベントについて学修する。歴史の概要とイベントを開催する理由を学び、イベントの企画運営についても掘り下げる。さらに、過去と現在の社会における観光イベントやその体験の役割と重要性について理解し、イベントを組織する過程に伴う要因についての知識を身に付ける。</p>	
			中国語で読み解く地域社会	中国語の教材に登場する場所は多くは中華人民共和国の北京または上海である。しかし実際には香港、台湾、東南アジアや欧米の華僑コミュニティーでも中国語が使われ、それぞれが独自の政治や経済、文化を持ち、そこに住む人々の関心もそれぞれ異なっている。さらには中華人民共和国の中でも地域によってその様相が大きく違っている。本授業の目的は、さまざまな地域のローカルな話題に触れながら中国語圏の多様性を知ることにある。	
			中国語圏から社会を考える	今日地球レベルで国際化、情報化、開放化が進んでいる。この流れの中で世界最大の発展途上国の中国も凄まじい発展を遂げながら、さまざまな問題を抱えている。いまの中国のもつ魅力と問題点を歴史的、総合的な視点から明らかにしていくことが本授業の目標である。具体的には現代中国社会に関して、政治、経済、教育、文化、人口問題などを中心に議論をしながら、中国の全体像を正しく捉えてその社会の理解を深める。	
			スペイン語を通して学ぶヨーロッパ社会	平明なスペイン語の文章読解を手掛かりに、現代のヨーロッパ社会の問題を考える。EUは、ヨーロッパの多様性と同一性の中で揺れ続けている。「多様性の中の一体性」とはどのような理念でありどのような現状があるのか。本授業は、ヨーロッパの分裂と統合の力学の背景にある歴史を考える。また、移民問題などのヨーロッパを分断する外圧と、複言語・複文化主義という諸国間の相互理解ならびに公平性の担保の努力についても考察する。	
			スペイン語を通して学ぶラテンアメリカ社会	スペイン語圏の新聞などを教材に、現代における途上国の社会問題を読み解く素養を身に付ける。現代ラテンアメリカにおける社会問題を国際社会の動向を絡めて考察する。ラテンアメリカでは依然として植民地遺制としての不平等社会が広がっている。本授業では、ラテンアメリカにおいて発展を妨げる伝統的な社会構造を明確にした上で、現代における貧困問題の構造および民族問題を事例として取り上げて考察する。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	協働学習プロジェクト科目	社会協創領域	接続科目	
		インドネシア語で考える現代社会	昨今のグローバル化の急速な進展は、われわれの生活環境や人間関係を大きく変容させている。特に ICT 化による影響は著しく、インターネットや SNS を通じて多くの情報が氾濫している。本授業では、インターネット上に溢れている、インドネシア語で書かれたあらゆる情報を分析し、情報の取捨選択をしながら現代社会のありようを探っていく。また、社会変容に伴い、インドネシア語の新語や流行語も数多く生まれている。それらについても追いかけていき、社会構造分析の手立てとする。	
		マレー語で考える国際社会	世界の諸問題がマレーシアでどのように伝えられているかを理解することを目指す。地球上に生起する種々の現象は、それぞれの国のメディアで取捨選択されて人々のもとに届けられる。こうしたナショナルな流通回路の外側へのアクセスを試みることは容易になってきているものの、出来事がどのようにマレーシアの人々に届けられようとしているかを知ることは、マレーシア社会を理解するための必要なステップとなる。本授業では、マレー語で書かれた新聞や雑誌の記事を読みながら、そこに浮かび上がる国際社会の一つの像を見定めていく。それは、同時にマレーシア社会を捉え直すことにもなる。	
	実習・演習科目	課題解決型ワークショップ	本授業は、世界あるいは日本における多様な課題解決への主体的な参画を志向する学生を対象とする。観光や農業などを対象とする現代的な課題分野について、小グループごとに仮説を構築し、文献調査、聞き取り調査、グループディスカッション、プレゼンテーションなどを通じて、実践的にその仮説を検証・ブラッシュアップし、最終的には社会に向けてその成果を発信する一連の取り組みを通じて、課題解決のための実践力・思考力を養成する。	
		ホスピタリティ実習演習	観光立国を目指す日本において、エアラインの役割はますます重要となってきた。まず、交通インフラの拠点である空港の役割を把握する。そして、航空機を運航するための機能と多様な職種の役割、協力を理解し、さらに、お客様満足「安全」「安心」「定時制」「快適性」「顧客満足」を得るための努力を理解する。その後、授業の一環として行う学外での空港研修により、授業で得た知識を実際の目で確認するとともに、将来の就業意識を高める。	
		海外インターンシップ	海外企業の現場視察や、実際に就業体験することによって、ビジネスの現場の言葉遣いやマナーを学ぶとともに、そこで働く人たちの現状や意識を正しく認識することを目的としている。また、日本と相手国の生活や文化の違いを正しく理解し、それらを尊重できる態度を身に付けるとともに、自分の考えを明確に表現し、コミュニケーション能力を向上させることも目的の一つとする。	集中

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	協働学習プロジェクト科目	実習・演習科目	海外実習	世界の中の日本を理解し、国際的な立場で活躍する人材の育成という教育理念を実行に移す最も有効な手段の一つとして、海外実習を実施する。実習先大学において独自のプログラム授業を受けるとともに、現地での体験を通して、生活に密着した言語表現を学び、語学力に磨きをかけることを目的とする。日本と実習先の国の生活や文化の違いを正しく理解し、自分と異なる考え方や生き方をする人々の存在を認め、それらを尊重できる態度を身に付ける。同時に、自分の考えを明確に表現し、意思疎通の図れるコミュニケーション能力を育成する。	集中
			体験型特別実習	学生の主体性・自主性を喚起し、将来のキャリアについて体系的に学ぶことを目的としている。学生が主体性・自主性をもって活動計画を立て、実行し、報告を行う。まず、担当者の指導の下、学生自身が主体的に計画を立て、社会的活動（授業外の研究活動やインターンシップ、ボランティア活動など）に参加する。活動中は指導に基づいて日誌を付けて活動内容を記録し、活動後に成果や反省点をプレゼンテーション形式で報告し、学生相互、および複数の教員の審査を受ける。	集中
文化社会科目	地域文化科目		世界を学ぶ	本学部で学ぶ前提として、世界に関する基礎的な知識や教養を身に付けることを目的とする。現下の国際情勢は、一層混迷の度合いを深めている。今後、世界が向かう先を考える上で足掛かりになるのは、世界各地の地理、歴史、文化に関する基礎的な知見である。それを得ることで、私たちは自らと世界のあいだの距離を測り、世界と向き合い、世界にかかわる道を拓くことができる。本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、それらをアウトプットし、自らの言葉で発信できるようにする。	講義 18 時間 演習 12 時間
			日本を学ぶ	本学部で学ぶ前提として、日本に関する基礎的な知識や教養を身に付けることを目的とする。国際社会を学ぶ上で、自らの立ち位置である日本について知ることは必須である。地理、歴史、社会、文化といったさまざまな視点から日本について学び、世界の国々と比較することで社会や人について考察を深める。なお、本授業では、講義と演習を交互に組み合わせ、単なる知識の修得に留まらず、それらをアウトプットし、自らの言葉で発信できるようにする。	講義 18 時間 演習 12 時間
			エリアスタディーズ 北アメリカ	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としての北アメリカに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスボンズペーパー、グループワーク等）に取り組む。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目	地域文化科目	エリアスタディーズ ラテンアメリカ	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としてのラテンアメリカに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	
			エリアスタディーズ 東アジア	（概要）人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としての東アジアに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。 （オムニバス方式／全15回） （20 田中 悟／6回） 朝鮮半島を中心に講義する。 （26 小都 晶子／9回） 中国圏を中心に講義する。	オムニバス方式
			エリアスタディーズ 西アジア・南アジア	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としての西アジアと南アジアに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	
			エリアスタディーズ 東南アジア	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としての東南アジアに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目	地域文化科目	エリアスタディーズ アフリカ	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としてのアフリカに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	
			エリアスタディーズ ヨーロッパ	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としてのヨーロッパに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	
			エリアスタディーズ オセアニア	人文・社会学的研究を行う上で、刻一刻と状況が移り変わる国際社会の多様性と、そこで機能する力学を理解することは必要不可欠である。例えば私たち一人ひとりが向き合わなければならない「世界と日本の関係」にしても、実際の「関係」の内容や問題は多岐にわたっている。この事実を踏まえた上で、本授業では、主に地域としてのオセアニアに注目する。講義や資料の内容を鵜のみにするのではなく、自ら問いかける姿勢を持って授業の課題（宿題、リスポンスペーパー、グループワーク等）に取り組む。	
	一般学芸科目		共同体論	ヨーロッパのコミュニティー・ケアの実践を通して、共同体と国家・地域・家族・個人との関係性について考えていく。焦点は、エスニック・マイノリティとしての移民と、セクシュアル・マイノリティとしての LGBT である。本授業では、法制度の整備を中心とする政府主導の改革だけでなく、民間の取り組みやマイノリティ側からの権利要求にも注目しながら、マイノリティ集団を社会統合していく上での諸問題を、グローバリゼーションと多文化主義をキーワードに考察する。	
			多文化共生論	世界の多様な文化がいかにかに生成され、成長し、発展を遂げ、盛衰していくのか。「後進国」という表現への反省から「途上国」という表現が考案されたが、ここに潜むバイアスとは何なのか。本授業では、文化と多様性の議論を、さまざまな立場の中に位置づけながら、文化進化論の枠組みを紹介する。その上で、批判的な検討を行いつつ、多様な文化とその共存について考える視点を養うことを目的とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	風土と地理	地理学は、空間・地域・環境といった視点から、自然・人・社会とそれらの関係性を捉える学問である。自然科学・人文科学・社会科学のさまざまな分野間の境界領域に位置し、対象や方法が多岐にわたっているという特徴も持つ。地理学の方法への理解は、私たち自身が興味を持つ問題や身近な課題について調べ、説明する力の獲得につながる。本授業では、そうした地理学の基本的な考え方を身に付けるため、地理学の発展とともに生まれた複数の方法を確認し、それらの比較を通して地理学を立体的に捉えることを目的とする。	
		国際関係論	「国連」という組織自体を知らない者はいないかもしれないが、それが具体的にどのような働きをしているのかについて、明確に言い当てることは比較的困難である。本授業では、国連をはじめとする国際機構がどこから来たのか、それは何でできているのか、そしてそれはどこへ行くのかを確認する。さらに平和、貧困、人権など、いまだに問題が山積している 21 世紀において、それらと直面する国際機構の現状を踏まえ、私たちの未来のあり方について検討する。		
		国際社会と経済	第二次世界大戦後から現在までの世界経済の展開と仕組みについての知識を深め、国際社会の潮流を踏まえつつ世界経済の動向を読み解く素養を身に付けることを目的とする。戦後のブレトンウッズ体制による国際経済協調体制から多国籍企業の台頭によるグローバル経済までの流れについて整理された知識をインプットした上で、グローバル・バリューチェーンの概念を手がかりとして、昨今の多国籍企業の戦略、先進国・新興国・途上国の関係、AI の影響、世界経済の発展に伴って生じる環境や社会格差等の問題の 4 点について事例を読み解く訓練を行う。		
		メディアリテラシー論	現代社会においては、インターネットの発達に伴い、メディアからの情報の量も質も大きく様変わりしている。文字通り、情報の洪水の奔流の中で、嘘と真実を見分ける能力が必要とされている。また、ソーシャルメディアを通じて、自ら情報発信をする機会も格段に増えており、情報を読みとる力と発信する力の両方が必要とされている。本授業では、メディアの社会的特性を理解し、適切な情報読解と発信をするために必要な知識とスキルを修得することを目標とする。		
		現代社会論	昨今、「ブラック企業」「婚活」「インスタ映え」「イクメン」「コンパニオンアニマル」といった新しい概念をもった言葉が頻繁に使われ、それをめぐる言説が展開されている。これらの言葉や言説はまさに、現代社会を象徴している。本授業では、これらの言葉や言説をめぐる現象について、さまざまな観点から再確認することを通じて、私たちの社会の構造がいかなるものであるのかを明らかにする。それに際して、とりわけ社会と人との関わり合いに焦点を当てる。		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会 科目	一般 学芸 科目	地域と観光	<p>エコツーリズムに焦点を当てる。エコツーリズムとは、地域の自然や文化、歴史などの魅力を活かしながら、それらの資源の持続的な利用を前提とする観光の形であり、今後の観光を考えていく上で重要な概念である。本授業では、エコツーリズムの背景や理念を学ぶとともに、国内外のさまざまな事例を通じて、エコツーリズムの現状と課題、今後の展望について考える。それに際して、学生は自らエコツーリズムを企画するなど、能動的な取り組みが求められる。目標は、学生が持続可能な観光・地域のあり方について提言できるようになることを目指す。</p>	
			生物と環境	<p>環境をめぐる諸問題は、ニュースで見ない日はないほど身近な話題である。しかし、環境を理解するためには、さまざまな知識や考え方が必要である。本授業では、ヒトを含む生物と環境の関わりを学ぶことを通じて、私達の身の回りにある環境・環境問題を正しく理解できるようになるための知識や考え方を確認する。そして、これからの時代を生きる人類にとって避けて通れない環境問題の解決を模索していく上で、必要になる考え方を身に付け、自身で情報を見分けることができるようになることを目指す。</p>	
			ナショナリズム論	<p>古代ギリシアの時代より「国家」を語ることは人間の重要な仕事とみなされてきた。実際、それは国際社会を構成する基本的な単位である。それにもかかわらず「国家」は、私たちにとって必ずしも身近に感じられるものではない。本授業では、「国家とはどのような集団であり、なぜ存在し、どのような活動をおこなってきたのか」また「国家はこれからどこに向かおうとしているのか」といった問題に対して応答を試みるテキストを通じて、現代の国際社会について理解を深めることを目的とする。</p>	
			視覚文化論	<p>ルネサンスの芸術というと「高級」な絵画や彫刻という印象が強く、意味が「難解」で理解しづらいと考える人は多い。しかし実際には多くの表現が、市井の人々が日々生活していく時間に寄り添い、ときには人々を厳しくしつけ、またあるときは人々を癒すように作用した。本授業では、芸術作品と文字資料を対比し、かつて遠い異国の地に暮らした人々が成長とともに向かい合った困難の記録を確認する。その記録は、現代を生きる私たちが抱える困難にあらたな光を当て、それらと向き合うヒントにもなる。</p>	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	Studies in Popular Culture	<p>(英文) Popular culture is mass-produced culture that is intended for a mass audience. In order to appeal to a mass audience, producers of popular culture must anticipate the attitudes, beliefs, and values of consumers. By analyzing it, students can come to a greater understanding of the society for which it is produced. In this course, three questions will be answered. First, how does popular culture reflect the attitudes, beliefs, and values of society? To answer this question, students will draw on media studies to examine examples of popular culture for manifest and latent messages. Second, how does popular culture demonstrate the power relationships that exist in society? To answer this question, students will learn current theory in the fields of cultural studies and gender studies. Additionally, students will learn that popular culture not only reflects the attitudes, beliefs, and values of society, but may also contribute to forming these. Finally, how do the audiences of popular culture exert control over it? To answer this question, students will learn about participatory culture. This will include an examination of social media as a way of critiquing or expanding on popular culture. Forms of popular culture that will be examined in this course may include, but are not limited to, film, television, animation, comics, music, social media, and physical objects.</p> <p>(和訳) ポピュラーカルチャーは、大衆を対象とした大量生産の文化である。大衆にアピールするため、ポピュラーカルチャーの生産者は消費者の考え方、信条、価値観を予測する必要がある。本授業では、以下の3つの問いに答えることを目指す。まず、ポピュラーカルチャーは社会の考え方、信条、価値観をどのように反映するか。この問いに答えるために、メディア研究を通して明白なメッセージと潜在的なメッセージを含んだポップカルチャーの例を探る。次に、大衆文化は社会に存在する権力関係をどのように示すのか。この問いに答えるために、文化研究とジェンダー研究の分野における現在の理論について学ぶ。最後にポピュラーカルチャーの聴衆はポピュラーカルチャーをどのように統制しているのだろうか。この質問に答えるために、参加型文化について学ぶ。本授業で学ぶ項目には、ポピュラーカルチャーを批評する方法としてのソーシャルメディアの調査を含む。また、本授業で検討されるポピュラーカルチャーの形式には、映画、テレビ、アニメーション、コミック、音楽、ソーシャルメディア、その他のものを含む。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	文化社会科目	一般学芸科目	Studies in Language and Society	<p>(英文) For over 2000 years, Christianity has been one of the most powerful influences on western society, culture and language. Patterns of thought and belief from Christian traditions and texts, especially the Bible, continue to shape the way people produce, consume and understand popular culture. The themes and motifs from the stories in the Bible permeate novels, movies, music and other forms of art.</p> <p>For people who grow up in other societies, it is virtually impossible to understand many aspects of western culture and language without understanding Christian thought and value system. For example, along with Shakespeare, the King James Bible is the biggest single written source of vocabulary and phrases in English.</p> <p>This course will examine the influence on and contributions of the Bible and Christian thought to western culture, society, visual and performance arts from linguistic, conceptual, and symbolic perspectives. Students who take this course can expect to deepen their understanding of recurring biblical symbols, motifs and language in novels, movies and TV and be able to explain them.</p> <p>(和訳) 2000 年以上にわたって、キリスト教は西洋社会、文化、言語に最も強力な影響を与えてきた。キリスト教の伝統とテキスト、特に聖書からの思考と信条のパターンは、人々が文化を生み出し、消費し、理解する方法を形作ってきた。聖書の物語のテーマとモチーフは、小説、映画、音楽、その他の芸術形式に浸透している。非西洋圏で育った人々にとって、西洋の文化や言語の多くの側面を理解することは、キリスト教の考えや価値観を理解することなしには事実上不可能と言える。例えば、シェイクスピアと並んで、欽定訳聖書は英語の語彙や表現の宝庫である。本授業では、聖書とキリスト教思想が西洋の文化、社会、視覚芸術、パフォーマンスアートに与えた影響と貢献を言語、概念、象徴的な観点から考察する。小説、映画、テレビで繰り返される聖書のシンボル、モチーフ、言語についての理解を深め、それを説明できるようになることを目指す。</p>	
			言語学芸科目	音声学	<p>言語の音声・音韻体系に基づく調音音声学について、英語を中心に日本語や他の言語とも比較しながら、次のような内容について理解を深めていく。①母音や子音の発音記号とその音声的特徴、②音連続における連結・脱落・同化現象および強勢やイントネーション、③語順、品詞、分詞と動名詞などの文法と音声の関連性、④音韻の歴史の変遷、⑤言語の変種(方言)などについて具体例とともに学ぶ。</p>
		英語学概論	<p>英語の奥に潜むその仕組みを、統語論、形態論、音韻論、意味論、語用論などの諸分野から概観する。その際、英語の歴史の変遷を英国の歴史と絡めて概観し、歴史的な出来事がいかに英語に影響を与えたのかをみる。また、国際共通語としての英語の実態も踏まえていわゆる英語圏以外で用いられる英語の特徴についても学修する。</p>		

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会 科目	言語学 芸科目	言語学	外国語学修をするうえで、「言語」とは何かを理解し、また「言語」の多様性と共通性を理解することは必要である。言語学は言語に関わる分野の総称であり、守備範囲の広い学問分野であるが、本授業では、広い視点から言語しくみとはたらきや、言語と思考の関係、言語と文化の関係などについて学ぶ。個別言語の例としては日本語と英語が多くなるが、できるだけさまざまな言語の用例も取り上げる。	
			日本語史概説	私たちが何気なく使っている日本語には、毎年新たな言葉や表現が生まれているのは誰もが知るところである。その日本語の歴史を知ることは、現在の私たち自身を考察することにつながる。実際のところ、日本語は、文献が残されている時代に限定したとしても、発音も文字も文法もずいぶんと変化している。本授業では、日本語はどう変化したのか、なぜ変化したのか、という視点を設定する。その上で、古代を中心に各時代の日本語の変化を考察することで、日本語に対する認識を深めることを目指す。	
			英語意味論・語用論	「音声・文字」「統語」「意味」という言語がもつ3つの中核的な側面のうち、「意味」は目や耳で直接観察することのできない領域であり、これを記述するためには適切な方法を学ぶ必要がある。英語の語彙は個々に意味が変化したり、他の語彙と結びついたりして一つの言語表現になるなどさまざまな現象が見られるが、それらには一定の規則性がある。しかも、具体的な場面における発話の語用論的な「意味」まで含めると、一口に「意味」といっても、いくつかのアプローチが必要とされることがわかる。言語使用によるコミュニケーションが成立するためには、その基礎となっている語彙や表現がどのような意味を持ち、それが実際の場面でどのように使われ、どのような意図が背後にあるかということを包括的に理解することが重要である。本授業では、英語の意味・用法を眺めることで、言語の意味に関するさまざまな現象に関心をもち、「なぜか」という問いを深める姿勢を涵養する。	
			日本語音韻論	音韻というのは、日本語の「音」に関すること。伝えたい意味と伝えるための音のいずれが先にあるのかという疑問は、昨今の思想史上の重要な問題となっている。その真実がどうあれ、「音」という対象が私たちの「生」と密接にかかわっているのは確かである。本授業では、日本語の音韻について学ぶ。具体的には発音やアクセントなどを、具体例に則して検討していく。この試みは、学生の外国語学修にも寄与するだけでなく、私たち自身が生きていくということの一つの事実として捉えなおす契機となる。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会 科目	言語学 芸科目	英語構造論	なぜこの表現を使うのか、他の表現ではいけないのか、他にどんな表現が使えるのか(どのような違いがあるのか)等、英語(の構造)についての素朴な疑問を大事にしながら、英語の構造を主にコミュニケーション(情報や伝達機能)の視点から考察する。英語の基礎知識や教養に加え、英語(構造)に関わる諸問題について理解を深めることを目指す。特に、コミュニケーションとの関わりの中で英語の構造を理解できるようになることを目指す。同時に日本語との比較を行うことで、英語の構造について深い考察を試みる。	
			日本語語彙論	日本語教育者を志す学生から、日本語に関心がある学生まで、幅広い学生を対象に「日本語の語彙」に関する学修を進める。語彙を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。本授業では、単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、とりわけ「語彙」を学ぶことの意義や歴史についての考察を促していく。つまり、ことばとはそもそもどういふものかを問いかけることを通して、ことばを無自覚に使うのではなく、自覚的に扱い触れられるようになることを目指す。	
			日本語文法論	日本語教育者を志す学生から、日本語に関心がある学生まで、幅広い学生を対象に「日本語の文法」に関する学修を進める。文法を意識した文章を書くトレーニングを行い、日本語文章表現についての知識や技術を養う。本授業では、単に語学的な勉強だけに終始するのではなく、とりわけ「文法」を学ぶことの意義や歴史についての考察を促していく。つまり、ことばとはそもそもどういふものかを問いかけることを通して、ことばを無自覚に使うのではなく、自覚的に扱い触れられるようになることを目指す。	
			日本の文学	日本の近現代(明治時代から現代まで)の文学作品を講読し、日本文学の基本的な教養を身に付ける学修を進める。単に作品を鑑賞するだけでなく、一つのテーマに基づいて体系的に文学の流れを辿り、読解・批評する力を養うことに主眼を置く。本授業では、「私小説(わたくし・しょうせつ)」をテーマとする。近代に「私」を語ることを主眼とした小説群が誕生して以降、「私小説」は現代に至るまで日本文学の主要なジャンルとして生息し続けている。多様な「私小説」の諸相を辿り、文学のなかの「日本/日本人」の特徴を明らかにすることを目指す。	
			中国の文学	中国文学で最高峰とされているのは唐詩や宋詩である。唐宋詩は普遍的な存在としていかに当時の人々の生活や文化を昇華させていたのかを本授業を通して示す。その標本の一つとして、茶や茶を飲用する生活を描写する茶詩がある。そこには当時の茶の製法や飲用法、そして茶に対する考え方が反映している。文学という芸術を通して、当時の生活や思想、そして文化を日本にもたらした私たちの先人の思いに触れる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	文化社会科目	言語学芸科目	英語圏の文学	古典・文学賞・翻訳といった観点から、英語で書かれた代表的かつ多様な文学作品を読むことを通して、英語圏の文学・文化について理解を深めることを目標とする。また、作品中に描かれている国や地域の文化について理解し、英語で書かれた原文を読むことによって、描かれている国や地域の文化について理解し、さまざまな英語表現に親しむことを目指す。	
		エアライン・ホスピタリティ科目	ホテルビジネス論	訪日外国人増加や東京オリンピック・パラリンピック開催が決まった大阪関西万博に向けて、ホテル業界に注目が集まっていたものの、コロナ禍以降状況は変化した。しかし、今後どのように推移するのか定かではない状況を考える上で、これまでの産業特性や歴史的経緯、日系・外資系ホテルの相違、さまざまな課題を生んできた社会的・経済的背景を知ることは必須である。本授業では、観光業界の一角を担う航空会社の現業部門や本社人事、総務部門を担当した実務経験者の教員が具体的事例を挙げながら、この業界の未来を検討する。	
	ホスピタリティ基礎論		現代社会では多種多様な場面でホスピタリティが求められる。観光や旅行についてはやや状況が変わりつつあるものの、ショッピングなど、ホスピタリティが重視される場面や産業は依然、幅広い。本授業では、航空会社の客室乗務員として現業部門を担当した教員が、ホスピタリティを言語、文化、そして個人（消費者）からの視点など多角的にアプローチし、ホスピタリティを生み出す為に求められる条件について考察して理解を深め、学生一人一人が自分なりに「ホスピタリティ」を表現できることを目指す。		
	ホスピタリティスキル論		たとえ観光業が厳しい状況に置かれたとしても、ホスピタリティが求められる場面は数多い。日常生活のなかでも、繰り返しその機会に巡り会う。本授業では、他の関連授業での学びを総括しつつ、航空会社の現業接客部門、人事・総務部門を担当した実務経験者の教員が、学生のキャリア形成につながる実践力を養うことを目的とする。テーマに沿った調査・分析を通して、関連科目で身に付けてきた知識の体系化を目指す。		
	エアラインサービス論		エアラインの使命とはまず「絶対的な安全」がある。これを踏まえた上で、次に「快適な顧客の環境」や「定刻通りの運行」が挙げられる。キャビンアテンダントの仕事は、エアラインサービスのなかの重要な柱であるのは間違いない。その役割や機能には、私たちが学ぶに足る重要性がある。本授業では、エアラインスタッフとしてのマナーや接客英語等を解説しつつ、それを修得させることを目指す。		
	エアラインビジネス論	日本の主要航空会社で空港接客部門、整備管理部門、グランドハンドリング会社や予約販売会社で長年にわたり、人事、総務、経営部門を担った実務経験者の教員が、社会インフラの一つである公共交通機関としての航空産業の役割を説明する。今後、航空産業がどのように回復・発展していくのかを考える上で、この業界の歴史を正確に理解し、抱えていた課題を把握することは必要不可欠である。本授業では、航空機を運航するための多種多様な職種や協力体制について、実務経験を踏まえた講義で学ぶことを目的とする。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	文化社会科目	学芸員科目	ミュージアムへの招待	博物館には、美術館・歴史博物館・文学館・記念館・民俗資料館・動物園・水族館などの施設が含まれる。全国では5,700館もの博物館がある。本授業では、さまざまな博物館について、その機能や役割を学ぶ。今日の博物館はその姿を大きく変えており、エンターテインメントを志向する向きもある。グッズ販売でもさまざまな企業やコンテンツとコラボする企画も多数展開されている。博物館はどこから来てどこへ向かうのか、博物館とはそもそもなにかを考察する。	
			ミュージアムコレクション論	博物館資料の種類・特質・収集・整理・保管について「理論」を学ぶ。博物館になくてはならない博物館資料は、美術・歴史・民俗・考古などさまざまな領域に属し、さらに絵画・彫刻・工芸・映像など豊富なジャンルにわたる。本授業では、その分類法を踏まえつつ、まずは具体的な作品の魅力や鑑賞法に触れ、個々の資料が持つかけがえのない価値とはなにかを考える。その考察を通して、個々人が抱く作品への興味や関心を大きく育み、博物館資料を仕事として取り扱う際の基本的知識を裏打ちする。	
			博物館資料保存論	博物館にとって資料はなくてはならないものである。資料がなければ博物館は成り立たないと言っても過言ではない。従って資料の収集、管理、保存は学芸員にとって最も重要な仕事の一つとなる。また、一口に「資料」といっても例えば考古、歴史、民俗などさまざまな種類があり、それぞれのジャンルによって、「資料」に対する処置はさまざまである。本授業では、学芸員としての実務経験を持つ教員のもと、知識の獲得だけにとどまらず、実際の技術を修得することを目的とする。	
			ディスプレイ論	博物館施設における展示の概要を学び、具体的な展示の形態や手法について、理解できるようにする。展示は単なる知識ではなく、実際の作業そのものである。その作業には、作業全体に関わる展示計画の策定が必要であるが、その策定の基礎となるのは、展示対象物や展示補助具等についての正しい知識とそれらを適切に取り扱う技術である。本授業では、展示に必要な技術の基本を修得する。	
			生涯学習論	高齢化社会の現代日本では、生涯にわたる学習の必要性が指摘され続けている。本授業では、「生涯学習」の基本的な理論とその実践例を紹介し、これからの「生涯学習」のあり方を考えていく。特に歴史学習を取り上げ、市民への文化の提供の方法やその効果、問題点を挙げ、学芸員や各自治体の生涯学習担当としての知識と意識を身に付けることを目的とする。本授業を通じて、学生の一人ひとりが「学ぶ」ことの意味を改めて見つめ直す契機も得られる。	
			ミュージアムマネジメント論	日本の博物館が急増した1980年代を境に、博物館の経営環境は大きく変化したと言われる。すなわち、各博物館が有する経営資源であるところの、ヒト・モノ・カネ・経営力の配分が従来とは異なっているということである。本授業では、博物館経営に関する法制度を踏まえつつ、さまざまな博物館の形態や、多岐にわたる活動について概観する。博物館は今後「どこを目指すのか」という問題を考えるとともに、学芸員にも求められる基礎的な経営マインドの修得を目指す。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	文化社会科目	学芸員科目	博物館情報・メディア論	私たちはさまざまな情報を保存する。博物館にも保存という基礎的機能が割り当てられており、かつては収蔵庫でモノを管理していた。しかし、現代社会ではさまざまなかたちのメディアと展開されており、アーカイブの方法も試行錯誤を余儀なくされている。本授業では、写真の歴史と表現を学ぶことにより、映像メディア登場以後の社会環境の変化を考察する。写真をはじめとする視覚情報によって、人間の視覚認識はどのように変化したのかを踏まえ、現代の映像メディアを介した圧倒的なボリュームの情報との向き合い方を検討する。	
		博物館教育論	博物館には教育という基礎的機能が割り当てられており、来館者や地域住民に最新の研究成果をフィードバックする役割がある。本授業では、博物館において実施される教育活動について、さまざまな具体例を通じて体系的に学ぶ。それを踏まえ、社会における博物館の意義・役割についての理解を深め、学芸員として、あるいは博物館と社会をつなぐサイエンス・インタープリターとして活動する上で、必要な知識を身に付けることを目的とする。		
		博物館実習	博物館は展示物（歴史・美術・文学ほか）、設置母体（公立・民間）、目的（主が教育・研究・保存など）により、さまざまに分類できる。それゆえ、学芸員の仕事も館の性格により、多様で一概に定義することはできない。本授業では、博物館・美術館の実際を知り、学芸員の仕事を理解するために、博物館を実地見学に出かける。学内においては、博物館についての知識を深め、学芸員の作業の一部を体験する。講義だけでなく、実際の技術も身に付けることを目的とする。	共同・集中	
	日本語教員科目	日本語教授法Ⅰ	昨今、世界における日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しつつある。また、日本語教授法に関する研究も、次々とあたらしい成果が提示されており、現場に立つ教員自身も日々の研鑽が求められている。本授業では、日本語教授法の概要として、外国語教授法、教科書・教材論、コースデザイン、日本語の文字・語彙・文法とその指導方法など、外国語としての日本語教育状況について確認し、さらなる知見の学びに至る準備を整える。		
		日本語教授法Ⅱ	昨今、世界における日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しつつある。また、日本語教授法に関する研究も、次々とあたらしい成果が提示されており、現場に立つ教員自身も日々の研鑽が求められている。本授業では、初級レベルの文法項目を通覧し、多くの例文を文法的に分析することを目的とする。また、第二言語修得についても概観する。基礎知識を増やしつつ、主体的に思考・分析できるような講義・活動を行う。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目	日本語教授法Ⅲ	昨今、世界における日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しつつある。また、日本語教授法に関する研究も、次々とあたらしい成果が提示されており、現場に立つ教員自身も日々の研鑽が求められている。本授業では、日本語学習において必要とされる 4 つの技能（読む、聴く、話す、書く）それぞれに効果的な学習法と、日本語学習者が実際に体験するさまざまな問題に対するケーススタディを確認・検討する。最終的に、学生が基礎的な知識を確保しつつ、それを活用できるようになることが目的である。	
		日本語教育実習演習	昨今、世界における日本語教育を取り巻く環境は大きく変化しつつある。また、日本語教授法に関する研究も、次々とあたらしい成果が提示されており、現場に立つ教員自身も日々の研鑽が求められている。本授業では、外国人日本語学習者に実際に日本語を教えるために、演習形式で具体的な日本語教授法について学修する。初級・中級・上級レベルごとに、目的や対象などによって指導案および教材を作成する方法を学び、学生全員が本学の外国人留学生を対象に教育実習を行う。外部日本語教育機関への見学も実施する。	
	英語基礎科目	Speaking & Writing a	<p>(英文) Through the recitation of basic example sentences and simple conversation practice, students will learn to communicate in simple ways, and to write short sentences and memos using commonly used everyday expressions (where you live, self-introduction, greetings, etc.) and basic phrases. They will also develop their ability to write about 50 words in English within a given time frame by looking at pictures and photos, and will build a foundation for communicating in English both orally and in writing.</p> <p>(和訳) 基本的な例文の暗唱、簡単な会話の練習などを通して、よく使われる日常的表現(自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など)や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるよう学修する。また絵や写真などを見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文を書く力を養い、口頭と文書の両方で、英語で発信するための基礎作りをする。</p>	
		Reading a	平易な英文を速読するためのリーディングスキルの修得を目指し速読活動を行う。同時に、難易度の高い英文を精読する活動を行い、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できる力を養う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し理解できるよう、丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する力を養う。毎回の授業で多読活動も行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会 科目	英語 基礎 科目	TOEIC a	英語によるコミュニケーションとビジネス能力を検定するための試験として広く認められた TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられるような英会話を聞き取ったり、ビジネスレターやメール形式の文章を読んだりして、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養う。	
			Communicative English Grammar	英語によるコミュニケーションの基礎となる文法を学修し、円滑な英語運用能力の基礎を構築することを目指す。中高で学んだ英文法を網羅的に復習するのではなく、英語を実用的に使用するために必要な基礎文法項目を反復練習し、文法事項、および4技能（読む・書く・聴く・話す）への応用力を養う。録音されたネイティブスピーカーの発音チェック、構文研究、類例としてさまざまな話題や場面・状況における表現等も含めて統合的に学修する。	
			Speaking & Writing b	<p>(英文) Based on the content of " Speaking & Writing a ", more advanced content will be covered. Students will be able to recite basic example sentences and practice simple conversations, and will be able to write short sentences, memos, etc., using simple everyday expressions (where you live, self-introduction, greetings, etc.) and basic phrases. The students will learn how to communicate in English. They will also develop their ability to write about 50 words in English within a given time frame by looking at pictures and photos, and will build a foundation for communicating in English both orally and in writing.</p> <p>(和訳)「Speaking & Writing a」で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。基本的な例文の暗唱、簡単な会話の練習などを通して、よく使われる日常的表現（自分の住んでいるところ、自己紹介、挨拶など）や基本的な言い回しを用いて、単純なやりとりができ、短い文章やメモなどが書けるよう学修する。また絵や写真などを見て、与えられた時間内に 50words 程度の英文を書く力を養い、口頭と文書の両方で、英語で発信するための基礎作りをする。</p>	
			Reading b	「Reading a」で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。平易な英文を速読するためのリーディングスキルの修得を目指し速読活動を行う。同時に、難易度の高い英文を精読する活動を行い、平易な英語で書かれた日常生活に関するトピックや文化に関する説明文、短い物語文や新聞記事の中の重要な情報を理解できる力を養う。難解な英語でも、辞書を用いながら必要な情報を探し理解できるよう、丁寧に英文を読解する。文の構造などに気をつけながら読解し、パラグラフの展開や要旨を理解する力を養う。毎回の授業で多読活動も行う。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会 科目	英語 基礎 科目	TOEIC b	「TOEIC a」で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。英語によるコミュニケーションとビジネス能力を検定するための試験として広く認められた TOEIC の問題を学修することにより、語彙力、文法力を高め、会話を正確に聞き取る能力を身に付けることを目指す。さまざまなビジネスの場面で用いられるような英会話を聞き取ったり、ビジネスライターやメール形式の文章を読んだりして、その内容がすばやく理解できる能力を身に付ける。数多くの演習問題を通して限られた時間内で正確に英文を読み取る能力と、情報を聞き取る能力を養う。	
			Drama	主に文学作品を中心としたドラマ上演を通じて、文学作品に出てくるような洗練された英語表現を学ぶだけに留まらず、明示的・暗示的な英語コミュニケーション能力の向上を目指す。受動的な英語授業ではなく、身体を動かしながら英語学修をする。文学作品に出てくる登場人物を実際に演じることで、英語表現のみならず、身体的表現（アイコンタクトやジェスチャーなど）を幅広く学ぶ。学期末にはドラマ作品の上演会を行う。	
			Japanese Society and Culture	国際社会の中の日本という視点から、英語をコミュニケーションツールとして活用し、社会や文化について以下のような内容を講義を通じて学修する。①文化・社会的なトピックについて英語で書かれた文章やデータを理解し分析する力を高める。②国際社会の多様性に注意を払いながら日本の社会と文化を英語によって表現するための知識とスキルを実践的に学ぶ。	
			Academic Reading & Listening	文学作品を素材とした多読、精読活動を行う。文学作品に現れる英文、あるいは文学的な要素を持つ英文を教材とし、さまざまな修辞法やことばが持つ多義性を学ぶ。また、多様な文学作品に触れることで文学を読むことの楽しさを理解し、文化的なコミュニケーションに必要な、彩り豊かな英語を繰る能力を養う。さらに読解だけにとどまらず、映画などの映像化された作品に触れながら、オーセンティックな英語をリスニングする。週ごとに1つの文学的要素に焦点を当てていき、発展的学修として他の作品との比較分析も行う。	
			Academic Writing Workshop	海外留学において必要となるライティングスキル（書類や英文メールの書き方、エッセイの書き方）を身に付けることを目指す。特に留学先の大学や帰国後の専門課程での学びに適したパラグラフライティングを学ぶ。辞書や参考資料を用いながら、簡単なエッセイやアカデミックなレポートなどの書き方、留学生活に必要な書類の書き方や英文メールの書き方を学ぶ。	
			Debate	テーマに基づいたディベートを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。またディベートに必要な情報収集方法とスキルを理解し、実践を通して身に付ける。意見の不一致が起こりやすい状況設定で、自分の意見を根拠に挙げながら、英語で相手に分かりやすく主張できる能力を身に付けることを目指す。	

科目区分			授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目	英語基礎科目	Presentation	テーマに基づいたプレゼンテーションを英語で実施し、意思伝達能力を含めた英語コミュニケーション能力の総合的な向上を図る。またプレゼンテーションに必要な情報収集方法と収集した情報を基にした資料作成スキルを理解し、実践を通して身に付ける。自分の意見を根拠に挙げながら、英語で相手に分かりやすく主張でき、理解させる能力を身に付けることを目指す。	
		地域言語科目	英語	Topic Studies I a	英語による映像制作活動を行う。映像制作活動では、①映像制作の基本技術（カメラワークや映像編集など）を学修する、②映像制作プランを考える（被写体やロケ地など）、③スマートフォン、デジタルカメラ、ビデオカメラを用いて実際に映像を撮影する、④英語による音声や字幕を付ける、⑤映像編集を行う、というプロセスによって、個人やペアで映像作品を制作する。完成した映像作品は、授業内で披露するだけでなく、学内のデジタル機器（デジタルサイネージなど）に一定期間アップロードする。
	Topic Studies I b		英語による映像制作活動を行う。後期の映像制作活動では、①映像制作の発展的な技術を学修する、②映像制作プランを考える（被写体やロケ地など）、③スマートフォン、デジタルカメラ、ビデオカメラを用いて実際に映像を撮影する、④英語による音声や字幕を付ける、⑤映像編集を行う、というプロセスによって、グループで前期よりもクオリティーの高い映像作品を制作する。完成した映像作品は、YouTube等のオンラインプラットフォームへ投稿することを目標とする。		
	Discussion a		（英文） Through the study of English argumentation techniques, students will be able to express their own opinions clearly in English, understand the arguments of others, and develop their opinions logically based on an accurate understanding of their arguments. At the same time, they will also aim to acquire the ability to understand the contents of documents written in English in order to promote a correct understanding of the arguments. （和訳） 英語での議論の作法を学ぶことを通して、自分の意見を英語で明確に主張できるようになること、相手の意見の論旨を正確に把握し、相手の主張に対する正確な理解に基づいて、論理的に意見を展開する能力を身に付けることを目指す。議論の正しい理解を促進するために、英語で書かれた文書の内容を正確に把握できる能力を身に付けることも同時に目指す。		

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	英語	Topic Studies II a	(児童)文学の原作とその映画版を同時に楽しむ。文学作品は語彙や表現など豊富な言語素材にあふれている。登場人物同士の会話の中にも実用的な言い回しが多い。また、ストーリーの背景にある文化や社会を垣間見ることできる。辞書を極力使わずに話の流れをつかみ、内容を理解していく。学修目標としては、総合的な英語力を伸ばすこと、過度に辞書に頼ることなくある程度まとまった量が抵抗なく読めるようになること、最終的に英語での読書が楽しめるようになることを目指す。内容把握、語彙・表現の確認、映画鑑賞、音読練習、ロールプレイなどを行いながら作品を読み進めていく。授業は主に英語で行う。	
				Discussion b	(英文) Based on the content of "Discussion a", more advanced content will be covered. Students should be able to argue clearly in English, understand the point of the other person's argument, and develop their opinions logically based on an accurate understanding of the other person's point of view. At the same time, they will also aim to acquire the ability to understand the contents of documents written in English in order to promote a correct understanding of the arguments. (和訳)「Discussion a」で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。英語での議論の作法を学ぶことを通して、自分の意見を英語で明確に主張できるようになること、相手の意見の論旨を正確に把握し、相手の主張に対する正確な理解に基づいて、論理的に意見を展開する能力を身に付けることを目指す。議論の正しい理解を促進するために、英語で書かれた文書の内容を正確に把握できる能力を身に付けることも同時に目指す。	
				Topic Studies II b	「Topic Studies II a」での学修内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。(児童)文学の原作とその映画版を同時に楽しむ。文学作品は語彙や表現など豊富な言語素材にあふれている。登場人物同士の会話の中にも実用的な言い回しが多い。また、ストーリーの背景にある文化や社会を垣間見ることできる。辞書を極力使わずに話の流れをつかみ、内容を理解していく。学修目標としては、総合的な英語力を伸ばすこと、過度に辞書に頼ることなくある程度まとまった量が抵抗なく読めるようになること、最終的に英語での読書が楽しめるようになることを目指す。内容把握、語彙・表現の確認、映画鑑賞、音読練習、ロールプレイなどを行いながら作品を読み進めていく。授業は主に英語で行う。	
				Advanced Academic Writing Workshop a	与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書くことを目指す。読解したさまざまなトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示す。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成が可能な能力を身に付けることを目指す。	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	英語	Lecture a	<p>(英文) Students are expected to be able to listen to and understand academic lectures in English, read references, including those written in English, summarize the content of the lectures and references in English, and write an essay in which they give their own opinions. By listening to lectures, reading references, summarizing the content in English, and giving their own opinions, students will engage in speaking and writing activities and input-output linked training. As a rule, all classes will be conducted entirely in English.</p> <p>(和訳) 英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、英語で書かれたものを含む参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになることを目指す。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与したりしながら、話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。授業は原則として全て英語で行う。</p>	
				Film Making	<p>グループで英語による映像・映画作品 1 作品を制作する。日本や海外のドラマ作品をベースにして、あるいはオリジナルで脚本を用意して、英語による台本・脚本作りからスタートし、演技、演出、カメラワーク、ロケ地などを考慮しながら撮影活動を行う。その後、iMovieなどの動画編集ソフトを用いて、撮影した動画を編集し、英語でのセリフやナレーションに日本語字幕をつけて、各自でオリジナルの映像・映画作品を完成させる。作品が完成後、学内で上映会を行う。</p>	
				Business English a	<p>日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを修得する。まずは、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、その記述文について Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際に書いたり話したりすることで実践的な学修を行う。</p>	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	英語	Topic Studies IIIa	<p>(英文) This course will examine recent movies from English-speaking countries. Movies reflect the present-day culture and our own culture shapes our values, beliefs, tastes, habits and behaviors. While discussing the storylines and characters in the movies, the background stories will be highlighted for greater understanding of the countries being studied. In addition, regional accents, vocabulary and cultural differences within the same English language will be discussed.</p> <p>Focus will be given to social class, gender, ethnicity and sexuality within the movies themselves and the resultant changes will be studied in this class. Students should watch the movies not only for entertainment but also with a critical eye.</p> <p>(和訳) 英語圏の国々の最近の映画を調べる。映画は現代の文化を反映しており、文化が私たちの価値観、信条、嗜好、習慣、行動を形成している。映画のストーリーラインや登場人物について議論しながら、背景となるストーリーを解釈し、各国の理解を深める。さらに、英語に見られる地域のアクセント、語彙、文化の違いについても議論する。映画の中の社会階級、ジェンダー、民族性、セクシュアリティに焦点を当て、その結果として生じる変化について学ぶ。学生は娯楽のためだけでなく、批判的な視点で映画を見る目を養う。</p>	
				Advanced Academic Writing Workshop b	<p>与えられたテーマと資料に基づき、ある程度の結束性のある英語エッセイや英語レポートを、幅広い語彙や文法構造を用いて書くことを目指す。「Advanced Academic Writing Workshop a」で学修した内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。読解したさまざまなトピックの情報とほかの情報源で得た情報を統合・整理し、それに対する自分の考えを根拠とともに示す。英文の引用方法など、アカデミックなエッセイ、レポートの書式に従った文書作成が可能な能力を身に付けることを目指す。</p>	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	英語	Lecture b	<p>(英文) Students are expected to be able to listen to and understand academic lectures in more advanced English, read reference works including those written in English, summarize the lectures and documents in English, and write an essay with their own opinions based on what they have learned in "Lecture a". By listening to lectures, reading references, summarizing the content in English, and giving their own opinions, students will engage in speaking and writing activities and input-output linked training. As a rule, all classes will be conducted entirely in English.</p> <p>(和訳)「Lecture a」での学修内容を踏まえて、より発展的な英語によるアカデミックな講義を聞いて理解し、英語で書かれたものを含む参考文献を読み、講義や文献の内容を英語で要約し、自分の意見を付与したエッセイを書けるようになることを目指す。講義を聞き、参考文献を読み、内容を英語で要約したり、自分の意見を付与したりしながら、話す・書く活動、インプット・アウトプット連動型の訓練を行う。授業は原則として全て英語で行う。</p>	
				Business English b	<p>「Business English a」での学修内容を踏まえて、より発展的な内容のものを扱う。日本が世界に誇る「ものづくり」の高い技術を持つ企業の活動内容を主なトピックとし、ビジネスにおいて必要とされる英語の総合的なスキルを修得する。まずは、対象となる企業の伝統・経営方針・製品開発等にかかる内容を聴き取り、記述文を Q&A も導入しながらチェックし、読解力も養成する。次に、そこで使用されているビジネス英語に頻出の語彙・イディオム・構文などに焦点を当て、それらを用いた英語表現を実際書いたり話したりすることで実践的な学修を行う。さらに発展学修として、企業のウェブサイトの英語版を教材として活用し、持続可能な社会への取り組みなどについて調査・分析するとともに、使用されている重要な英語表現について考察する。</p>	
				Topic Studies IIIb	<p>(英文) Building on the content of "Topic Studies IIIa", this course looks at the storylines and techniques used in filmmaking in order to more fully understand how meaning is constructed, conveyed, and interpreted in film. Students will critically explore some more thought-provoking films and, actively engaging with each work and developing a more well-informed perspective through lectures, facilitated discussions, readings and class projects.</p> <p>(和訳)「Topic Studies IIIa」での学修内容を踏まえて、英語圏の国々の最近の映画についてのより発展的な内容について調べる。映画では意味がどのように構築、伝達、解釈さえるかをより深く理解するために、映画制作で使用されるストーリーとテクニックを見ていく。学生は、講義、ディスカッション、リーディングやクラスプロジェクトを通して、より示唆に富む映画を批判的に解釈し、積極的に課題に取り組み、根拠に基づいた視点を学ぶ。</p>	

科目区分				授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	英語	Comprehensive Studies a	<p>(英文) This course is to examine and deepen their perspective on English-speaking regions, cultures, and societies. A variety of different sources including TED talks, English-language internet sites, news reports and documentaries, will help students to obtain a wider view of the world. Students will learn how to carry our research, communicate their findings and write about the information and sources that they find. Audio, text, images, and video will be used to facilitate students' understanding of all the themes.</p> <p>(和訳) 本授業では、英語圏の地域、文化、社会についての視点を探り、深めることを目指す。TED トークや英語で書かれたインターネット上のサイト、ニュース、ドキュメンタリーなどを通して、世界に関するより広い視野を身に着ける。また、リサーチの手法、発見の解釈の仕方、得た情報や出典のまとめ方を学ぶ。音声資料、テキスト、画像、動画をなどさまざまな媒体を用い、テーマのより深い理解に努める。</p>	
				Comprehensive Studies b	<p>(英文) Building on the content of “Comprehensive Studies a”, this course will examine world cultures through the medium of the internet. Using a variety of different media, and through lectures, discussions, examinations of internet materials, students will gain a more comprehensive understanding of how events are reported on in English, around the world. TED talks, English internet sites, newspapers and video documentaries will provide the source for materials to further deepen the students' understanding and ability to critically examine the content.</p> <p>(和訳) 「Comprehensive Studies a」での学修内容を踏まえ、インターネットを介して世界の文化を学ぶ。さまざまなメディアを使用し、また、講義やディスカッション、インターネット資料の精査を通して、世界中の出来事が英語でどのように報告されているかをより包括的に理解する。TED トークや英語で書かれたインターネット上のサイト、新聞、ドキュメンタリーなども利用し、内容の理解や批判的な検討を試みる。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考			
専門科目	文化 社会科目	地域言語科目	諸言語	諸言語輪講	<p>(概要) 本授業は、中国語、スペイン語、インドネシア語に関する初歩的知識を修得することを目指す。これらの言語は、話者人口がいずれも数億人以上におよび、複数の国にまたがる広範な地域で話されている。こうした言語を介して人間はコミュニケーションを行い、新たな文化の出会いを可能なものとしてきた。本授業では、まず3つの言語の世界的な広がりについて社会的・歴史的な概観を得る。その上で、それぞれの言葉に関する初歩的な知識を学んでいく。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(10 中西 正樹/5回) 中国語の広がりに関する基礎的な知識を得る。挨拶などの簡単なフレーズを修得する。</p> <p>(17 金子 正徳/5回) インドネシア語の広がりに関する基礎的な知識を得る。挨拶などの簡単なフレーズを修得する。</p> <p>(21 藤井 嘉祥/5回) スペイン語の広がりに関する基礎的な知識を得る。挨拶などの簡単なフレーズを修得する。</p>	オムニバス方式	
				中国語	中国語で読み解く I	このあとに続く中国語学修の基礎を身に付けるため、正確な発音と中国語文法の基礎を学修し、「読む」ことに重点を置きながらも、聴く・話す・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。「読む」時には「聴く」要素も積極的に取り入れてリスニング力の向上を確保する。「教員と学生」「学生同士」で会話するタスクを積極的に取り入れ、中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することを目指す。	
					中国語で表現する I	このあとに続く中国語学修の基礎を身に付けるため、正確な発音と中国語文法の基礎を学修し、「書く」ことに重点を置きながらも、聴く・話す・読むを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。「書く」時には「聴く」要素も積極的に取り入れてリスニング力の向上を確保する。「教員と学生」「学生同士」で会話するタスクを積極的に取り入れ、中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することを目指す。	
					中国語で会話する I	このあとに続く中国語学修の基礎を身に付けるため、正確な発音と中国語文法の基礎を学修し、「話す」ことに重点を置きながらも、聴く・読む・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。「話す」時には「聴く」要素も積極的に取り入れてリスニング力の向上を確保する。「教員と学生」「学生同士」で会話するタスクを積極的に取り入れ、中国語を使って初歩的な会話ができるレベルに到達することを目指す。	
					中国語で読み解く II	1年次で学んだ文法や語彙を基礎として、それを応用して長文を「読む」作業を取り入れる。また、聴く・話す・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	文化 社会科目	地域言語科目	中国語	中国語で表現するⅡ	1年次で学んだ文法や語彙を基礎として、それを応用して長文を読んでその内容を書き出す活動を取り入れる。また、聴く・話す・読むを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。	
			中国語で会話するⅡ	1年次で学んだ文法や語彙を基礎として、それを応用して長文を読んでその内容を発話する活動を取り入れる。また、聴く・読む・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。		
			中国語で読み解くⅢ	「中国語で読み解くⅡ」に続いて、よりレベルの高い長文を「読む」作業に取り組む。また、聴く・話す・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。		
			中国語で表現するⅢ	「中国語で表現するⅡ」に続いて、よりレベルの高い長文を読んでその内容を書き出す活動に取り組む。また、聴く・話す・読むを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。		
			中国語で会話するⅢ	「中国語で会話するⅡ」に続いて、よりレベルの高い長文を読んでその内容を発話する活動に取り組む。また、聴く・読む・書くを加えた4つの技能を総合的にバランスよく修得する。読む際は必ず音読し、シャドーイングなどの活動も加えながらリスニング力の向上を確保する。さらに朗読や練習問題を通して、これらを定着させる。		
			中国語プレゼンテーション	日本と中国に関する身近な時事やスポーツ、音楽、ITなど幅広いテーマについて、個人またはグループで調査した内容を中国語で明確に分かりやすくまとめ、口頭で発表する。パワーポイントを使ったプレゼンテーションを行うほか、質疑応答を通して中国語によるコミュニケーション力を向上させる。		
		スペイン語	スペイン語文法Ⅰ	スペイン語の文法、語彙、発音の基礎を学ぶ。文字と発音から始めて直説法現在の動詞の活用を中心に、基本的な文の構造を理解する。名詞の性・数を見極めて、冠詞、形容詞、目的格人称代名詞を正しく用いることができる、動詞の直説法現在の活用を正確に暗記し、用法を理解した上で適切に肯定文、否定文、疑問文を作ることができる、暗記した文をもとに類似する文を作ることができる力を身に付ける。		

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	文化社会科目 地域言語科目	スペイン語	スペイン語	
		スペイン語表現	スペイン語の発音および語彙を集中的に学ぶ。いわゆる素読は、外国語教育・学修において根幹をなすべきであり、その効用はさまざまに唱えられていながら、大学の第二外国語教育でそれなりの注意が払われているとは言いがたい。文字レベルの正確な発音と語レベルの強勢、および文の抑揚への意識を高める。毎回の暗記・暗唱を課す。語彙も正確に適切に使えるよう、ニュアンスを含めた語義解釈を文章理解を通して行う。	
		スペイン語会話 I	言葉はその国・地域の文化を映す鏡である。平易な会話文を通じて、スペイン語圏の生活や文化について学ぶ。日本国内でも留学先や旅先でもスペイン語を気軽に使えるようになるために、ネイティブ話者との交流で話題にしやすい身近な事柄の知識を修得し、スペイン語の多様な表現手段を身に付ける。	
		スペイン語文法 II	「スペイン語文法 I」で修得した基本的な文章構造の知識を、直説法の多様な時制で運用できるようになることを目的とする。過去時制、未来時制の動詞の活用をスムーズに行い、各時制の用法を正確に理解し、適切に構成文、否定文、疑問文を作ることができる。過去分詞と現在分詞の用法を理解し、完了形と進行形の文を作ることができる。接続法を除くスペイン語の基礎文法を把握し、以後の継続学修の基盤を手にする。	
		スペイン語読解	スペイン語の直説法の総復習とともに、接続法の4時制を正確に用いることができるようにする。文章理解を通して、どのような表現がどのような文構造に対応するかを把握する。丁寧（婉曲）表現、願望や推量の表現、命令表現などの正確な語形および文構造を理解し、これらの表現が使えるようにする。文脈の中での語や文の意味を読み取り、文法のみならず論理性を意識して読み書きするようにする。	
		スペイン語会話 II	場面設定を行い、対話のために必要となる一連の語彙を授けるとともに基礎的な文法知識を復習しながら、実践的会話力を養う。スペイン語圏の社会文化に親しむためにまとまりのある文章に取り組み、そこからスペイン語圏の生活文化に関する知識を得て、場面設定に応じた適切な理解力と発話力を高める。スペイン語圏での生活に不可欠な語彙力と表現技法を身に付け、日常生活をこなせるレベルの対話力を修得する。	
		スペイン語圏社会講読（南欧）	スペインを中心とする南欧の文化、地理、社会についてスペイン語を読みながら知識を得る。主に新聞やインターネット上の記事、エッセイ、評論などの読解を通して、南欧の社会問題を考える。「南欧」は、フランス、イタリア、ポルトガルなどのロマンス語圏に加えてギリシアなども包括しうが、地中海文明という視座をもって、「スペイン」を相対的に見つめることをも促す。	
		スペイン語圏社会講読（ラテンアメリカ）	ラテンアメリカにおいてスペイン語を主たる言語として使用する諸国の社会文化に関するスペイン語で書かれた文章を読み、語彙を豊かにし、スペイン語文法の理解を深め、読解力を高めることを目的とする。同時に、ラテンアメリカの歴史を踏まえ、現代における地域の社会問題について知り、スペイン語圏社会を広い視野から把握する力を養う。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	スペイン語	スペイン語文章構成	文の要素と構造の正確な理解を通して、スペイン語で作文することを学ぶ。文法の精度を高めながら、論理的な文章になるよう推敲を重ねる。モデルとなる文章を分析し、その暗記と模倣をもとに自ら文章を構築する練習を繰り返す。さらに、表現として適切であることを意識する必要がある。これは単なる語彙の選択の問題ではなく、文体の領域に入り得る学びである。SNSなどの文体と学術的ないしフォーマルな文体とが異なることを理解する力を養う。	
			スペイン語プレゼンテーション	比較文化の多様な観点からテーマを提起し、役立つ表現、語彙・キーワードについて予め解説する。学生は個別・具体的内容のプレゼンテーションの原稿準備を行う。それをもとに毎回短いプレゼンテーションを発表することにより、テーマが何であっても聞き手にとって明瞭でわかりやすく論理的な発言が行えるようになり、日本語や英語でのプレゼンテーション力の涵養にも通じる。発表内容を予め作文することの繰り返しによって、スペイン語で正しく文章表現ができる力を培う。日本の歴史や文化についてもスペイン語で説明できる力を身に付ける。		
	インド ネシア語・ マレー語	インドネシア語文法	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。インドネシア語を初めて学ぶにあたっては基礎的な文法を把握し、単語力を増強することが求められる。そこで、本授業では、特にインドネシア語の基本文法を学び、読む力と書く力を養っていくことを目的とし、持続的なインドネシア語運用能力の向上を図る。			
		インドネシア語表現 I	インドネシア語 (Bahasa Indonesia) は、東南アジア最大の人口を抱え、日本との友好関係が強いインドネシア共和国の国語である。本授業は、インドネシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、日常会話を主とする「インドネシア語会話 I」と連動しつつ、インドネシア語の基礎的な運用能力の修得を学修の到達目標として、基礎的な表現 (単語・慣用表現等) を重点的に教授する。			
		インドネシア語会話 I	人口2億人以上を擁するインドネシア共和国の国語であるインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的な運用能力の向上を目指す。特に初めてインドネシア語を学ぶことを前提としてボキャブラリーを増やししながら、発音と基本文法を踏まえ、日常会話を話すことができるようになることを目的とする。本授業は「インドネシア語表現 I」と連動させて行っていく。			
		総合インドネシア語	これまでに学んだインドネシア語 (Bahasa Indonesia) の基礎的運用能力を踏まえ、総合的な運用能力の一層の向上を目指す。本授業では、手紙、雑誌、新聞、エッセイ、小説、メールといったあらゆる文体の文章を取り上げ、幅広く「生きた」インドネシア語の「読む・書く・聴く・話す」の能力を高めていく。			

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考		
専門科目	文化 社会科目	地域 言語科目	インドネシア語・マレー語	インドネシア語表現Ⅱ	本授業は、インドネシア語の基礎的な運用能力を既に修得している学生を対象とし、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力の修得を学修の到達目標とする。インドネシア語で書かれた短い物語や簡単な雑誌記事などの読解、フォーマルな招待状や短いレポートなどのインドネシア語での作文、個別課題によるインドネシア語での情報収集およびプレゼンテーションに取り組むことで、実践的に表現力を養成する。	
				インドネシア語会話Ⅱ	これまでのインドネシア語学修を通じて獲得した、単語力や文法の理解を踏まえ、インドネシア語によるコミュニケーション能力を一層高めることを目的とする。授業では旅行や日常生活などあらゆる場面を想定し、シーンに応じたふさわしい自然な会話ができるように実践練習を行っていく。	
				総合マレー語	本授業は、マレーシアなどで話されるマレー語（Bahasa Melayu）の基礎的な運用能力の修得を目指す。インドネシア語との相違に適宜言及しつつ、実際にマレー語に触れる機会を多く持つことで、マレー語学修の礎を築くことを目指す。読む・書く・聴く・話す力のバランスに考慮しながら講義を進める。	
				実践インドネシア語	本授業は、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力を修得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。文化・社会・政治・経済等の多様な分野のインドネシア語の新聞記事や論説などの読解のほか、個別課題によるインドネシア語での情報収集、グループディスカッション、およびプレゼンテーションなどを取り入れることで、実践的にインドネシア語の運用能力を養成する。	
				旅行インドネシア語	本授業は、日常生活レベルでの、インドネシア語によるフォーマル／インフォーマルな表現能力を修得している学生を対象とし、インドネシア語で社会生活を送る上で必要不可欠な表現能力の修得を学修の到達目標とする。本授業は、個人旅行を想定した講義構成とし、「旅」のさまざまな場面に応じた実践的なインドネシア語の会話表現や語彙の学修とともに、インドネシア語の旅行案内や旅行関連記事などの多様な読解に取り組むことで、実践的にインドネシアの社会や文化について学び、インドネシア語の運用能力を養成する。	
				インドネシア語・マレー語プレゼンテーション	インドネシアとマレーシアの日々の生活で使用されている言葉に触れながら、話す・書くといったインドネシア語とマレー語の実践的な運用能力の獲得を目指す。フォーマル／インフォーマルなさまざまな局面での適切な表現を理解するとともに、インドネシア語とマレー語で意志を伝達することの訓練を行う。当該言語の話されている社会に関する知識を深め、これらを理解することも目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミ・卒業研究	初年次ゼミナール	大学で学ぶための基本的な能力を身に付けるために行う。①大学を知る、②ゼミの仲間を互いに理解し合い、コミュニケーション能力を高める、③日本語の「読む」「書く」能力を向上させる、④社会に関心をもつ、以上4点をテーマとする。1クラスあたり10数名の編成とし、個人またはグループで調査、発表、ディスカッションを行い、大学で学ぶ意味や学生が守るルールについて理解を深め、また論理的な文章を読み、書くことができる能力を涵養する。
	基礎ゼミナール	大学生として、また社会人になるために必要な能力を身に付けるために行う。「初年次ゼミナール」で培った日本語の「読む」「書く」能力の向上に加えて、「話す」「聴く」能力の向上を図る。時事問題や国際問題、あるいは言語、文化など具体的なテーマに沿って、「的確なソースから調べる」「わかりやすく発表する」「意見交換をする」ことができるようにする。1クラスあたりの編成は10数名とする。	
	基礎演習 I	人文学および社会学の研究手法を学ぶ。国際学部の学びに必要なさまざまな研究の方法を知り、的確な手順、考え方をもち研究できる能力を培うことを目的とする。1クラスあたり10数名の編成とし、アクティブ・ラーニング形式で学ぶ。具体的には、図書館やwebを使用した文献収集の方法、論文の読み方、web上の多様なデータベースや情報を活用した研究の方法、表現の方法について学び、知的探求心を涵養する。	
	基礎演習 II	人文学および社会学の研究手法を学ぶ。国際学部の学びに必要なさまざまな研究の方法を知り、的確な手順、考え方をもち研究できる能力を培うことを目的とする。1クラスあたり10数名の編成とし、アクティブ・ラーニング形式で学ぶ。具体的には、アンケート調査の方法、インタビュー調査の方法、フィールドワーク調査の方法、多様な非文字資料（地図・絵画など）を用いた研究の方法について学び、知的探求心を涵養する。	
	文化演習 I	各教員の専門分野に基づき、ゼミあるいは個人で研究を深める。1クラスあたりの編成は7～8名程度とし、2年次に培った基礎力をもとに具体的なテーマを設定する。担当教員の指導のもと本格的な文献探索や、論文講読、資料調査、現地調査実習等を行い、研究手法や考え方を体得する。	
	文化演習 II	各教員の専門分野に基づき、ゼミあるいは個人で研究を深める。1クラスあたりの編成は7～8名程度とし、「文化演習 I」で選択したテーマについて、先行研究の整理・批判を行い、具体的な課題を設定する。課題に向けた資料の収集を行い、「卒業研究 I・II」の準備を行う。	
	卒業研究 I	「課題解決型ワークショップ」「文化演習 I・II」および各プロジェクト科目などで培った方法論や思考力、問題解決能力を活かして、個々が設定したテーマについて研究を進める。1クラスあたりの編成は7～8名とし、発表や議論を通じて研究を深める。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ゼミ・卒業研究	卒業研究Ⅱ	「課題解決型ワークショップ」「文化演習Ⅰ・Ⅱ」「卒業研究Ⅰ」および各プロジェクト科目などで培った方法論や思考力、問題解決能力を活かして、個々が設定したテーマについて研究を進める。1クラスあたりの編成は7～8名とし、発表や議論を通じて研究を深める。最終的に卒業研究レポートにまとめる。	
教養科目	人文科学系	人間の探究	私たち人間は人生において誰もが必ず「私とは何か」「他者とは何か」「幸せとは何か」など、人間存在・人間関係に根本的に関わる難問に出会うことになる。本授業は、そうした人生における難問に自ら向き合えるようになるための準備である。そのために西洋哲学の諸思想を通して人間存在や社会に関わる諸問題に取り組み、さらに現代という時代を生きる私たち自身のあり方について考察していく。	
		文学から学ぶ	<p>(概要) 文学とは人間を表現する方法である。フィクションであるが故に、生々しく、時には残酷に、時には理想的に、人間の内面を描き出すことになる。われわれは文学作品を読むことで、人間に、そして自分自身に対峙することになる。本授業では、古今東西さまざまな文学作品の読解を通して、人間は何をどのように表現してきたのかを読み解いていく。知識を得るだけでなく、文学との向き合い方を知ることが目的とする。そのことでわれわれは人間を、自分を知る手がかりを得られる。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(11 橋本 正俊／5回) 古典作品を題材に、現代と対比しながら価値観・世界観について考える。</p> <p>(24 吉村 征洋／5回) 「演劇」をテーマに、言葉と身体を用いて表現することの可能性について考える。</p> <p>(35 古矢 篤史／5回) 小説の「語り」をテーマに、人間が語るときに生じる「知」の問題について考える。</p>	オムニバス方式
		歴史に学ぶ	すべてのものに歴史はある。衣食住にも、遊びにも、スポーツにも、そして戦争にもある。何かについて考えるとき、われわれは歴史なしでは考えられないし、歴史を知ることによってそのものについてより深い理解を得ることができる。だからわれわれは、興味があろうとなかろうと歴史を学ばねばならない。大切なのは、いつ誰がどうしたという知識を得ることではなく、歴史を正しく見つめる姿勢を身に付けることである。歴史を歪ませて捉えることは、世界を滅ぼす。本授業では、日本・世界を問わず、歴史を学ぶ姿勢を身に付けていく。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	人文科学系	心理学	心理学のうち、特に「ことばとコミュニケーション」に関わる領域を中心に扱う。私達はことばを用いて思考し、情報伝達を行う。その過程において、私達はどのようにしてことばを理解し、あるいは産出しているのか。また、他者とのやりとりの中では、ことばそのものの意味だけではなく、その状況に対する知識や判断、相手の意図の推測なども不可欠である。また、私達がどのようにしてこのようなことばを使えるようになったのかという観点から、こどもの言語獲得、第二言語修得についても考察する。	
	社会科学系	法学入門	法は私たちの日常生活と密接な関係にあり、私たちが普段あまり意識しないで行動をしても、その行為の裏には法律関係若しくは法律問題のあるものが沢山ある。法を学ぶことは世の中を知ることにもつながる。本授業では、法学の基礎から始め、身近な具体的な事例を取り上げ、民法、商法、刑事法、民事訴訟法などの基礎を解説する。日常生活において必要、有益な法律の知識を得て、身近な法律問題を法的な立場から考えるようになることを目指す。	
		世界の政治	比較政治学の基礎的な議論に触れるとともに、グローバル化した現代世界における政治制度の問題に注目する。比較政治学の基本的な考え方や方法論に親しむことで、それらの観点からなされる「世界の政治」に関する諸議論の意味するところを理解した上で、自らの思考を組み立てることができるようになることを目指す。自らが暮らす現代社会の諸問題を、比較政治の視点から学生自身が考えていくための一つのきっかけ、手がかりとすることを旨とする。	
		日本国憲法	日本国憲法の意義、および基礎的知識を修得することを目的とし、講義テーマに関連する憲法上の問題を取り上げ、これと関わりのある基本事項、判例、学説を解説・検討する。さらにその知識を活用して、社会における多様な問題について、憲法の視点を踏まえて自分の言葉で発言できるようになることを目標とする。できるだけ身近な素材を利用し講義を進めることで、「憲法」と日常生活との関わりについて考えてもらえる機会とする。また、憲法をめぐるさまざまな考え方にふれ、物事を多角的に見る能力を養う。	
	経済学入門	経済現象を理解するために必要な基本的知識や経済学的な考え方、現実の経済現象を事例として参照しながら、解説することを目的とする。戦後日本経済の歴史の大まかな流れや、雇用、企業組織、財政、社会保障といった日本経済の動きに関わる基本的な事項について説明でき、日々の経済ニュースを理解できるようになることを目指す。その上で、日本経済が抱える諸問題について、その重要性を理解し、異なる立場の議論を比較することができる力を身に付ける。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	社会科学系	経営学入門	基本的な企業経営の仕組みについて講義する。資本主義社会における企業の役割を踏まえて、現代企業の経営活動を理解することを目標とする。本授業では、組織論・管理論・戦略論の基本的な用語と概念を学び、それらを用いて具体的な経営現象を説明していく。経営学の基本的な理論と概念を理解することで、国家公務員一般職試験および地方上級職試験における専門試験で出題される「経営学」を理解できる程度の知識を修得することを目指す。
	自然・科学技術系	住まいとデザイン	生活の基礎となる「衣食住」の「住」について学ぶ。住まいには安全かつ健康で快適な環境が求められる。本授業では、気候風土や社会的・文化的背景、風俗習慣から住まいを理解し、住居の歴史の変遷や家族と住まい、住空間の構成、地域との関係など住居と住生活の全般について学修し、基本的な知識を修得する。これらを基に、さまざまな時代で求められたデザインを捉え、持続可能な社会の構築を目指した現代のよりよい住生活を創造する感性を身に付けることを目的とする。
		食品機能学	生活の基礎となる「衣食住」の「食」について学ぶ。食生活と健康とのかかわりを理解し、免疫系、内分泌系（体調リズム）、神経系（精神の高揚や鎮静）などの生体機能の調節に関与する機能性食品の特性についての知識を修得する。本授業では、食品の一次機能（栄養素）、二次機能（味、触感など）および三次機能（生体機能の調節などの新規機能）について学び、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を理解する。
		人体の構造と機能	人体の構造と機能について学ぶ。われわれは案外、自分のからだの中で行われている現象を知らない。本授業では、ヒトのからだは細胞からなること、細胞が集まり組織が、組織が集まり器官（臓器）が出来ていること、さらにヒトという個体は10の器官系からなることを学修する。また、その中を往来したり反応したりする分子のはたらき（機能）について取り上げ、からだの中で営まれている現象について学修する。併せて最近話題となっている関連トピックスについても理解できるようにする。
		公衆衛生学	私たちの健康が社会や環境から受ける影響について理解する。まず基礎編として、健康の観点からみた人類史に始まり、公衆衛生の歴史、日本の人口の現在と将来、人々の健康を守るための方法論（疫学）、予防医学の考え方とその具体例（感染症、生活習慣病）について学ぶ。また応用編として、人の健康が社会から受ける影響について移民（外国人）を事例に解説する。さらに人の健康に関する研究の倫理について、過去の歴史から学ぶ。
		科学技術教養	さまざまな科学技術分野の基礎について学ぶ。広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、科学技術に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身に付ける。分野は、建築・生命科学・都市環境・機械工学など多岐にわたる。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	英語系	基礎英語 I a	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学修の技能と習慣を身に付けること、学内で提供されるさまざまな授業時間外の英語学修機会に親しむことを目的とする。
	基礎英語 II a	「基礎英語 I a」での学修内容を踏まえ、比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学修の技能と習慣を身に付けること、学内で提供されるさまざまな授業時間外の英語学修機会に親しむことを目的とする。	
外国語系	韓国語 I	韓国語学修の基本であるハングルの読み書きが確実にできるようにする。「話す・聴く」と「読む・書く」の各技能に広く目を配り、「自己紹介」「基本的な語彙を用いた会話」「基本的な動詞活用」など、初級の基本的な文型や表現を修得する。	
	韓国語 II a	「韓国語 I」で学んだ文法項目をベースに、「学校や病院での表現」や「否定に関する表現」など日常生活の中で使われることの多い会話文を繰り返し練習し、定着させる。また、文法項目の中でもやや難しい連体形の表現について、ここで集中的に扱う。	
	韓国語 II b	比較的平易な会話を交わすこと、また平易な文を読み、書くことができるようになることを目指す。そのために、「話す」「聴く」「読む」「書く」練習を相互に組み合わせつつ行う。また、授業内では「教員と学生」「学生同士」によるアクティブ・ラーニングも取り入れる。	
	韓国語 III a	これまで学んだ文法項目をベースに、「他人の文章を読む」「自分の考えを伝える」「スピーチする」など日常生活の中で使われる韓国語表現を繰り返し練習して定着させる。また、課題発表においては、パワーポイントなどの ICT ツールを活用し、発表スキルの向上に繋げる。	
	韓国語 III b	初中級レベルの韓国語で日常場面の会話ができるように、これまでの学修内容を基礎としながら、さらに多様な文法や語彙・表現を学び、言語運用能力を伸ばす。また、韓国語資格試験の初中級レベル合格水準を念頭に置き、「話す」「聴く」「読む」「書く」それぞれの力を実用性のあるものとする。	
日本語系	日本語表現 I	文章表現の基礎を修得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」「意見を論理的に記述する力」を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。	
	日本語表現 II	文章表現の基礎を修得し、日本語表現力を全般的に高めることを目的とする。大学生活、就職活動、社会人生活に必要な表現力を身に付ける。すなわち、考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、他人に納得してもらうためにはどのような話し方が適切か、などについて実践的に取り組む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	日本語系	コミュニケーション I	社会に必要なコミュニケーションスキルを修得する。読む・書く・話す・聴くの4技能は常に求められるスキルだが、それらは「技術」として認識し、訓練することによってより実践的なものに高めることが可能である。本授業では、毎回「こちらの意図を的確に伝える」技術や、「相手の意図を十分に理解する」技術、すなわち「話す」「聴く」技術を高める練習をする。	
	数理・情報系	情報リテラシー I	近年、高等教育機関での勉学や社会人としての仕事において、パソコンを使えるスキルは必要不可欠である。本授業では、パソコン初心者想定し、パソコンでの文書作成ソフトや表計算ソフトの基本的な使い方、また発表の場で広く使用されるようになったプレゼンテーション資料作成ソフトの使い方を中心に学ぶ。実践力をつけるため課題を中心に演習を進め、レポートや発表資料の作成が適切に行えるようにする。さらに情報セキュリティーやモラルについても事例を通して学ぶ。	
		情報リテラシー II	「卒業研究 I・II」で数値データを扱う場合、その統計処理に関する知識は必要不可欠である。情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。本授業では、「情報リテラシー I」で用いた代表的かつ標準的な表計算ソフトを用い、基本的な統計処理の方法を学ぶとともに、統計の基本を理解し、正しい統計処理方法の選択や結果の解釈を行うための基礎力を身に付ける。	
	キャリアデザイン系	キャリアデザイン I	就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。「基礎ゼミナール」と連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を修得する。専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを修得する。グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。社会の変化を知り、調べ、考え、発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。	
		キャリアデザイン II	現代社会で生じているさまざまな事象を、氾濫する情報から的確に捉え、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考える。将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることを目指す。グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて行い、来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し学び、計画を実行に移せるようにする。	共同
		エンプロイメントデザイン I	学生が「協働作業」「意思決定」「創造的志向」「探求」など、エンプロイアビリティ（将来社会に出て仕事をする際に必要な能力）の獲得の必要性を認識するための授業である。また、大教室での多くの学生と共に話を聴き、理解しようとする態度を養い、グループに分かれて他者との意見の交換を行うことで、自分には思いつかなかった考え方に気づくようになることを目指す。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	キャリアデザイン系 エンプロイメントデザインⅡ	さまざまな職業のゲストを招き、仕事・職業観・人生経験やキャリアパス等についての話を聴く。質疑応答の時間を設けているので、勇気を持って講師に質問をするだけでなく、質問時の態度や表現の仕方を学ぶ。この授業を通じて、学生はさまざまな職業について理解し、多様な仕事術についての知識を得ること、さらには仕事観や人生観の涵養に役立てることを期待する。	共同
	インターンシップ	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当することで、そこで働く人々がどのような考え方で働いているのか、特に①仕事の社会における役割、②仕事の成果とは、③仕事の責任と充実感を直接肌で感じることである。事前学修として、ビジネス組織のあり方、マナーや常識を修得する。インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性を広げること、職業観の涵養に努めることを目標とする。事後学修も行う。	
	ビジネス実務	ビジネス活動という場とそこで働く人間のビジネスワークについて概説し、企業等のビジネス組織において求められる資質・能力・技術について考察を深める。企業等のビジネス組織において積極的なビジネスコミュニケーションの必要性とそれを駆使しての人間関係調整の重要性について学ぶことを目的とする。	
スポーツ系	スポーツ科学実習Ⅰ	生涯を通じて明るく活気のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。運動技術の修得およびスポーツの楽しさを理解するとともに、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的とする。本授業では、スポーツ・身体運動を通して①健康の維持・増進を図る、②運動技能を向上させることができる、③マナーやルールを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップを培うことを目指す。	
	スポーツ科学実習Ⅱ	「スポーツ科学実習Ⅰ」で培った学修内容を応用し、心技体のさらなる向上を目標とする。①<心>スポーツ活動を通じた成功体験や規範遵守、主体性、自己統制、表現力、協調性、他者受容意識の向上など人間力の醸成を目指す。②<技>「スポーツ科学実習Ⅰ」よりも高度なスポーツ技術の獲得を目指す。③<体>運動やスポーツが身体へ及ぼす影響やそのメカニズムについて理解し、自らの生活行動の中にスポーツを実践できる能力の育成を目指す。	
	スポーツと健康	人生100年と言われる現代社会において、豊かな人生を送るためには健康的で活力に満ちた生活を末長く送ることが大切とされている。スポーツには体力向上、健康増進、生活習慣病の予防・改善、ストレス解消、コミュニケーションの活性化など大きな効果があることが広く認められている。本授業では、現代社会の健康問題と向き合い、スポーツが健康にもたらす効果を理解し、学生が生涯にわたって心身の健康保持増進を実行するための基礎知識を修得することを目的とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	地域と私	「地域」に焦点を当てて学ぶ意義を理解し、地域ではどのような課題が存在しているかを学ぶために、テーマごとに学修する。過疎地域を対象として、現状と課題を知った上で解決策を考える。また地域の行政担当者などの実務経験者より、現状や課題、現在取り組んでいる対応策について話を聞く。	集中
	北河内を知る	本学と大学が立地する「北河内」に焦点を当て、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題を学び、地域との関わり方を考える。本授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。	集中
	ソーシャル・イノベーション実務総論	以下の4点を学ぶ。①ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。②ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことを理解する。③グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。④変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを発揮する自らの職業観を確立する。	
	摂南大学PBLプロジェクトI	地域活性化活動を行う。①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う。⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。	集中
	摂南大学PBLプロジェクトII	「摂南大学PBLプロジェクトI」と同様に地域活性化活動を行う。①調査：地域で予定されているプロジェクトを調査し、実現可能を探る。②企画：具体案を立て、評価（実現可能性、コスト、実施期間、有効性）を行い、詳細な実施計画を立てる。③関連する団体に企画をプレゼンテーションし、プロジェクトの妥当性を評価する。④実施：実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関連機関に報告し計画の修正を行う。⑤結果報告：プロジェクトの終了時に関連機関に実施結果と次年度以降でのプロジェクトの展開について報告を行う。	集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	地域志向系	地域貢献実践演習	これまで講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを学生が主体的に取り組む。その過程のなかで、理論と実践の結び付け方を体験を通じて学び、新たな成長につなげていくことが目的である。具体的にはグループ単位で地域担当者と密に連携しながら、課題の抽出から解決までの年間計画を立て、現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目的達成にチャレンジしていく。	集中
	共通基礎系	大学教養入門	本授業は、大学生としての教養を身に付けるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することである。本授業では、教養入門書を用いてABD（アクティブ・ブック・ダイアログ）読書法や協働学修の習慣を身に付けるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力を身に付けることを目標とする。	共同
		大学教養実践	チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践授業である。「大学教養入門」のステップアップの講座としての位置づけである。大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身に付け、その知識をもとに協働学修により社会課題の解決を体験する。そして、知識としての教養を実社会での実践に結びつけることを目指す。	共同
		数的能力開発 I	社会に出るにあたり必要とされる数的能力を学修する。社会人として数的能力が必要となる場面は多く、就職活動でも筆記試験で算数・数学はよく使われる。本授業では、将来のキャリア形成に活かせるよう、社会人として必要となる数的能力を高めることを目的とする。自力で解く、教員による解説、類題を解くという流れで、段階的に実践問題に取り組む。さまざまな問題を確実に理解し、解ける力を身に付けていく。	
		就職実践基礎	社会人となってから必要となる基礎学力を総合的に学修する。数的能力・言語能力・一般常識といった各項目は、社会人として仕事をする上で必須のものであり、大学時代から取り組むことが重要である。本授業では、数的能力・言語能力・一般常識について、幅広く学修していく。	
		時事問題 I	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会におけるさまざまな出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。本授業では、特に「政治・経済」「暮らし」のテーマを取り上げる。	
		時事問題 II	時事問題を取り上げて講義する。時事問題とは、現代社会におけるさまざまな出来事やニュースをいう。時事問題について関心を持ち、理解し、考える力を養うことで、日本と世界を取り巻く諸問題に対して、適切に思考し判断を下すことが可能となる。本授業では、特に「社会環境」「国際問題」のテーマを取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
教養科目	教養特別系	教養特別講義Ⅰ	<p>本授業は一部の科目を除き、全学部共通科目であり、他学部・学科の学生と同じ教室で学修する総合大学ならではの授業である。テーマは実践的で社会のニーズに即した話題を取り上げて開講する。修得した科目の1科目目を「教養特別講義Ⅰ」として単位認定する。</p> <p><開講科目></p> <p>「SDGs に学ぶ世界の課題」「ダイバーシティとコミュニケーション」「チームビルディング」「マーケティングと歴史」「ライフサイエンスの基礎」「AI ビジネス創造実習」「社会福祉論」「現代ビジネス論」「株式投資と起業家育成」「役立つ金融知力」「犯罪被害者の支援と法的救済」「身近な犯罪から自分、家族、まちを守る」「現代韓国論」「ものづくりインターンシップ基礎」「ものづくりインターンシップ実践」「ものづくり海外インターンシップ」「青少年育成ファシリテーター養成講座」「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」「地域実習」</p>	
		教養特別講義Ⅱ	「教養特別講義Ⅰ」と開講科目は同様。修得した科目の2科目目を「教養特別講義Ⅱ」として単位認定する。	
		教養特別講義Ⅲ	「教養特別講義Ⅰ」と開講科目は同様。修得した科目の3科目目を「教養特別講義Ⅲ」として単位認定する。	
		教養特別講義Ⅳ	「教養特別講義Ⅰ」と開講科目は同様。修得した科目の4科目目を「教養特別講義Ⅳ」として単位認定する。	
		教養特別講義Ⅴ	「教養特別講義Ⅰ」と開講科目は同様。修得した科目の5科目目を「教養特別講義Ⅴ」として単位認定する。	
外国人留学生対象科目	日本事情 FⅠ	<p>年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察する。日本の年中行事やしきたりについて理解を深め、考察したことや体験を通して学んだことを日本語で表現する力を身に付ける。日本文化・社会と自国の文化・社会および他国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できるようになることを目標とする。</p>		
	日本事情 FⅡ	<p>日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりする。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学ぶ。日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会および他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とする。映画についての情報・その他背景知識についてまず説明し、映画の場面をいくつか視聴する中で内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題を出し、テーマについてディスカッションをした後、「書く」練習を行う。</p>		
	日本語読解 FⅠ	<p>さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行うことで、語彙力を向上させる。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 外国人留学生対象科目	日本語読解 FII	さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行う。語彙力を向上させ、専門分野の文章を読むための読解力の基礎を身に付ける。	
	日本語文法 FI	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回、講義テーマを決め、教員による解説と練習を繰り返しながら進め、中上級～上級の文法項目が運用できるようになることを目標とする。	
	日本語文法 FII	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回、講義テーマを決め、教員による解説と練習を繰り返しながら進め、高度な日本語運用能力を身に付けることを目標とする。	
	日本語表現作文 FI	レポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身に付けることを目指す。レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。①レポート・論文の文体で書ける、②読んだ内容を要約できる、③段落分けして書ける、④経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける、⑤信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できるようになることを目標とする。	
	日本語表現作文 FII	実際にレポートを作成することを通して、レポート・論文の書き方を守ってレポートが作成できるようになることを目指す。テーマを決め、実際にレポートを作成していく。①レポート・論文の文体で書ける、②レポート・論文の書き方を守って書ける、③アウトラインに沿って書ける、④信頼性の高い資料を集められることを目標とする。	
	日本語総合 FI	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。JLPTのN1に合格していない場合には、その対策も行う。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	外国人留学生対象科目	日本語総合 FII	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。JLPT の N1 に合格していない場合には、その対策も行う。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。実際に日本社会で使用されている生教材を使って速読を行ない、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取る練習をする。
		専門日本語 FI	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。本授業では、Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目標とする。
		専門日本語 FII	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。ビジネス場面で使用する日本語表現、異文化ビジネスコミュニケーションについて学ぶ。用意した資料およびタスクシートをもとに講義、ディスカッション等を行う。ビジネス日本語・ビジネスマナー・日本の会社についての知識を得ることによって、日本での就職活動および就職に必要な知識やスキルを身に付けることを目標とする。
		日本語会話 FI	講義を理解する際に役立つメモの取り方を学ぶと同時に、アカデミック場面における口頭発表のスキルを養う。さまざまなテーマに関する話を聞き、聞きとった内容をメモした後、その内容について発表する。①まとまりのある話を聞いて、適切にメモを取ることができ、②適切な表現を用いて、論理的かつわかりやすい発表ができるようになることを目指す。
		日本語会話 FII	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う方法を進める。また、コースの後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う方法をとる。社会的な話題について、日本語で論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。
	帰国学生対象科目	日本事情 RI	年中行事やしきたりなど日常生活に見られる日本の伝統文化から、日本人の価値観や考え方について、体験もまじえながら考察する。用意したスライドやプリントに沿って、テーマについて学び、講義後に理解度の確認小テストを行う。その後、クラス全体でフィードバックを実施する。体験で学んだことはレポートを作成し、学生同士で意見交換を行う。異文化理解を深め、異文化に対する柔軟な見方、態度を養い、日本語の表現能力(技術)を高めることを目指す。

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目 帰国学生対象科目	日本事情 RII	日本文化・社会について、日本映画を視聴して観察したり考察したりする。また、映画の台詞や使われている場面から日本語の文法や表現についても学ぶ。各映画について、まず映画についての情報・その他背景知識について説明し、映画の場면을いくつか視聴する。その後、内容理解・練習問題・その他の各種タスク問題を行い、テーマについてディスカッションした後、「書く」練習をする。日本文化・社会について観察し、自国の文化・社会および他の受講生の国の文化・社会と比較考察し、さまざまなテーマについて日本語で自分の考えが表現できることを目標とする。	
	日本語読解 R	さまざまな分野の一般書を読み、内容を文章にまとめたり、口頭で説明したりすることを通して理解を深めながら読解力の向上を目指す。また、読解を通して語彙力アップを図るとともに、文章を音読することによって漢字の読みに強くなることを目指す。各自で文章を読んだ後、音読し、漢字の読みを確認する。その後、内容を確認する。また、読んだ内容を要約し、口頭で説明する練習を行う。専門分野の文章を読むための読解力の基礎を身に付けることを目標とする。	
	日本語文法 R	中上級～上級の文法項目を取り上げる。文法項目の用法を確認し、その文法項目が使われている会話を聞いたり、作文や会話をしたりすることを通して、適切に使えるようになることを目指す。各回テーマを設け、解説と練習を繰り返しながら進める。中上級～上級の文法項目が運用でき、高度な日本語運用能力を身に付けることを目標とする。	
	日本語表現作文 R	レポートや論文の基礎を学び、レポート・論文の文体と書き方を身に付けることを目指す。レポートや論文の書き方について解説し、書く練習を行う。①レポート・論文の文体で書ける、②読んだ内容を要約できる、③段落分けして書ける、④経過説明、分類、定義など、書きたい内容に合う表現を使って書ける、⑤信頼性の高い資料を集め、ルールを守って引用できるようになることを目標とする。	
	日本語総合 R	①まとまった内容の文章から必要な情報を読み取る、②まとまった内容の文章の大意を把握する、③できるだけ速く①と②をできるようにすることを目標とする。実際に日本社会で使用されている生教材を使って、速読を行ない、できるだけ速く、自分に必要な情報を読み取るための練習をする。日常生活に必要な文章から、大学生活において求められるレベルのある程度専門性のある文章まで、レベルの異なる文章をできるだけ速く読み、自分に必要な情報を読み取れるようになることを目指す。	
	専門日本語 R	相手との関係や話す・書く目的、使用する媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目指す。Eメールの書き方、自己PRの書き方、話の展開のさせ方を扱い、解説と練習を中心に進める。相手との関係、伝達内容、使用媒体に応じた適切な話し方・書き方ができるようになることを目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	帰国学生対象科目	日本語会話 R	日本・国際社会におけるさまざまな問題や話題について日本語で議論する能力を伸ばす。さまざまな問題・話題に関するニュース等を見て、話し合う方法を進める。また、後半は学生各自が興味のある話題を持ち寄って、話し合う方法をとる。社会的な話題について、日本語で論理的に意見を述べるができるようになることを目指す。	
		教職課程の設置により開設する授業科目	英語科教育法 I	学修者が第二言語・外国語を修得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校および高等学校における年間を通じた学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括の仕方について理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、さまざまな教材や ICT の活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
		英語科教育法 II	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。	
		英語科教育法 III	中学校や高等学校の英語教員を目指す上で、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に①リーディングとライティングの指導、②文字と文法に関する指導、③語彙・表現に関する指導に焦点を当てて、学習指導要領の「3つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。	
		英語科教育法 IV	現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、本授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	教育原理	「教育」という事象を成り立たせている諸理念・諸概念にはどのようなものがあり、また、それらの諸理念・諸概念が「教育」の思想や歴史のなかでどのように現れ、変遷してきたのかについての基礎的な知識を獲得することを目指す。さらには、その基礎的な知識を踏まえた上で、現代の「教育」のあるべき姿について、学生それぞれが自分なりに考えを深め、自分なりの理想の「教育」を構想することができるように、思考力や感性を磨いていく。	
	教師論	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職を目指すことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供する。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき、関連するテーマについてディスカッションを通して理解を深める。	
	教育経営論	教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。まず教育課程はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦中・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。特に、これからのカリキュラム開発では新学習指導要領で言われている「社会に開かれた教育課程」、「アクティブ・ラーニング(能動的学修・学習)」そして「カリキュラムマネジメント」に注目し、その意義等について理解する。	
	教育社会学	近年、学校教育現場ではさまざまな問題を抱えるようになってきた。一般的に私たちはそうした問題に対し、学校教育内部でのみ対処し解決しようとする傾向がある。しかしながら、そうした問題の多くは、時に関係のないような社会的、経済的、政治的、そして文化的なシステムと密接な関係性をもっていることが多々ある。そこで本授業では、教育現場で生じている諸問題を、特に社会学的観点から捉え、検討していくことを目標とする。特に、最近社会問題化している子どもの貧困や教育格差問題等を扱いながら、体系的に現代社会と教育の関係性について学び、教育社会学の理論や概念を学んでいく。	
	教育心理学	学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身に付ける。具体的には、幼児、児童および生徒の心身の発達および学習の過程や意欲、学校における人間関係、個に応じた教育について学ぶ。また、学習活動と関係の深い人間の認知活動についても理解する。その上で、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。さらに、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	特別支援教育論	教職課程「特別の支援を必要とする幼児、児童および生徒に対する理解」に対応する科目である。「障害」という概念を再構成するとともに、特別支援教育の理念・制度・方法についての歴史の変遷から最新の動向について整理し、現状と課題について考察する。貧困、被虐待、渡日等の特別な教育ニーズのある子どもに対する指導・支援のあり方についても取り扱う。通常学級で多様な教育的ニーズのある子どもがともに学びともに育つ教育を展望する。	
	教育課程論	教育課程（カリキュラム）とは何かについて考える。まず教育課程はどのような目的から、どのような内容で編成されているのかについての歴史的経緯を考察する。同時に学校教育システムとの関わりから、その意義や役割を理解する。そして、わが国における学習指導要領の変遷や戦前・戦中・戦後のカリキュラムの実践的開発を知ると共に、これからのカリキュラム開発の課題について考える。特に、これからのカリキュラム開発では新学習指導要領で言われている「社会に開かれた教育課程」、「アクティブ・ラーニング（能動的学修・学習）」そして「カリキュラムマネジメント」に注目し、その意義等について理解する。	
	道徳教育論	日本や世界の「道徳教育」が歴史的にどのように成立し変遷してきたのか、また、そもそも「道徳教育」を「道徳教育」とらしめている一般的な原理とはいったい何なのか。「道徳教育」の歴史や原理に関するこうした基礎的な知識を身に付けることを目指す。また、この基礎的な知識を踏まえた上で、さらにはより具体的かつ実践的に、現代の日本の学校における「道徳教育」の目標や内容について理解し、現代の日本の学校において行われるさまざまな「道徳教育」の指導方法を身に付けていく。	
	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	特別活動の歴史と意義、方法論について学ぶ。また、実践上の課題を捉え、学級活動の指導計画の作成や問題解決に至る関わりについて理解を深める。総合的な学習（探究）の時間の中心である探究的な学習の過程について学ぶ。また、学校が定める目標や内容のもとで総合的な学習（探究）の時間の指導計画の作成や評価について理解を深める。	
	教育方法論	教職課程「教育の方法および技術」に対応する科目である。授業は、①教育方法・教育思想の歴史の概観、教育目標、教育内容、学習、発達、学力、教材論、計画、評価等に関する基礎的な理論、②授業の設計から評価に至る授業構成の理解、③学習指導を組織化するための基礎的な授業技術と方略の修得、に関する講義と、④授業実践に関するミニ講座によるワーク、⑤グループでの共同作業による教材開発とマイクロ・ティーチングの実施体験により構成する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	生徒指導論(進路指導を含む)	生徒指導、進路指導は、学校教育をすすめる上で重要な役割を占めている。いじめ、不登校、学級崩壊、暴力行為や非行、受験競争、進路のミスマッチなど、生徒指導・進路指導上の諸問題については、その解決の重要性が認識されている。本授業では、生徒指導・進路指導・キャリア教育の意義について理解を深め、実践を進める方法原理について基礎的な知識を獲得し、学校組織を構成する教職員、学校外部の専門機関や関係諸団体と協力して解決・改善を目指そうとする素養を養う。	
	教育相談(カウンセリングの基礎を含む)	教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識(カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む)を身に付ける。特に学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身に付ける。	
	教育実習Ⅰ	①教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づいて、受講者は、演習や実習を行う。②教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒理解・生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。③教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深め、実践できる素養を養う。	
	教育実習Ⅱ	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上の実習を行う。①教育実習校において、教科指導、特別活動の指導、生徒理解・生徒指導などの実習を行う。また、大学において事前および事後の指導を受ける。②事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。③教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の指導の下で行う。④事後指導では、教育実習体験報告および反省を行い、教育実習のまとめとして、総括を行う。	
	教育実習Ⅲ	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上の実習を行う。①教育実習校において、教科指導、特別活動の指導、生徒理解・生徒指導などの実習を行う。また、大学において事前および事後の指導を受ける。②事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。③教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の指導の下で行う。④事後指導では、教育実習体験報告および反省を行い、教育実習のまとめとして、総括を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教職課程の設置により開設する授業科目	教職実践演習(中・高)	<p>さまざまな学修を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認する。具体的には、①ガイダンス、②教科における実践上の課題、③教科指導・生徒指導・進路指導の実際、④今日的な教育問題に関する学修からなる。①では、科目の目的等と各自の課題について確認する。②では、教科の専門分野に関する個々の課題についてその分野を専門とする教員の指導、実践上の課題について教科教育法担当教員の指導を受ける。③では、市教育委員会と連携し中学校を2回訪れ、授業見学後、中学校教員の指導を受ける。④では、教職課程教員がそれぞれの専門を活かし、「いじめの現状」「いじめ問題への取り組み」「ジェンダーと教育」「学校の中のマイノリティ」「『甘え』について考える」「『自律』について考える」「体罰について」「授業料無償化と奨学金について」「カウンセリングマインドと生徒対応」「『自分』を知る」をテーマに考察する。</p>	
	地域連携教育活動Ⅰ	<p>大学近隣の小学校あるいは中学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。具体的には、実際の教育現場を知ること、自身の能力や適性を考え課題を自覚すること、社会的倫理観を確立すること、多様な相手に合わせたコミュニケーションがとれることを目標とする。また、こどもの実態を知り、教科指導や生徒指導等を観察、可能であれば参加することで、実践的な指導の基礎固めを行う。</p>	
	地域連携教育活動Ⅱ	<p>「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の小学校あるいは中学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。具体的には、実際の教育現場を知ること、自身の能力や適性を考え課題を自覚すること、社会的倫理観を確立すること、多様な相手に合わせたコミュニケーションがとれることを目標とする。また、こどもの実態を知り、教科指導や生徒指導等を観察、可能であれば参加することで、実践的な指導の基礎固めを行う。</p>	